
第2回スマブラ×逃走中

ワーグナー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第2回スマブラ×逃走中

【Nコード】

N3627N

【作者名】

ワグナー

【あらすじ】

スマブラ×逃走中第二弾！！

今回の逃走の舞台は、ジイーアールオオまくGERO国。

ハンターからスマブラメンバーは、無事逃げ切れることができるのか！？

始まりは、突然（前書き）

スマブラ×逃走中を見てからこの話を読んだ方が良かったかも・・・。

始まりは、突然

作者「UNKO共和国のスンプラ×逃走中を見てからこれを読んでくださいね」

マリオ「あのなあ・・・作者・・・9月1日からじゃなかったのかよ・・・。」

ルイージ「そう、そう。」

作者「いや〜我慢出来なくなってます〜。」

マリオ「え〜・・・。」

ルイージ「もう、やるの?」

作者「良いじゃねえか。」

マリオ「今回は、44人で逃走中やるんだろ?」

ルイージ「大丈夫なの?」

作者「勿論 感想をくれれば、やる気が起きてまた書こうって気になれるから」

マリオ・ルイージ「へ、へえ・・・。」

作者「それでは、始まるよー!!さっ、GERO国に、移動、移動」

「マリオ」はい、はい。めんどくさいな……。」

ルイージ「作者^{ワグナー}、調子に乗ってるよ。」

始まりは、突然（後書き）

マリオ「作者のテスト勉強は良いのか？」

作者「良い。」

ルイーダ「ちょｗｗ」

逃走者紹介（前書き）

文字数かなり使ったなあ・・・。

逃走者紹介

逃走者紹介

マリオ

この小説の主役（一応）。

ボケるのが大好き。

ピーチに片思い。

金に目が無い。

前回は、2番目に捕まったのでリベンジに燃える。

ルイージ

マリオの双子の弟。

突っ込みが多い。

その割には臆病でオバケが大の嫌い。

前回は、鎖を引き、一番始めに捕まった。

リベンジなるか。

ピーチ

マリオやルイージにいつも助けてもらっているお姫様。

おっとりとした口調で喋る。

しかし、怒らせると怖い。

前回、牢獄では、ほとんど寝ていた。

クッパ

マリオの永遠のライバル。
パワーはあるが足はやや遅いので、遠距離の攻撃は苦手らしい。
ガノンドロフと仲が良い。
前回は、中盤まで残っていたが、リュカに巻き添えにされた。
その後、リュカを牢獄でボコボコにした。

ドンキーコング

バナナが大好きなジャングルの王者。
同じネクターを何個も持っているらしい。
大きな身体のわりには足が速い。
前回は、電卓をいじっている途中で確保された。

デイディーコング

ドンキーの弟分。
こちらも、バナナが大好き。
前回は、リュカに通報され、あっさり確保される。
その後、リュカを牢獄でボコボコにした。

ヨッシー

食いしんぼうな恐竜。
マリオの世話役(?)でもある。
ルイージはオマケらしい。
前回は、残り5分まで生き残ったが、惜しくも確保される。

ワリオ

自称マリオの永遠のライバル。

ニンニクが好物。

前回は、自首しようとしたが、リュカに通報され、惜しくも確保。その後、リュカを牢獄でボコボコにした。

リンク

ハイラルの勇者。

ゼルダに片思い中らしい。

しかし、修行に夢中でそれどころでは無いらしい。

前回は、UNKOタワーに間に合わず、100人の特殊ハンターに確保された。

ゼルダ

こちらと同じく姫である。

ピーチにライバル心を抱いているらしい。

前回は、少し、ミッション時間に間に合わず万歩計の音のせいで、確保された。

ガノンドロフ

リンクの永遠のライバル。

クッパと仲が良い。

前回は、見事、逃走成功し、216万円を手に入れた。
今回も、逃走成功なるか。

トウンリンク

日々、修行を積んでいる小柄な勇者。
おっちょこちょいな所もある。

UNKOタワーで待機していたが、ハンターに追われて確保された。

サムス

女性バウディングハンター。（賞金稼ぎ）

逃走中にはゼロスーツサムスで出るらしい。

前は、リュカに通報され、確保された。

その後、リュカに向かって牢獄を壊すほどのゼロレーザーを放つ。
確保者のほとんどが大怪我をした。

ピット

女神パルテナの親衛隊長。

足が速いらしいが、普通レベルである。

前は、ミッションに参加しようとする前に捕まった。
汚名返上なるか。

ポポ

アイスクライマーの1人。

ナナと2人1組だが、逃走中では別々になる。

ナナとはバカップル。

山登りが好き。

前は、リュカに通報され、確保された。

その後、リュカを牢獄でボコボコにした。

ナナ

アイスクライマーの1人。

頼り無い彼を密かにサポートするのが彼女の役割。

ポポとは同じくバカップルでよく一緒に山登りに行ったりする。

前回は、頑張っていたが、リュカに通報され、確保された。

その後、リュカを牢獄でボコボコにした。

ロボット

ロボットなのだが、地味に足が速い。

ウオッチと仲が良い。

片言で喋る。

前回は、ミッションに参加中時に、確保。

惜しい。

カービィ

ヨッシーとは同じく食いしん坊。

お調子物で、マイペースな性格。

前回は、自首しようとしたが、電話ボックスが中々見つからず、へりに見つかり確保された。

メタナイト

世界一かつこいいー頭身。（仮面があれば）

何でも、積極的。

今回は、ウルフと電話中に確保された。
今回は、目立つ活躍をしたい。

デデデ

ププランドの大王。

『ぞい』が口癖。

足はガノンと最下位争いを出来るほどの遅さ。
今回は、リュカに通報され、確保された。
その後、リュカを牢獄でボコボコにした。

ピクミン&オリマー

オリマーはスマブラメンバー唯一の婚約者で子供もいる。
逃走中にはオリマーのみ参加。
ピクミンは、牢獄のそばに待機。
最後のミッションに向かうも惜しくも確保。
妻と子のために、今回は、逃走成功なるか。

フォックス

スターフォックスのリーダー。
真面目な性格をしている。
頭脳戦なら得意。

今回は、後半のミッションを全てやったりスネークに助けられたりしたが、惜しくも確保。
今回こそ逃走成功を狙う。

ファルコ

クールなエースパイロット。
かっこつけが多い。

すぐ、行動するタイプ。

前回は、ミッシヨンもそれなりにやったが、残念ながら確保された。
その後、牢獄で黒焦げになっている確保者達を見る。

ウルフ

フォックスやファルコのライバル。

荒い性格で、口も生意気だが、実は寂しがりや。

前回は、目立つ活躍もせずに、確保された。
今後に期待。

キャプテン・ファルコン

レーサーのため、とても素早い。

悪い奴にはファルコンパンチ。

最後の方まで残っていたが、準決勝で確保される。

ピカチュウ

ここでは、

ポケモン界のスター。

非常に他人思い。

ポケモンもちやんと喋る。

前回は、橋の下に隠れていた所をリュカに通報され、確保された。
その後、リュカを牢獄でボコボコにした。

レッド（ポケモントレーナー）

12歳の少年。

ゼニガメ・フシギソウ・リザードンの持ち主。

前は、ほとんどスーパールにいた。

だが、後半で確保される。

ゼニガメ

ここでは、

逃走中、初参加。

素早い小柄な身体をどこまで生かすか見物である。

フシギソウ

ここでは、

逃走中、初参加。

足はあまり速くないが、草原に隠れるのは得意。

体力は、あまり無い。

リザードン

ここでは、

逃走中、初参加。

炎は、マスターによりハンターから見えないようにしてくれた。

（暗闇だとハンデのため）

他の逃走者からは、炎が見える。

あまり、足が速くない。

ルカリオ

ここでは、

波動の使い手。

しかし、逃走中では、波動を使うことは禁止されている。

前回は、最後のミッションに向かう途中でドクターマリオに通報され、確保。

今後は、慎重に行きたいらしい。

プリン

ここでは、

小柄なため隠れるのが得意。

しかし、足はそんなに速く無い。

前回は、公園でカービィと一緒にいたら、ハンターに追われ確保。やはり、ハンターが恐いらしい。

マルス

正義感が強い青年。王子でもある。

ソニック、ファルコンに次いで3番目に足が速いらしい。

前回は、序盤でヨッシーに巻き添えにされた。

今回こそは、頑張りたい。

アイク

自称、クールな青年。

お肉が大好き。

前回は、ラジコンを手に入れるなど、最後の方まで残っていたが、ミュウツーに通報されて、ラジコンを生かせずに確保。

賞金の使い目は、やはり肉。

ネス

超能力を使う少年。

しかし、逃走中では超能力を使うことは禁止されている。

前回は、ドンキーを待っている最中に確保された。

リュカが裏切り者だと知って1番精神ダメージが大きいのは彼。

リュカ

ネスより、年下の臆病な少年。

だが、やるべきことはきちんとする立派な少年でもある。

前回は、裏切り者として、十分影が濃い存在となった。

確保された後、牢獄でボコボコにされる。

Mr.ゲーム&ウォッチ

通称『ウォッチ』

ロボットと、仲が良い2次元。

セリフは全てカタカナ。

黒いので逃走中には向いている。

前回は、ミッションはやらない宣言をした瞬間に確保された。

なので、ミッションを今回はやりたいと思っている。

スネーク

不可能を可能にする男。

逃走中はダンボールに隠れることは出来ない。

どこに隠れるか、いつもマップを見て考え中らしい。
前回は、前半は隠れ、後半はミッシヨンをやったり、フォックスを助けたりしたが、残り数分で確保された。

ソニック

スマブラメンバーの中で一番足が速いハリネズミ。
この足をどういかすかが、見物である。
前回は、足を生かし切れず、3番目に確保された。
今回も逃走成功の期待が高まる。

ロイ

赤髪の剣士。
前回は、通報部隊として出ていたが、誰も通報出来ずに、終了。
今回は、見せ場を作れるか。

ドクターマリオ

スマブラメンバーと、リストラメンバーを合わせてもダントツ頭が
良い医者。

前回は、通報部隊として出ており、ルカリオを見事通報した。
知恵を使った逃走が見られるだろう。

ミュウツー

遺伝子ポケモン。

前回は、通報部隊として出ており、見事、アイクを通報した。
伝説のポケモンの意地が見られるだろう。

子供リンク

小柄な勇者。

前は、誰も通報出来ずに終了。

ミッションを積極的にやって行きたいらしい。

ピチュー

子鼠^{こねずみ}ポケモン。

メンバーの中で1番弱い。

前は、誰も通報出来ずに終了した。

小さいため、隠れるのが得意。

その他

ハンター

脅威のスピードと、桁違いの持久力を持つアスリート集団。

逃走者に次々と、襲い掛かる。

作者

ご存知、この小説の作者のワーグナー。

今回も、牢獄の近くで待機。

マスターハンド

一応、神。

みんなの踏み台にされる。

そつと、全員のことを見守っている。

クレイジーハンド

こちらも、神。

マスターより強い。

今回も、打ち上げをするかどうか考え中。

ゴキポン

作者の友達。

小説も書いている。

今回も出るらしい。

綾鼈甲

同じく、作者の友達。

へりでカービイを通報し、確保させた。

しかし、ガノン、スネーク、フォックスの活躍により綾鼈甲が乗っていたへりは大破され、どっかに吹っ飛んでった。

今回も出るらしい。

逃走者紹介（後書き）

合計44人が逃走します。

うん．．．大変だあ．．．。

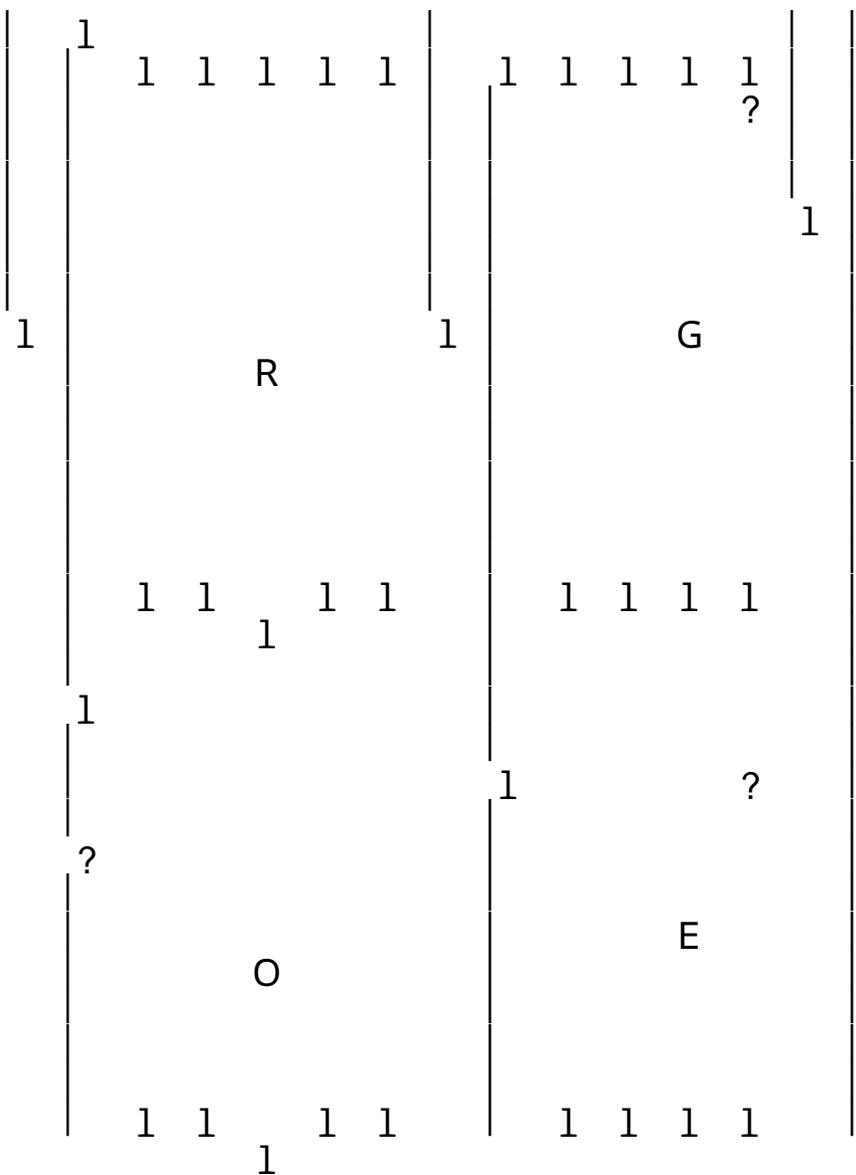
エリア紹介（前書き）

エリア紹介です。

少し、手抜き（汗

エリア紹介

今回の逃走舞台は、UNKO共和国の隣りの国、ジーイーアールオセクGERO国。



広さは東京ドームおよそ30個分。

逃走者はここで、240分間逃げ切れば、逃走成功。

賞金は、1秒間に、200円ずつ上昇。

逃走成功で288万円。

自首をすることも出来、公衆電話で自首をすることも可能。

自首をすれば、それまでの賞金を手に入れることが出来る。

？が公衆電話。

また、この国はUNKO共和国より、都会でビルやマンションがと
ても多い。

エリア紹介（後書き）

マリオ「UNKO共和国と、マップはほとんど一緒だな。」

作者「だって・・・上手く出来ないもん・・・。」

GAME START (前書き)

恐怖のオープニングゲーム。

今回、鎖を引くのは誰だ？

GAME START

ある日の昼、GERO国の首都、Rランドに集められた44人の逃走者達。

44人の目の前には、4体のハンターボックス。

ピチュー「うわあゝ・・・近くで見ると迫力あるなあ・・・。」

すると、かん高い声がスピーカーから聞こえる。

『これより、ゲームを始める。君達の目の前にある4体のハンターは鎖で繋がれており、44本のうち1本がハンターを放出するハズレの鎖。それを引くと、ハンターが放出され、ゲームがスタートする。』

ロイ「うわあゝ・・・引きたくないなあ・・・。」

なお、鎖を引く順番はくじ引きで決められる。運任せだ。

全員「いつせーので!!--」

全員がくじを引いた。

ドクターマリオ「げっ、俺が1番かよ・・・。」

1番始めのドクター。

マリオ「やったゝ最後だゝ」

44番のマリオ。

マリオで始まり、マリオで終わるようだ。

1番目は、ドクターマリオ。

マルス「ドクター、頑張れよ!!」

ファルコン「健闘を祈るぜ!!」

ドクターマリオ「あ、ああ……。」

ドクターが、鎖の前に立つ。

ドクターマリオ「うわぁ……怖いな……ハンター……。」

ファルコ「何色引くんだ?」

ドクターマリオ「白だな。白衣にぴったりの色だ。」

スマブラメンバーの中で最も、頭が良いドクター。

ハンター放出を免れることが出来るのか……。

ドクターマリオ「行くぜ!!」

セーフか、ハンター放出か……。

グイッ

ドクターマリオ「よっしゃー!!」

ドクターマリオ、クリアだ。

子供リンク「うわぁ〜滅茶苦茶緊張したよ・・・。」

ドクターマリオ「じゃあ、皆、頑張れよ!!」

クリアした者は、離れた所からスタートすることが出来る。

2番目は、デデデ。

デデデ「おっ、わしだぞい。」

鎖の前に立つデデデ。

カービィ「何色にするの〜」

デデデ「金色にするぞい!!大王には、やはり似合ってるぞい!!」

一応、ププブランドの大王のデデデ。

デデデ「行くぞい!!」

セーフか、ハンター放出か……。

グイッ

デデデ「やったぞい!!」

デデデ、セーフ。

デデデ「皆、頑張るんだぞい!!」

フシギソウ「良いなあ……。」

ネス「早く、この緊張感から解放されたい。だけど、僕、37番目なんだよなあ……。」

ファルコン「俺なんて、41番目だぞ。」

3番目は、リンク。

ゼルダ「リンク頑張って!!」

トウーンリンク「頑張ってください!!」

たくさんの、声援を受けながら鎖の前に立つハイラルの勇者。

リンク「うん．．．あつ!! ルイージさん、今回もココにコケ色がありますよ。」

マリオ「おっ! ルイージ、今回も、それを引けよ!!」

ルイージ「嫌だよ!! 絶対にコケ色だけは引きたくない!!」

前回、ルイージは、コケ色の鎖を引き1番始めに捕まった。

リンク「うん．．．エメラルドグリーンを引きますね。」

プリン「勇者らしい、綺麗な色ね。」

ゼルダ「流石さすがリンクだわ。」

マリオ「ルイージは、ウ○コ色とか．．．。」

ドンキーコング「似合いそうだなww」

ルイージ「う、うるさい!!」

リンク「では、行きますよ．．．。」

セーフか、ハンター放出か．．．。

グイッ

リンク「良かった〜・・・。」

リンク、クリア。

リンクは、みんなに激励を送り去っていった。

4番目は、ルイージ。

ルイージは、無言で鎖の前に行く。

ピーチ「ルイージ、コケ色は？」

ゼニガメ「コケ色！！コケ色！！」

ガノンドロフ「引けよ！ルイージ！！」

ルイージ「嫌だね！！今回は、僕の色の緑を引くのさー！！」

ウォッチ「コケ色ハ？」

ルイージ「良いの！！緑を引くよ！！」

ルイージ以外「ブ〜ブ〜」。

ルイーダ「うるさい!!」

ミュウツー（ムッ、負のオーラが……。）

マリオ「皆、逃げる準備!!」

ルイーダ「そんなことしなくても良い!!」

セーフか、ハンター放出か……。

グイッ

ガコン!!!!

ルイーダ「ギャアアアアアアアアアアアアアアアアアア!!!!!!!!!!
!!!!!!」

ルイーダ以外「やった~~~~~~~~!!!!!!!!!!」

ルイーダ「畜生~~~~!!」

ゲームスタート。

ハンターが目につけたのは、やはり、ルイーダだ。

ピ~~~~~

ルイージ「嫌だあああああああ!!!!!!」

ポンッ

ルイージ確保、残り43人。

ルイージ「もう嫌だ〜・・・。」

ピリリリ

オリマー「確保情報だ。まさか・・・。」

マリオ「ルイージ確保 コケ色を引かないからだ」

ルイージ「トホホ・・・。」

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得出来る、それが・・・

run for money 逃走中

~~~~~

残り239分。

GAME START (後書き)

赤ピクミン「ルイージだっさ。」

青ピクミン「帰れ！」

ルイージ「うぐう……。」「

紫ピクミン「情けないでごわすなあ……。」「

黄ピクミン「男らしくないわ。」「

白ピクミン「まあ、これは運なんだけど、ここまで、ついてない人間は初めてかも。」「

ルイージ「……。」「

## MISSION 1 (前書き)

もうすぐ、夏休みが終わる・・・。

それだと、更新遅くなる・・・。

## MISSION 1

マリオ「長く生き残りたいなあ……。」

1秒でも長く逃げたいマリオ。

マリオ「捕まりたくない。ハンターあっち行け!!」

スネーク「この国は、都会だな……。」

パチンコ店に、入るスネーク。

スネーク「うわっ、うるさいな。」

うるさくて、スネークの声も聞こえない。

スネーク「とりあえず、1番奥に行くか。」

リザードン「普段は、飛んでいるからな。あまり走るのに慣れていないんだ。」

今回、初参戦のリザードン。走るのはあまり得意ではないらしい。

リザードン「フシギソウやゼニガメ、レッドには負けたくないな。」

ライバル心を抱く、リザードン。

カービィ「これが、自首専用のコインか……。」

今回は、GERO国で使われる硬貨が逃走者に1枚ずつ配られている。

その硬貨を使い、公衆電話で自首を宣告すれば、それまでの賞金を獲得することが出来る。

カービィ「うーん……まだ、自首は早いか……。」

サムス「スーツを脱いでもハンターの恐怖心はあるわね……。」

スーツを脱いで逃走中に参加のバウンディングハンター。

サムス「それにしても、ビルが多いわね……。」

逃走成功を狙う。

レッド「今回は、手持ちの3匹も参加してるからね。トレーナーの意地というのを見せたいね。」

手持ちの3匹に負けたくない心を持っているレッド。

しかし、その近くにハンター……。

ハンター「!!！」

見つかった……。

レッド「やっぱり、ゼニガメは早く捕まりそうだな。でも、リザードンは……。えっ!?嘘でしょ!!！」

慌てて逃げるレッド。だが……。

ポンッ

レッド「うわっ!!！」

レッド確保、残り42人。

レッド「もう、終わり!?手持ちの3匹、全てに負けちゃったよ。」

ピリリリー

ゼニガメ「レッド確保。うわ、ダッサ……。。」

フシギソウ「鍛えてないからなあ。」

リザードン「命令だけだな。」

文句を言いまくるポケモン達。

やはり、レッドのことが嫌いなようだ。

マリオ「よし！！2番目に捕まらなかった！！」

自己ベスト更新中のマリオ。

どこまで行けるか。

プリン「うわぁ〜高いビル・・・。」

都会の町並みにುತ್ತとりする のピンク球。

プリン「野生で生きてた頃と全然違うわぁ・・・。」

ファルコン「今回も、ミッションが出たらやるぜ。」

ミッションに積極的なレーサー。

前回は、ほとんどのミッションに取り組んだ。

ピリリリー

ファルコン「おっ、ミッションか?」

メールだ。

ファルコン「やはりか・・・ミッション1・・・。」

ドクターマリオ「これより、Eランド南部にハンターカーを送り込む。」

オリマー「その中には、4体のハンターが入っており、」

トウーリンク「残り210分になると放出される。」

ワリオ「阻止するには、Eランド北部で売ってある武器屋でチューインボムを購入をし、」

クッパ「ハンターカーに投げつけなければならない。」

ルカリオ「但し、ハンターカーを止めるには、チューインボムが3つ必要で、」

ピカチュウ「3人の協力が必要である。」

スネーク「急ぎたまえ。よし！向かうか・・・。」

カービィ「つて、ことはミッションをやるには、自首の権利を捨てなきゃいけないってこと！？それは嫌だ!!」

## MISSION 1

ハンターカーを停止させよ!!

Eランド北部から南部に移動しているハンターカー。

止めるには、チューインボムが3つが必要で、3人が参加しなければならぬ。

但し、チューインボムを買うには、硬貨が必要なため、自首の権利を捨てなければならない。

ガノンドロフ「・・・誰かがやるだろ。」

ミッションに行きたくないガノンドロフ。

当然、動けばハンターに見つかるリスクも高い。

残り、235分。

阻止出来るのか!?

## MISSION 1 (後書き)

2010年、8月28日に逃走中あるよ。

絶対に見よう！

MISSION 1 PART 2 (前書き)

夏休みが終わっちゃう・・・嫌だ！！

## MISSION 1 PART 2

フォックス「うーん・・・距離が遠いな・・・。皆に任せよう。」

ミッションの場所からかなり離れているフォックス。

フォックス「40人以上いるから・・・誰かやるだろ。」

スタッフ「ミッションやりますか？」

ウルフ「やらない。誰かがやるだろ。」

ミッションに興味がない狼。

ファルコ「まだ、200分以上あるんだぜ。今、参加したら体力が持たねえ。」

こちらも、人任せの鳥。

スターフォックス組は、今回、人任せらしい。

カービィ「自首したいし、やらない。」

アイク「遠いし、やらない。」

マリオ「動きたくない。任せる。」

ゼニガメ「ハンターに見つかりたくないから嫌だ。」

デデデ「動くの嫌だぞい。」

ワリオ「誰かやるだろ。」

ウオッチ「無理です。遠すぎます。」

ピチュー「任した。」

次々と、ミッションを嫌がる逃走者達。

だが……。

メタナイト「私は、やろう。ハンター放出なんてさせるか。」

ミッションに向かう一頭身仮面。

スネーク「任務成功のため、俺はやるぜ。」

スネークもミッションに向かう。

ファルコン「おっ、近いな。俺は、行くぜ!!武器屋何処だ?」

ミッションに向かうレーザー。

ヨッシー「私も、やりますよ」

食いしん坊な緑の恐竜もミッションに向かう。

ルカリオ「やるか……。」

波動の勇者も向かう!!

どうやら、参加する気なのは、この5人だけようだ。

トウーンリンク「武器屋、近いんだけど……。ハンターがこっちに来ている……。」

ハンターがいるため、動けないトウーンリンク。

ハンター「!!」

トウーンリンク「しまった!!見つかった!!」

武器屋の様子を覗いた時に見つかってしまった!

トウーンリンク「うわぁ~~~~~~~~!!!!!!!!!!嫌だ~~~~!!」

ポンッ

トウーンリンク確保、残り41人。

トウーンリンク「あゝ……最悪……。」

ピリリー

ゼニガメ「武器屋近くでトウーンリンク確保。」

フォックス「やっぱり、行かない方が良いな……。」

子供リンク「おっ！トウーンに勝った！！リンクさんにも勝ちたいなあ……。」

ファルコン「あれか？武器屋？」

武器屋に辿り着いたレーザー。

ファルコン「すみません、チューインボムくださいって……何だ？お前、こんな所で働いていたのか？」

キノピオ「うん、頑張ってたね。」

硬貨を渡し、チューインボムを受け取るファルコン。

ちなみに、ボムには、ロックがかかっており、栓を抜かないと爆発

しない仕組みとなっている。

ファルコン「よし、ハンターカーは何処だ？」

ハンターカーを探し始めるファルコン。

ファルコン「早く、探さないとな・・・。」

そして、

ルカリオ「チューインボムください。」

キノピオ「あいよ。」

ルカリオ、チューインボム獲得。

スネーク「チューインボム頂こう。」

キノピオ「へい。」

スネークもチューインボムを獲得した！

牢獄

ルイーダ「あゝ・・・なんで、1番始めに・・・。」

赤ピクミン「ルイーダうるさい！ゲキニガスプレー！！！」

ルイーダ「う……。。」

レッド「ル、ルイーダさんが石に……。。」

ルイーダは、ゲキニガスプレーにより石化した。

赤ピクミン「今だ!!紫!!」

紫ピクミン「おう!!ヒップドロップ!!」

ドシーン!!

パリーン!!

石になっていたルイーダは粉々にされた。

ピクミン達「やった」

レッド「ル、ルイーダさん……。ス、スタッフさん、接着剤!!」

スタッフ「どうぞ。」

レッド「あゝもう、めんどくさい……。徹夜だな……。今日は……。」

残り228分。

ミッション終了まであと、18分・・・。

放出を逃れることが出来るのか!?

## MISSION 1 PART 2 (後書き)

2学期が始まると、更新は、2日〜5日に1回の更新になります。

ご了承くださいー！

MISSION 1 PART 3 (前書き)

2学期が始まってしまった・・・。

くそっ・・・。

## MISSION 1 PART 3

ネス「皆、ミッションやってくれているのかな？」

今回は、人に頼るネス。

ネス「やってくれるよね……。」

リュカ「僕、もう目立ちたくない……。」

前回のショックが大きいリュカ。

動きたくないようだ。

リュカ「裏切るんじゃないか……。」

後悔先に立たず、だ。

ゼルダ「うーん……ここは、何処なのかしら？」

都会の町ですっかり迷子になってしまった姫。

ゼルダ「安全な所……と言っても何処なのかしら？」

大丈夫では無い……。

ブオー……。

ピーチ「あ、あれが、ハンターカー？」

下クロ  
髑髏マークの車を発見したピーチ。

これが、ハンターカーだ。

ピーチ「皆頑張っ……。」

メタナイト「あれが、武器屋……くそ！！ハンターいるじゃないか！！」

後ろ姿のハンターを見つけたメタナイト。

メタナイト「武器屋に行けないじゃないか……。向こう行け……。」

上手く、動けない。

ロボット「今回こそ、ウォッチヨリハ、長ク生き残りタイデスネ……。」

ウォッチにライバル心を抱くロボット。

ロボット「頑張りマス。」

科学の力が何処まで生かされるのか。

ヨッシー「あゝお腹空いたから止めて。」

諦めた緑の恐竜。

ヨッシー「おっ、ここにも、生ゴミが」

モグモグ、バグバグ……。

最近、ゴミが減っているのは、こいつのお陰かもしれない。

ファルコン「ハンターカーあつたぜ!!」

自分の自慢の足でハンターカーに追いついたファルコン。

ファルコン「おらっ!!」

ピト……。

ファルコンは、ハンターカーにチューインボムを投げつけた。

ファルコン「よっしゃー!!」

ボン！！

ファルコン「おわっ！！危なっ！！」

一応、爆風を逃れたファルコン。

ファルコン「危ない・・・でも、ダメージは、与えたようだな。後は、任そつ。」

ドンキーコング「今回は、バナナのことなんて考えないぞ。」

前回、バナナのことを考えていて捕まったジャングルの王者。

ドンキーコング「集中！集中！！」

スネーク「ぬう・・・やはり、ハンターカーは、速いな・・・。」

発見したが、中々追いつくことが出来ないスネーク。

スネーク「急ぐしかないな・・・。」

デイディーコング「兄貴よりも、長く生き残りたいっす。」

目立たない所に隠れるディディーコング。

前回、リュカにより通報された。

ディディーコング「でも、自首っていうのも、考えなくちゃなあ。。  
。。兄貴に電話しようつと。」

携帯電話を取り出すディディー。

しかし。。。

ハンター「!!！」

<タツタツタツタツ。。。。>

ディディーコング「あつ、兄貴？」

ドンキーコング「おつ、どうした？ディディー。」

ディディーコング「今回こそは、兄貴よりも。。。。。」

ポンツ

ディディーコング確保、残り40人。

ドンキーコング「どうした？ディディー。」

ディディーコング「捕まった。。。。。」

ドンキーコング「はあ!？」

ピリリリー

ロイ「確保情報。デイディー確保。残り40人。」

マリオ「うーん……デイディーは、前回、今回と、結構序盤で捕まってるよな……。」

お前が、言うな。

ポポ「いやあ〜登山じゃなくて、こつこつ風になんびり歩くなっていうのは、やっぱり良いねえ。」

都会の町を歩きながら呟くポポ。

ピリリリー

メールだ。

ポポ「通達1……。」

ワリオ「通達1。これより、裏切り者を募集する。」

オリマー「今から、1分間の間、電話で裏切り者を宣告すれば、」

ソニック「裏切り者になることが出来る。」

アイク「ただし、先着1名までとし、位置情報をハンターに伝える。」

クッパ「また、裏切り者は、1人通告すると、10万円を獲得できる。」

子供リンク「しかし、裏切り者も同じようにハンターに追われ、確保されると0円。」

再び、裏切り者は現れるのか・・・？

スタッフ「裏切りますか？」

リュカ「もう、裏切らないよ！！絶対、嫌！！」

お仕置きが、相当効いたようだ。

募集終了まで、残り10秒。

9

8

7

6

5

4

ピリリリリ

「????」もしもし、裏切ります。」

再び、裏切り者が現れた……。

牢獄

レッド「通達?。裏切り者が現れたって!!」

トウーンリンク「はいいい!!?またかよ!?!」

レッド「通報したらボコボコにされるよ。」

トウーンリンク「そうだよね……。」

レッド「それより、ルイーダさんの組み立て手伝って。」

トウーンリンク「はい、はい……。」

果たして、裏切り者は、誰なのか!?

残り218分。

ミッション終了まであと、8分。

残り40人。

残り逃走者

ウオッチ、マリオ、ヨッシー、ピーチ、クッパ、ドンキーコング、  
ポポ、ナナ、ロボット、リンク、ゼルダ、ガノンドロフ、サムス、  
ピット、スネーク、ネス、リュカ、マルス、アイク、ファルコン、  
ソニック、フォックス、ファルコ、ウルフ、ワリオ、ピカチュウ、  
ゼニガメ、フシギソウ、リザードン、ルカリオ、プリン、カービィ、  
デデデ、メタナイト、オリマー、ロイ、ドクターマリオ、子供リ  
ンク、ミュウツー、ピチユウ

MISSION 1 PART 3 (後書き)

青ピクミン「あの石になった人、誰だっけ？」

黄ピクミン「ルイジーじゃなかった？」

白ピクミン「ルイジだっけ？」

紫ピクミン「緑。」

赤ピクミン「どうでも、良いや!!」

作者「ありゃ〜WWルイジかわいいぞ。」

**MISSION 1 PART 4 (前書き)**

高2の2学期って忙しい・・・。

## MISSION 1 PART 4

ルカリオ「あつ！あれだ！！」

ハンターカーを発見したルカリオ。

だが・・・。

ルカリオ「くそっ！！追いつけない！！」

流石さすがに、車には、追いつけない。

ルカリオ「どうすれば・・・ん、そ、そうだ！！この地図を見れば、近道があるな。先回りだ！！」

どうやら、先回りの作戦のようだ。

ルカリオ「行ってみるか！！」

ピチュー「自動販売機だよね、あれ。凄く多いな・・・。」

都会に大量の自動販売機があることに驚くピチュー。

ピチュー「うわあ！！この辺、車が多いや。環境に悪いなあ。」

ポケモンの世界では、車は、ほとんど見かけないからだ。

ピット「そういえば、僕って1番出演作品が少ないんだよねあ。」

実は、そのことに深く考え込んでしまっている天使。

ピット「これは、深刻だ。僕のゲームも作ってもらわなきゃ！」

今は、それどころではない。

メタナイト「おわっ！？ハンターだ！！」

どンドン武器屋から遠ざかって行くメタナイト。

ハンターは、気づいていないようだ。

メタナイト「もう、駄目だ……。誰かに任そう。」

断念した。

子供リンク「プハ〜！！やっぱり牛乳はおいしい！！」

空っぽの牛乳ビンをゴミ箱に捨てる子供リンク。

子供リンク「これで、ハンターが来ても大丈夫なはずさ!!」

そこに・・・裏切り者が見た・・・。

裏切り者「子供リンク、Rランドの南部、ドンキーコング・ホーテの近くにいます。」

ハンター「……………」

近くにいたハンターが子供リンクの確保に向かう!!

子供リンク「ん?うわああ!!」

ドンキーコング・ホーテから離れる子供リンク。

だが…………。

ピ——————

ポンッ

子供リンク「うわああ!!」

子供リンク確保、残り39人。

子供リンク もう終わり!?

裏切り者「よし!!10万円獲得!!」

ピリリリ

フォックス「ぬっ!? 誰か捕まったか!？」

ワリオ「子供リンク確保・・・しかも、裏切り者に通報されている  
じゃないか!！」

フシギソウ「リストラメンバーが、初めて確保されたな・・・。」

リンク「うわぁ・・・リンクが、次々と捕まって行く・・・なんか  
嫌だな・・・。」

子供リンク「誰だよ!!!裏切り者!!!!!!」

ルカリオ「よし!!!先回り成功!!!ここで、ハンターカーを来るの  
を待つだけ・・・。ハンターもいないな・・・。」

すると、ハンターカーがやって来た。

ルカリオ「よし!!!うりゃ!!!」

ピト・・・ボン!!!

ルカリオ「OK!!!」

これで、あと、1人が投げつければクリアだ。

ルカリオ「皆、頼むぞ!!」

デデデ「皆に任したのは良いけど、やっぱり心配だぞい。」

他人任せの大王。

心配でたまらないようだ。

デデデ「早く、やってくれ……。」

スネーク「ぐつ、ちょっと、遠いな……。」

スネークが、ハンターカーにチューインボムを投げつければ、ミッションクリアとなる。

その距離およそ、500m

残り213分で、残り39人。

ミッション終了まであと、3分。

間に合うのか!?

MISSION 1 PART 4 (後書き)

更新が遅くなるのは見逃してください(汗)

MISSION 1 PART 5 (前書き)

やっと、更新……。皆さん、すみません!!

## MISSION 1 PART 5

ウルフ「んゝまだ、全然時間がたつてないな……。」

時計を見ながらそう言う狼。

ウルフ「昼間だから、余計疲れるんだが……。ウオッチとか大丈夫か……?」

ウオッチ「ハックション!!誰か噂シマシタネ……。」

マリオ「ハンター来るな……。。」

念を送り続けているスーパーヒーロー。

マリオ「絶対に来るな……。。」

しかし、その背後から、ハンター……。。

ハンター「!!!!」

タッタッタッタッタ……。。

マリオ「マジかよ!!!!」

本名、マリオ・マリオのスーパーヒーロー。

マリオ「ゼエゼエゼエ……。」

ハンター「……。」

上手く、撒いたようだ。

マリオ「は、速い……。体力持たないな……。」

スネーク「くそっ！！追いつけない！！」

距離を縮めることが出来ない、不可能を可能にする男。

スネーク「もう駄目なのか……。」

すると、赤信号でハンターカーがストップする。

スネーク「おっ！天の助けだ！！行くぞ！！！！」

ハンターのことも考えずにハンターカーに向かうスネーク。

ミッション終了まであと、1分を切った。

スネーク「行ける！行けるぞ！！」

だが、信号が青になる。



ピーチ「物騒な、世の中ねえ。」

コイツだけには、言われたくない。

ピリリリー

ファルコ「おっ、ミッション結果だ。」

リザードン「何々・・・ファルコン、ルカリオ、スネークにより、  
ミッションクリア!!!やるなあ〜!!!」

ゼルダ「みんな流石さすがね・・・。」

アイク「肉・・・肉・・・。ミディアムがそれとも・・・。ブツブツ・・・。」

肉のことしか考えていないアイク。

アイク「ステーキか、焼肉か・・・。」

ハンターの恐怖心より勝る肉。

ある所に建てられたスーパーマーケット。



MISSION 1 PART 5 (後書き)

秋分の日を向かえてから急に寒くなった・・・。

## MISSION 2 (前書き)

MモSスDドOオは上手い!!

モスバーガーと、ミスタードーナッツが合体しているのだ

## MISSION 2

ナナ「今回、人数多いけどまだ少ししか捕まってないのよね……」

まだ、確保者が少ないことに安心してエリア移動するナナ。

しかし、その背後からハンター……。

ハンター「!!!!」

<タッタッタッタッタッタ……>

ナナ「キャアッ!!」

慌てて逃げるナナ。

だが……。

ポンッ

ナナ「キャアッ!!速いつ!!」

ナナ確保、残り38人。

ナナ「んも……。ポポ頑張つて……。」

ピリリリー

ヨッシー「ナナちゃん確保か……。」

ドンキーコング「捕まりたくないな……。」

牢獄

デイデーコング「大体、出来たね。」

子供リンク「あとは、頭だけだね……。」

ルイーダの首から下が組み立て終わった確保された者達。

レッド「紫ピクミンが飛び込んだから頭はダメージが大きいよ。」

トゥーンリンク「確かに、これは組み立てが複雑だ。」

ガノンドロフ「ルカリオ……やるなあ……。」

今回は、ミッションに参加していないガノン。

ガノンドロフ「あの3人以外はやってないから良いか……。」

ピリリリ

ガノンドロフ「ん？ミッション2・・・か・・・。」

オリマー「残り180分になると、ゴキボンスーパーがオープンする。」

プリン「スーパーの中にはハンターが10体入っており、」

リュカ「開店と同時に放出される。」

ワリオ「阻止するには、2つのシャッター利用し、スーパーの表門と裏門を封鎖しなければならない。」

ゼニガメ「2つのシャッターには、それぞれ暗証番号が必要で、」

ロイ「マスターと、クレイジーだけが暗証番号を知っている。」

リンク「軍手は何処だ〜！？出て来〜い!!!」

MISSION 2 ゴキボンスーパーを封鎖せよ!!!

残り180分になると、Gランド西部にあるゴキボンスーパーがオープンする。

ゴキボンスーパーの中にはハンターが10体入っており、開店と同時に放出されてしまう。

阻止するには、2つのシャッター利用し、スーパーの表門と裏門を封鎖しなければならない。

さらに、2つのシャッターには、それぞれ4ケタの暗証番号が必要で、Eランド北部にいるマスターと、Rランド南部にいるクレイジーだけが暗証番号を知っている。

マスター「借金が・・・ブツブツ・・・。」

クレイジー「眠い・・・。」

果たして、2人を見つけ出しハンター放出を阻止することが出来るのか！？

裏切り者「ゴキポンスーパーの近くに居れば・・・フフフ・・・。」  
通報を企む裏切り者。

残り205分。

残り38人。

果たして、逃走者の運命は！？



MISSION 2 (後書き)

この笑顔、100円

この笑顔も100円

この笑顔も100円・・・

おっほお

120円~~~~~!!!!!!

!!!!!!

ウオオオ!!!

ミスタードーナッツ

フウ

MISSION 2 PART 2 (前書き)

ペースが復活して来た・・・。

## MISSION 2 PART 2

ロイ「うわぁ・・・10体もいるの？放出されたら大変だ・・・。」  
倍以上のハンター放出にビビるロイ。

ロイ「どうしよう・・・やった方が良いのかな・・・？」

ミッションをやるか、やらないかは逃走者の自由。

しかし、動けば、ハンターに見つかるリスクも高い。

ポポ「ナナのために！僕はミッションをやるぞ！！」

かつこ良い所を見せたいポポ。

ミッションに向かう！！

ファルコン「スーパーからここまで近いな。一応向かおう。」

ファルコンもミッションに向かう。

ソニック「OK!!ここからクレイジーの所は近いZE!!！」

音速のハリネズミ、ソニックもミッションに向かう。

リンク「既に、ハイラル組が2人捕まっていますからね。見せ場を作っておかないと!!」

ハイラルの勇者も参加。

ミッションに参加する者は、ポポ、ファルコン、ソニック、リンクの4人。

ヨッシー「お腹空きました……。」

鋼鉄の胃袋を持つ緑の恐竜。

ハンターよりも、飯。

ガノンドロフ「なんだ……お前かよ。」

2連覇を狙っているガノンがヨッシーを発見。

ヨッシー「あっ、ガノンさん。食べ物持ってませんか?」

ガノンドロフ「持っている訳無いだろ……。」

ヨッシー「え……そんなあ……。」

何気ない会話をしているガノンとヨッシー。

そこに、

裏切り者「！！（スーパーに向かう途中に……ラッキー。）」

裏切り者だ……。

裏切り者「ガノン、ヨッシーランド北部、チトテツ玩具屋前にいます。」

ハンター「……。」

ハンターが2人の確保に向かう！！

ガノンドロフ「全く、呑気な奴だ……ってヨッシー後ろだ！！」

ヨッシー「え！？うわあああ！！」

慌てて走る2人。

だが……。

ズルッ

ヨッシー「ぐわー！！」

なんと、ヨッシーがこけてしまった！！

ポンッ

ヨツシー確保、残り37人。

ヨツシー「あゝ。」

ハンターは、次にガノンを追う！！

ピ—————  
——

ポンツ

ガノンドロフ「ぬわっ！！」

ガノンドロフ確保、残り36人。

ガノンドロフ「チツ……。」

連覇ならず。

ピリリリー

ファルコ「確保情報だ……。誰だ……。？」

ワリオ「裏切り者の通報によりヨツシー、ガノン確保。うわ！！マジかよ……。」

これで、裏切り者は30万円を獲得した。

リンク「マスター発見!!」

リンクがマスターを発見。

リンク「暗証番号教えて!!」

マスター「え〜嫌。」

リンク「えっ、何故？」

マスター「オレの欲しい物買って来たら表門の暗証番号を教えてくださいよ……。」

リンク「分かりました……。 (調子に乗るなよ、軍手)」

マスター「俺の欲しい物は……。」

果たして、何なのか!?

残り198分。

残り36人。

ミッション終了まであと、18分。

MISSION 2 PART 2 (後書き)

リングリングトリングリングントン

リングリングトリングリングントン

赤ピクミン「これ何？」

作者「皆、多分分かってくれるはず。多分。」

青ピクミン「自信無いんだ……。」

## MISSION 2 PART 3 (前書き)

マスターハンドが欲しい物とは!?

色々な予想を皆さんしてくださいって有難うございます!..

正解は、これです!!

## MISSION 2 PART 3

リンク「それは、何ですか？」

マスター「欲しい物は……。」

リンク「(何だ……?)」

マスター「ゲームキューブだ!!」

リンク「え?」

思わず、変な発音で驚いたハイラルの勇者。

リンク (ゲームキューブを買うのなら、Wiiで、ゲームキューブソフトも遊べるはず……。)

マスターハンド「頼むぞ」

リンク「は、はあ……。」

頭が悪いマスターに渋々、答えるリンク。

リンク「うわぁ……ここから、ゲームショップ遠いな……これでミッション失敗したら……覚えてろ……。」

ブツブツ言いながらゲームショップに行く勇者。

ファルコン「ここがゴキポンスーパーか。着いたぞ。」

おばちゃん1「いや、楽しみねえ。」

おばちゃん2「果物や野菜も新鮮なんですつて!」

ファルコン（うるさいな……。とりあえず、ミッションやってくれそうな人に電話するか。）

その人から暗証番号を聞き、表門、裏門を封鎖するという作戦だ。

裏切り者「ファルコンだ……。封鎖してくれたら、通報するか……。」

通報を企む裏切り者。

ピチュー「この草むらは、良い隠れ場所になりそうだな。」

身体が小さいため、隠れ場所を見つけやすいピチュー。

ピチュー「ハンターに会いたくないなあ……。速いんでしょう?」

自分より足が速いヨッシーやディディーが捕まったことにより恐怖心を抱いているようだ。

ミュウツー「あれ・・・ピチューだな・・・尻尾がはみ出てやがる・・・。」

冷静に言う遺伝子ポケモン。

ミュウツー「大丈夫か・・・？あいつ・・・。」

フシギソウ「僕ってゼニガメと、リザードンに比べると、足遅いんだよね・・・。知名度も無いし・・・。」

密かな、心配を気にするフシギソウ。

そこに、忍ぶ、黒い影・・・。

ハンター「!!！」

<タッタッタッタッタ・・・>

フシギソウ「うわ！来たよ!!！」

フシギソウは、必死になって逃げる。

ポンッ

フシギソウ「うげ・・・。」

フシギゾウ確保、残り35人。

フシギソウ「ハンター速い……。」

秒殺だ。

ドクターマリオ「うわぁ……フシギソウ確保だ……。」

ゼニガメ「うわぁ……フシギソウが……。」

リザードン「残念だ……。」

プリン「これで、9人目……まだ、1時間も経って無いのに……。」

スタッフ「今回の目標は？」

マルス「リストラメンバーのロイ君と肉ばかり食っているアイクさんには負けたくないですね。」

前回は、アイクより、かなり早めに捕まった青髪の剣士。

マルス「頑張りたいですね。」

王子の意地を見せられるか……。

ファルコン「そっか、やらないか。じゃあな。」

ピッ。

ファルコン「フォックスや、ファルコ、ゼルダ、ルカリオに電話したんだが・・・皆、やらないみたいだな・・・。」

少々、落ち込むレーサー。

だが・・・。

ファルコン「諦めたら負けだ!!よし!!次は、スネークに電話するか!!」

気持ちの切り替えが異常なほど早い。

ソニック「あそこだ!!」

クレイジーを発見した音速のハリネズミ。

ソニック「Hey!!クレイジー!!暗証番号を教えてください!!」

クレイジー「ああ、ソニックか。よく来たな。裏門の暗証番号は、9735だ。」

ソニック「9735か……。Thank you!!クレイジー  
!!bye!!」

その場を離れるソニック。

クレイジー「俺は、誰かさんみたいにケチじゃないからな。すぐ、  
教えてスマブラメンバーの好感度を上げるんだ。」

ずる賢いクレイジー。

ファルコン「そうか……。分かった。」

ピッ

ファルコン「スネーク、ロイ、アイクもやらないのか……。ん  
じゃあ、あとは、誰だ?」

焦りだすレーサー。

残り193分。

残り35人。

ミッション終了まであと、13分。

MISSION 2 PART 3 (後書き)

牢獄

ナナ「ルイージの顔ってどんなのだった？」

ナナ以外「さあ・・・？」

MISSION 2 PART 4 (前書き)

テストが近い・・・。

勉強しなくちゃ・・・。

## MISSION 2 PART 4

ソニック「結構遠いZE……。」

スーパーとの距離がかなりあるソニック。

ソニック「しかも、ハンターいるし……。」

ソニックが前方にハンターを発見。

ソニック「ヤバイな……。」

ピリリリ

ソニック「What!?!」

慌てて、電話に出るソニック。

ソニック「He...Hello?」

ファルコン「おう、ソニックか。ミッションやってるか?」

ソニック「やっているさ。今、クレイジーから暗証番号を聞いた所だ。」

ファルコン「おつ、丁度良かった!!!今、スーパーの前にいるんだ!教えてくれ!!!」

ソニック「Really? Nice!!!ファルコン!!!OK!!!暗

証番号は、9735だー!!」

ファルコン「よし!!これで、裏門が封鎖できるなー!!」

ソニック「bye!!」

ピッ

ファルコン「よし、裏門に行くぜー!!」

裏門に、向かうファルコン。

こっちは、おばちゃん達は、いない。

ファルコン「これだな・・・。えーつと・・・9735だな・・・。

」

ピッピッピッピッピッ。。。。

ファルコン「よし!!入力完了!!」

ガララララララ。。。。。

ファルコン「よっしゃー!!」

裏門、封鎖。

ファルコン「後は、表門か・・・。」

カービィ「此処、何処？」

地図の読めないピンク球。

カービィ「駄目だ……。難しい漢字があつて読めない……。スタッフさん、これなんて読むの？」

スタッフ「川かわです。」

カービィ「ふうん。」

クッパ「結構、時間が経つてるけど、我輩は、最初以来、一度もハンターを見ていないぞ。」

ずっと同じ所に隠れている弱虫な亀。

クッパ「マリオよりは、長く残りたいな。」

サムス「もう既に、賞金は66万円を超えたのね……………」

ハンター「!!！」

サムス「ハンターか……………」

逃げ続けるバウンディングハンター。

「ここは、上手く撒いたようだ。」

サムス「……はあはあ……。」

既に、体力が限界のようだ。

「ポポ」マスターハンドは何処？さっきから、探しているのに……。

ずっと、走り続けているポポ。

焦りが積もる。

そこに、

ハンター「!!」

見つけた……。

ポポ「僕が、ハンター放出を阻止させるんだ!!……ってうわあ  
ああ!!!!」

ピ—————

マスター「騒がしいな……あつ、ポポ……。」

ポポ「うぐ……ハアハアハア……。」

ポンッ

ポポ「あゝ……。」

ポポ確保、残り34人。

カツコイイ所は、見せれなかった……。

リングリントンリングリントン

リングリントンリングリントン

ウルフ「ん？なんだ？メールか？」

ウォッチ「メールデス……。マタ、確保者デシヨウカ……。」

ピカチュウ「マスターの付近で、ポポ確保。ありゃあ……。やつぱりミッションなんてやるもんじゃないよ。」

牢獄

ナナ「あゝ……。ポポ……。」

デイディーコング「やつぱり、動いたら見つかりやすいからなあ。」

レッド「それにしも、緑の組み立てがあと、少しなんだけど……。どうしようっ……。」

子供リンク「うん……。」「

帽子を組み立て、頭も組み立てた。

だが、顔が思い出せない。

トウーンリンク「これじゃあ、のっぺら坊だね……。」「

フシギソウ「鼻は、マリオさんと、一緒だから分かるんじゃない？」

ヨッシー「そうですね。鼻ぐらいは、組み立てましょう。」「

明らかに、ルイージをなめている。

ちなみに、マリオ以外は、ルイージのことを緑や、緑のヒゲなどで呼ぶようにしたようだ。

リンク「あつた！！これですね！！」

ようやく、ゲームショップに辿り着いたリンク。

マスターから貰ったお金で、ゲームキューブを買わなくてはならない。

ウィーン

「……」「いざっしやいませ」

リンク「!?え……。」

リンクが見た者とは!?

残り187分。

残り34人。

ミッション終了まであと7分。

## MISSION 2 PART 4 (後書き)

告知と挨拶

逃走中同盟、リーダーのワーグナーです！

(勝手に言ってますみません、自分が1番始めに、1番長く書いてるので……。)

そして、ハリケーンさん、リリカルショーバイさん、しょうたろうさん、奏音リイさん、ダークピカチュウさんの逃走中も宜しく!!

それでは!!

ガノンドロフ「個人名出して良いのか……？」

MISSION 2 PART 5 (前書き)

テスト終わった〜!!

・・・というところで、早速、更新!!

## MISSION 2 PART 5

リンク「あ、あなたは……。」

汚い部屋に立っている巨大なロボット。

???「フハハハ……。」

リンク「誰だっけ？」

???「ズコツ!!」

リンク「そんなに、驚かなくても……。」

???「ガレオムだ!! 覚えるよ!!」

リンク「は、はあ……。」

あまり、関心が無いようだ。

リンク「そんなことより、早くマスターから頼まれたゲームキューブをください。」

マスターから奪ったお金をレジに出すリンク。

ガレオム「俺のこと、どうでも良いのね……。(……)……. . . . .  
・しかもあの手袋かよ……。(……)」

ガレオムは、黒いゲームキューブの箱を持ってきた。

ガレオム「ほらよ!!中古だから、特別価格、500円!!」

リンク「安っ……。」

リンクは、それを受け取り、店を後にした。

ガレオム「アルバイトの俺に興味無しなのか……。まあ、良いか・  
・。。。」

フォックス「ハンター10体は、ヤバイなあ……。」

ミッションを他人事のように、言う狐。

そこに、

ハンター「!!」

<タッタッタッタ…….>

見つかった……。

フォックス「やっぱり、出番無しは、嫌だなあああ!!???」

ポンッ

フォックス確保、残り33人。

フォックス「まさかだろ……。」

1歩も動けず……。

ピリリー

ドンキーコング「うわぁ……フォックス捕まったよ……。」

ファルコ「油断したんだろうな、それにしても、今回は、あいつよりは長く生き残れたな……。」

リンク「う……やっぱり、重い……それに、あの中、臭かった……それに、ヤバイ!!時間が……。」

ピリリー

リンク「ん?ファルコン?」

ファルコン「おう、リンク。ミッションやってるか?」

リンク「ええ、今からマスターから暗証番号を聞く所です。」

ファルコン「そうか!!今、俺は、スーパーの前にいるんだ!!暗証番号が分かったら、俺に教えてくれ!!」

リンク「分かりました。」

ファルコン「おう!!」

ピッ

リンク「よし!!これで、間に合いそうですね!!」

走り出すリンク。

マスター「おっ、リンク来た・・・。」

リンク「はい!!これです!!」

マスター「有難う!!」

中を確認するマスター。

マスター「よし!!OKだ!!暗証番号は、3486だ!!」

リンク「分かりました!!」

ミッション終了まで残り、2分。

マスター「さて、トイレ行ってから開けるか」

ピリリリー

ファルコン「おう、リンク。暗証番号は?」

リンク「3486ですよ!!」

ファルコン「了解!!」

表門の暗証番号を押しに行くファルコン。

だが……。

おばちゃん1「ちょっと、アンタ割り込みしないでよ!!」

おばちゃん2「邪魔!!」

バゴツボゴツ!!

弾き飛ばされた……。

ファルコン「痛え……だが、諦める訳もいかねえ……。」

ミッション終了まで、あと、1分……。

ファルコン「うらあ!!」

おばちゃん達「ギャッ!？」

猫騙しだ……。

ピッピッピッピッ……。

ファルコン「よし!!」

ガラララララララ……。

ゴキポン「な、なんだ、なんだ!？」

ゴキポンスーパー封鎖。

ファルコン「よっしゃー!!」

ミッションクリアだ。

ピリリリ

ウルフ「おっ!ソニック、リンク、ファルコンの活躍でスーパー封鎖だ!!」

ゼルダ「リンク、凄い!!」

おばちゃん達「ああ!!スーパーを!!待ちなさい!!」

ファルコン「ヤバイ!逃げろ!!」

おばちゃんとの距離がどんどん離れていく。

振り切った

・・・が・・・。

裏切り者「俺が、逃がさない・・・。」

裏切り者だ。

裏切り者「ファルコン、ゴキボンスーパーの裏門付近にいる。」

ハンター「・・・。」

ハンターがファルコンの確保へと向かう!!

ファルコン「うおっ!?マジかよ!!」

ファルコン、逃げ切れるか!?

残り179分。

残り33人。

MISSION 2 PART 5 (後書き)

ようやく、1時間が経ちましたね・・・。

これからも、頑張ります!!

そして、次回、あの緑が復活!!

緑（前書き）

実は、作者は、文系じゃなくて、理系なんです……。

何で、小説を書いてるかって？

……。

フォックス おい！答えるよ！！

## 緑

裏切り者に通報されたファルコン!!

逃げ切れるか!?

ファルコン「せっかく、ミッションやったのに……このザマかよ・  
・。。。」

ソニックに次いで、2番目に足が速いファルコン。

中々、ハンターとの距離は縮まらない。

ファルコン「よし!!これなら、行ける!!」

ハンター「!!」

しかし、向かう先に別のハンター。

ファルコン「ぬああ!!最悪だ!!」

へたり込んだレーサー。

ポンッ

ファルコン確保、残り32人。

ファルコン「あゝあ……畜生……。」

ワリオ「裏切り者の通報によりファルコン確保・・・マジか・・・」

リンク「嘘でしょ！？さつきまで、ファルコンさんと電話してたんですよ!?!」

ソニック「oh、no・・・。」

裏切り者「これで、40万円か・・・軽いな。」

マスター「よし！ゲームキューブ開けるか」

ゲームキューブを箱から取り出すマスター。

続いて、キューブの蓋ふたを開ける。

マスター「おっ、これこれ　ここに、ソフトを入れるんだよな　あと、なんだ？この紙は？何々・・・。」

~~~~~

手袋へ

そのゲームキューブの箱を開けたら30秒後に爆発するよ

ガレオム

ガレオム「あいつは、ムカつくからな 500円にただけでも、俺の優しさを実感するんだな」

ピーチ「あゝ・・・眠いわぁ・・・。」

先程から、あくびをしまくるキノコ王国の姫。

ピーチ「いつもは、この時間は昼寝の時間なのよねえ・・・。」

だから、さらわれる。

牢獄

レッド「ここかな？ここかな？それとも、こっちなかな？」

スタッフさんからルイーダの写真を貰い、ルイーダを組み立てる確保された者達。

カチッ

子供リンク「おっ、はまったよ!!」

ピカーーーーーー

ガノンドロフ「おっ、緑が光り出した・・・。」

緑（後書き）

緑は、ルイージだったんですね……。。

MISSION 3 (前書き)

更新、遅くなりました・・・。

テストのせいです。

MISSION 3

ドクターマリオ「ここは、ハンターが、来にくそうだから・・・。
えーと・・・。」

ピリリリー

ドクターマリオ「ん？なんだ？」

メールだ。

ドクターマリオ「ミッション3・・・か・・・。」

アイク「スーパーを封鎖してしまったため、」

ゼニガメ「激安バーゲンを楽しみにしていた50人のおばちゃん達
が、」

ゼルダ「打ちこわしを始めた。ええっ!？」

マリオ「阻止するには、警察署に行き、」

ロイ「警察官から手錠をもらい、おばちゃん達にかけなくてはなら
ない。」

ピカチュウ「残り155分までに、おばちゃん達を止めなければな
らない。」

メタナイト「おぼちゃんの目的は、Eランド北部の大統領の所に
ある、」

リンク「国宝のイエローダイヤが盗ることで、」

ミュウツ「盗られてしまうと、賞金金額がリセットされてしまい、
」

ピット「今後は、賞金が1秒、50円ずつ上昇となる。」

ワリオ「これは、阻止しなければ!!」

MISSION3 おぼちゃんの打ちこわしを止める!!

Gランド東部で打ちこわしを始めた50人のおぼちゃん達。

阻止するには、残り155分までに、Rランド北部にある警察署に
行き、おぼちゃん全員に手錠をかけなければならない。

また、Eランド北部にある、国宝のイエローダイヤが盗られてしま
うと賞金金額がリセット。

ミッション成功なら、逃走成功で288万円を獲得出来るのだが、
ミッション失敗なら、逃走成功で、46万5000円となってしまう。
う。

カービィ「えーっ、これは、早めに、自首した方が良いんじゃないかなあ？」

ミッションに全く興味が無いピンク球。

カービィ「おまけに、電話も無いし……。スタッフさん、携帯電話で良い？」

スタッフ「駄目です。」

カービィ「……。ケチ。」

リュカ「……………」

ずっと、動かないリュカ。

スタッフ「ミッション行きますか？」

リュカ「一応、近いんだけどなあ……。行った方が良いのかなあ。」

ミッションに行くか、行かないかは、逃走者の自由だ。

ワリオ「今すぐ警察署だ!!!」

賞金リセットと、聞き、黙っていられないワリオ。

ミッションに参加するようだ。

マリオ「これは、参加する！！絶対に参加する！！金！！金！！」

今まで、人任せだったスーパーヒーロー！

ミッションに参加するようだ。

ウルフ「金が、かかっているのか・・・？これは、行くしか無いな。

」

アイク「賞金が減ると、肉が減る！！行く！！」

続々と、ミッションをする者がいる中・・・。

ピカチュウ「もし、失敗しても、賞金は、46万5000円貰える
んでしょ？十分だよ・・・。」

あまり、お金にこだわらない、ポケモン界のスター！

ピカチュウ「ここは、任せよう。」

ロボット「物騒ナ所二八、行キタクナイデス。」

おばちゃん「嫌いなロボット。」

ウォッチ「ペラペラナ私ハ、跳ネ飛バサレソウ……。」

あまり、腕力の使わない技を持つ二次元も参加する気無し。

クツパ「おばちゃん怖そうだし……嫌。」

ドンキーコング「おばちゃん強そうだし……止めとく。」

リンク「さつき、走って疲れてるから任せましょう。」

リザードン「動きたくない。」

スネーク「遠いな……任せるか……。」

カービィ「自首!!自首!!」

ミッションに行きたくない逃走者達。

そして、ミッションに向かうのは、マリオ、ワリオ、ウルフ、アイクの4人。

賞金リセットを阻止出来るのか!?

残り173分。

残り32人。

ミッション終了まで、あと18分・・・。

MISSION 3 (後書き)

クレイジー「なんだ？この汚いデカイ手袋は？捨てよ。」

ポイツ

MISSION 3 PART 2 (前書き)

ちよつと、遅くに更新。

MISSION 3 PART 2

動き出す逃走者達。

ウルフ「警察署は・・・おっ、ここから近いな。」

ウルフエンの操縦のおかげで方向音痴では無いウルフ。

ウルフ「おばちゃんよ！貴様らを止めるのは、このウルフ様だ！」

一方

ファルコ「ミッション？フツ、俺は、金にはこだわらねえーつつーの。フォックスじゃあるまいし。」

確実に行くタイプのファルコ。

ウルフと違って動く気は、無い。

ドクターマリオ「賞金が、240万ほど減る？別にそのくらい良いだろ。」

医者のため、金持ちのドクターマリオ。

たかが、このくらいの減額は、痛くもかゆくも無いようだ。

マリオ「逃走成功して、高級マツタケや、高級キノコをたくさん買うのだ！そして、それをピーチ姫にプレゼントしたら・・・喜ぶぞ・・・。」

走りながら、勝手な妄想をし始めるマリオ。

その笑みが不気味だ。

ワリオ「ハアハア・・・やはり、疲れるもんだな。移動は・・・。」

警察署から最も近い所にいるワリオだが、早くもスタミナ切れだ。

ワリオ「しかも、あれ・・・ハンター・・・。」

ハンター「・・・。」

前方にハンターを発見するワリオ。

ワリオ「ん？・・・突然、走り出したぞ・・・誰が見つかったのか？」

ハンターが、見つけたのは・・・。

ピーチ「キャアア!!」

ピーチだ。

ワリオ「ピ、ピーチの音が・・・と、とにかく、今の内に先に進むか。」

ピーーーーー

ポンッ

ピーチ「ああああ・・・。」

ピーチ確保、残り31人。

ピーチ「今回こそは、ゼルダより長く生き残りたかったのに・・・。」

姫対決に、またしても、敗れた。

ピリッピリリー

リュカ「ピーチさん、確保されましたか・・・。」

ゼルダ「もうちょっと頑張って欲しかったなあ……。」

ワリオ「やはり、ピーチ捕まったか……。」

牢獄

ヨッシー「あわわわ……。ピーチ姫が……。」

ディディーコング「マリオファミリーもどんどん捕まっていくね。」

レッド「ポケモン組は、人数は、結構多いはずなのに、皆、結構生き残っているね……。」

フシギソウ「何か、僕ら情けないなあ……。」

デデデ「すること無いから暇だぞい。」

こちらは、金に困っていないデデデ。

一応、大王なので金持ちだ。

デデデ「まあ、4時間で、40万ほどだったらお得だぞい。」

ドクターと、同じ考えのようだ。

ルカリオ「それにしても、おばちゃんって強いのか？若くないから、
そう強そうには、見えないがなあ……。」

完全に、おばちゃんを見下しているルカリオ。

恐怖心が無い。

アイク「よっしゃ！！着いたぞ！！手錠ください！！」

警察官「おや？おばちゃん達を止めてくれるのですか？」

アイク「勿論です！！」

警察官「有難うございます！！くれぐれも、無理をしないでくださ
いね。」

アイク、30個の手錠を獲得。

アイク「よし！これで、暴走を止めれる！！」

おばちゃん1「おらあ！！金よこせ！！」

店員「ひiiiiiiii！！逃げろ！！！！」

おばちゃん2「アハハッハ！！金、大量！大量！！」

おばちゃん3「食べ物よこせ!..おばちゃんキーク!..!」

店長「ゲエ!..!」

バタッ

おばちゃん3「全部盗め!..!」

おばちゃん達「オ!..!」

果たして、暴走を阻止出来るのか!?

残り168分。

残り31人。

ミッション終了まで、あと、13分...。

MISSION 3 PART 2 (後書き)

おばちゃん**の**暴走は、続く・・・。

MISSION 3 PART 3 (前書き)

うん・・・主婦の怒りは、恐ろしい・・・。

MISSION 3 PART 3

おばちゃん3「次は、あの電化製品店!!」

おばちゃん達「ウオオー!!」

ピット「ん?何だ?何だ?あれは……。」

おばちゃん1「テレビ投げ!!」

ドゴン!!バゴン!!チュドン!!

ピット「ひええ〜テレビが降って来た〜!!ハンターより怖〜!!」

逃走する天使。

マリオ「おっ、ウルフじゃないか?」

ウルフ「……なんだ、お前か、ミッションやるのか?」

マリオ「勿論!金が減るんだぜ!!警察署に行かなくては!!」

ウルフ「……だな。じゃ、行こうか。」

ワリオ「ゼエゼエ・・・着いた・・・おばちゃん達を止めるので、手錠ください。」

警察官「えっ、ええ・・・分かりました・・・。(この人怖いな・・・。)

ワリオ、30個の手錠を獲得。

ドガンー!!ドガンー!!

マルス「うわぁ・・・嫌な音が聞こえるよ・・・ここで、死にたくないなあ・・・。」

怯えまくっているアリティア王国王子。

マリオ「俺達も、止めるぜ。」

ウルフ「おばちゃんを止めるのは、この俺様だ!」

マリオ、ウルフも、手錠を獲得。

ウオッチ「ヤッパリ、ミッションハ、嫌ナ物ガ多イデス・・・。コノママ・・・隠レテイレバ逃ゲ切りガ出来ソウデスネ。」

ポンッ

ウォッチ確保、残り30人。

ウォッチ「……………ウソ……………」

「……………」

ネス「変な声が……確保情報だ……ウォッチ確保……」

ロボット「ウォッチヨリ長く生き残レマシタ!!」

メタナイト「そうか……まだ、ウォッチが、いたな……」

おばちゃん2「おばちゃんボディプレス!!」

キノピオ「うわあ〜!!武器が〜!!店が〜!!」

バキバキメシーン!!

おばちゃん4「バズーカは、貰った〜!」

アイク「あれだな……」

おばちゃん達の所へ着いたアイク。

アイク「逮捕だ!!」

ガチャ

おばちゃん35「な、何すんのよ!!」

1人のおばちゃんに手錠をかけた。

おばちゃん29「何よ!!こいつ!!若いからって良い気に乗って!!やっちまえ!!」

アイク「緊急回避!!」

アイクは、背後に回りこみ、別のおばちゃんに手錠をかける。

アイク「よし!!どんどん逮捕して行くぜ!!」

マリオ「何処だ?おばちゃん達は!?あれか!」

ウルフ「フツ・・・俺様にかかれば、1人5秒で捕まえてやるぜ!」

マリオ「結構、時間がかかるんだな・・・。」

ウルフ「うるせえ!!」

ワリオよりも、先に到着したマリオとウルフ。

マリオ「アイク!手伝うぞ!」

アイク「ああ！！頼むぞ！！」

プリン「それにしても、おばちゃん・・・スーパーが開かないから
って心が狭いわねえ・・・。」

何気^{なにげ}に、まともなことを言う風船ポケモン。

プリン「早く、時間経たないかしら・・・。」

ピチュー「おばちゃん怖いよー！！」

草むらの中で震えるピチュー。

賞金減額より、おばちゃんの方が怖いようだ。

ミュウツー「いつまで、尻尾が出てるんだ？ピチュー・・・。」

いつまでも、ピチューに注意しに行かない遺伝子ポケモンのミュウ
ツー。

動くパワーを貯めるため、1歩も、動くことは無い。

おばちゃん48「おばちゃんの財布アタック！！」

マリオ「痛っ！財布なのに、何故、重い……。」

おばちゃん48「オホホホ！ポイントカードや、割引券がたくさんあるから、重いわよー！！」

マリオ「そういうことか……。ならば、こっちも、武器を使う！」

マリオは、B で使うポンプを取り出した。

ポンプ「私の出番のようデスネ。」

マリオ「あつ、水が無い……。」

ポンプ「エ……。」

マリオ「仕方ない……ポンプ投げ！！」

おばちゃん48「ギャア！！」

マリオは、手錠をかける。

マリオ「よっしゃー！！この戦い方で行こう！！」

ポンプ「ヒッ！！」

おばちゃん20「テレビ投げ！！」

ウルフ「リフレクター!!」

おばちゃん20「グハ!!」

ウルフ「よっしゃー!!逮捕!!」

ワリオ「やっと、着いた……。俺様も協力するぞ!!」

ワリオも、参加!!

残るおばちゃんは、あと45人。

残り163分。

残り30人。

ミッション終了まで、あと、8分……。

裏切り者（マリオ達か……。ミッションクリアしたら、通報するか……。）

またしても、近くで、見ている裏切り者……。

MISSION 3 PART 3 (後書き)

クレイジー「マスター何処行ったんだ？そうか・・・パチンコでも行ったのか・・・。GERO国は、パチンコ店も多いからな・・・。」

┌

MISSION 3 PART 4 (前書き)

皆さんは、テロなんて、絶対に止めましょう!!

・・・いやいや、こんなこと出来ないうつて・・・。

MISSION 3 PART 4

とうとう、逃走者VSおばちゃん達の戦いが始まった。

ウルフ「よし！！逮捕！逮捕だ！」

おばちゃん13「ギャ〜！離せ〜！！！」

アイク「肉のために！！逮捕だああ！！！」

おばちゃん50「嫌〜！！！」

ワリオ「俺様も、負けねえぞ！！オナラ攻撃！！！」

プウ〜

ワリオっぺが炸裂。

おばちゃん達「ぐえ〜・・・臭〜・・・。」

マリオ「さ・・・流石さすが、ワリオ・・・。」

マリオは、何度も嗅いでいるので慣れている。

マリオ「おばちゃん達に、強烈なダメージを・・・。」

おばちゃん達「効いてないわよ!!」

ワリオ「な、何故だ!? 俺様のオナラで、誰もが、気絶するはずなのだが……。」

おばちゃん「夫の臭いパンツや靴下、ももひきなんかを毎日、洗っているからこんな平気よ!!」

ワリオ「あつ、……そうか……。」

マリオ「バカヤロー!! 全然、効いてないじゃねえか!!」

アイク「……しつかり、効いてるって……。」

ワリオのオナラで、倒れるアイクと、ウルフ。

マリオ「おい! 何で、こんな所で倒れてるんだよ!! 風邪ひくぞ!!」

そういう問題では、無い。

一方、ワリオは、次々と、おばちゃんを逮捕していった。

ようやく、アイクと、ウルフが目覚め、おばちゃん達と再対決だ。

だが、そこに、ハンター……。

ハンター「!!」

4人の所にハンターが接近!!

マリオ「うわああ!!!ハンターだ!!!」

ウルフ・ワリオ・アイク「マジか!?!」

おばちゃん4「アンタ、退け。」

マリオ「?」

おばちゃん4「邪魔すんじゃないねえ!!!おばちゃんバズーカ!!!」

ドゴン!!!

ハンター「ええええええええええええ!!!?????」

チュドゴン!!!!!!

ハンター「ギエピー!!!!!!」

ハンターは、その場に倒れた。

マリオ（こ、怖。。。）

ピリリリー

メタナイト「通達3だ。。。」

デデデ「おばちゃんがハンターを1体、撃破してしまったため、」

サムス「ハンターが、1体追加。」

ドンキーコング「ハンターの数は、合計4体と変わらない。」

ピチュー「ハンターより、強いの!?行かなくて良かった……。」

マリオ「ポンプ投げ!!ポンプ投げ!!」

ポンプ「グエ!!」

おばちゃん6「ギャ!!」

マリオも、続々と、おばちゃん達を逮捕。

ワリオ「噛み付き!!」

おばちゃん30「ギョエ……。」

ガチャ

ワリオ「ハイ、逮捕だ!!」

おばちゃん4「バスーカ!!」

ドゴンー！ドゴンー！

ワリオ「うわわっ！！マジかー！！」

おばちゃん4「喰らえ〜！！」

追い詰められたワリオ。

ドゴンー！！

ワリオ「うわわわああっ！！」

アイク「ワリオさん！！」

カーン！！！！

ワリオ「あれっ・・・痛くない・・・。」

アイク「ギリギリセーフ・・・。」

アイクが、持っていたのは、デカくて黒い汚い手袋。

これで、バズーカを防いだようだ。

ワリオ「これをどこで？」

アイク「ゴミ箱にあったんだ。」

ワリオ「そうか・・・。」

マリオ「だけど、これは、防御に使えるぞ!!」

ウルフ「デカイから、攻撃にも使えるな。」

アイク「これで、おばちゃん達を止めましょう!!」

3人「オー!!」

心強い武器で、さらに、戦う勇気を貰った逃走者達。

賞金リセットを阻止出来るか!?

残るおばちゃんは、あと15人。

残り158分。

残り30人。

ミッション終了まで、あと、3分・・・。

クレイジー「パチンコ店にも、いない・・・ということとは・・・ナ
ンパか!!あいつ・・・。」

MISSION 3 PART 4 (後書き)

病院

ハンター「痛いよ〜!!痛いよ〜!!」

医者「。。。」

スタッフ「コラ!!騒がない!!」

MISSION 3 PART 5 (前書き)

おばちゃん軍団との戦いが遂に決着!!

果たして、結果は!?

MISSION 3 PART 5

カービィ「電話ボックス見つけ!!!これで、おいしい物を食べるんだ!!!」

カービィが、公衆電話を発見。

カービィ「リセットされる前に、自首しなきゃ!!!えーと・・・番号は・・・。」

カチカチカチ・・・。

『明日の天気は、快晴で・・・。』

カービィ「うわわっ!!!間違えた!!!10円無駄にした!!!くそ!!!10円〜!!!」

大声で、叫ぶカービィ。

その声が、ハンターに聞こえた!

ハンター「・・・!!!」

<タッタッタッタツ・・・。>

見つかった・・・。

カービィ「まあ、良いか・・・。再度かけ直そう・・・あ。」

ポンツ

カービィ確保、残り29人。

カービィ「嘘〜！10円無駄にするし、捕まるし！！最悪だ〜！！」

豪華な、ディナーは夢として散る。

ブルルル

ロボット「カービィサン、確保。」

ロイ「カービィ、捕まったのか・・・？結構、長く生き残ると思っただけだなあ・・・。」

デデデ「カービィより、長く生き残るとは思わなかったぞい！！」

マリオ「ポンプ投げ！！」

ポンプ「もう、嫌です〜！」

おばちゃん達「キャ〜！！」

順調に、おばちゃん達を確保していく逃走者達。

アイク「手袋アタック！！」

おばちゃん達「どわああああ!!!!」

残るおばちゃんは、8人。

ミッション終了まで、あと2分。

おばちゃん4「バスーカ!!」

ウルフ「リフレクター!!」

バゴーン!!

おばちゃん4「ギャー!!」

ワリオ「へへへへ・・・逮捕、逮捕」

これで、残るおばちゃんは、1人。

ウルフ「これで、終わりか・・・。」

マリオ「まだだ!!!!1人、イエローダイヤの方へ向かったぞ!!!!」

ワリオ「くそっ!!マジか!!」

ミッション終了まで、あと、30秒。

おばちゃん44「急いで、イエローダイヤを盗む!!」

アイク「待て!!!!」

大統領「うわ〜！！おばちゃん来た〜！！ヒエ〜！！」

マリオ「ファイヤーポンプ投げ！！」

ギョルルルル〜！！！！

ドゴッ

おばちゃん44「キヤアア！！」

その衝撃に転ぶおばちゃん。

あと、10秒。

マリオ「クソ！！間に合ってくれ！！」

あと、5秒

マリオ「ヤバイ！！時間が！！！！でええええい！！」

4

マリオ「手錠をかけて・・・。」

3

マリオ「くそ！上手くない！！」

2

マリオ「よし！こーやって・・・」

1

カチヤ

ミッションクリア。

マリオ「危なっ！！・・・けど、ミッションクリアだ！！」

アイク「やりましたね！！マリオさん！！」

ワリオ「一件落着つて訳だ！」

ドンキーコング「おっ、ミッション結果・・・。」

スネーク「えーと・・・マリオ、ワリオ、ウルフ、アイクの4人がおばちゃん達の逮捕に成功！！やるなあ！！」

ソニック「賞金リセットは、免れた！！イエーイ！！」

ウルフ「ふうー・・・間に合わねえかと思っただぜ。」

おばちゃん44「目の前だったのに〜！！」

すると、おばちゃんが紫色になり大量の虫が散っていった。

マリオ「え……何だ……。」

ウルフ「お、おい！！あれ……見る！！」

他のおばちゃん達も、紫色になり散っていった……。

あとは、大量の手錠のみが残った。

アイク「これは、間違いない……影虫だ……。」

影虫とは、『亜空の使者』に出てくる、怪物の材料のような物だ。

ウルフ「……ということは、タブーの亜空軍が関係しているってことか！？」

アイク「信じたくないけど……そうだろう……。」

呆然とする4人。

アイク「とりあえず、ここからは、別行動で行こう。大勢でいると危険だ。」

マリオ「そ、そうだな……。」

残り154分。

残り29人。

裏切り者
（クククク・・・マリオ達よ・・・おさらばの時間だな
）

MISSION 3 PART 5 (後書き)

次回、裏切り者の正体が明らかに!!

そして、亜空軍も登場・・・。

裏切り者（前書き）

多分、皆、裏切り者予想外れると思います・・・。

当たったら、凄いや・・・。

裏切り者

ウルフ「じゃ、皆、頑張れよ!!」

ワリオ「捕まるなよ!!」

マリオ「お前が言うなww」

ワリオ「うるせえww」

アイク「ハハハハ・・・じゃ、それでは。」

マリオ「じゃあな!!」

その場を離れるアイク。

アイク「マリオ、ウルフ、ワリオ。大統領の場所付近にいます。」

裏切り者は、アイク・・・。

ハンター「・・・。」

ハンターが、3人の確保に向かう!!

アイク「覚悟しろ……。」

ワリオ「おっ、賞金がもう103万円を超えたぞ!!」

ウルフ「いつの間にか、こんなに貯まってたんだな。」

マリオ「……って、ちょっと待て!!ハンターだ!!」

ワリオ・ウルフ「え~~~~~!!??」

<タッタッタッタ……。>

3人は、汚い手袋を踏み潰して逃げていく。

マリオ「2つの分かれ道がある!!これで、1人は、逃げれるぞ!!」

ワリオ「よし!別れる~~~~!!」

マリオは左に、ウルフとワリオは、狭い道の右に曲がる。

ハンターは、右に曲がった。

ワリオ「うわああ!!こっち来た!!」

ウルフ「ついてないぜ……。」

曲がり角を曲がる2人。

だが……。

ウルフ・ワリオ「あ……。」

行き止まりだ。

ポンツ、ポンツ。

ウルフ、ワリオ確保、残り27人。

ワリオ「クソ……。」

ウルフ「ここまで来てかよ……。」

マリオ「あいつら、大丈夫かな……？捕まっていなければ、良いんだが……。」

ピリリリ

マリオ「確保情報……裏切り者の通報によりウルフ、ワリオ確保！！嘘……。」

ルカリオ「裏切り者……どういふ神経してんだ……。」

アイク「手加減してやるほど、俺は、甘くは無い。」

これで、+60万円を獲得したアイク。

時は、さかのぼる……。

アイク「裏切り者、募集？えーと、1人通報すれば、10万か……肉が増えるな……。裏切ろう。」

1人目の犠牲者、子供リンク

子供リンク「これで、ハンターが来ても大丈夫なはずさ!!！」

アイク「早速、発見だ 呑気な奴だな……。子供リンク、Rラン
ドの南部、ドンキーコング・ホーテの近くにいます。」

そして、

ピリリリ

アイク「何々……よし!!10万円獲得!!子供リンク捕まった

」

続いでる犠牲者 ヨッシー、ガノン

アイク「！！（スーパーに向かう途中に……ラッキー。）ガノン、ヨッシーランド北部、チトテツ玩具屋前にいます。」

ハンター「……。」

ピリリ

アイク「よし、確保されたな」

これで、アイクは30万円を獲得した。

4人目の犠牲者 ファルコン

ファルコン「よっしゃ！！スーパー封鎖！！」

アイク「はい、お疲れ」

ハンターに、通報。

ピリリ

アイク「おっ、捕まったな。やったあ 肉」

こうして、散々、通報してきたアイク。

アイク「ウルフト、ワリオ捕まって、これで、60万円だから・・・
逃走成功で、288万円・・・つまり、348万・・・凄い・・・
頑張ろっ」

まだまだ、通報する気だ・・・。

亜空間

???「チツ!!」

机を叩く男、相当悔しいようだ。

その男は、タブー・・・。

タブー「おばちゃんを使って、イエローダイヤを盗ろうとしたが・・・
やはり、そう簡単には、いかなかったな・・・。」

プリム1「奴ら、相当な戦力を持ってますからねえ・・・。」

タブー「だが、ガレオムを使って、マスターハンドを戦闘不能にさせたのは、成功だったな。」

プリム2「店員が、ガレオムなんて想像しないでしょうからね。」

タブー「あとは、クレイジーなのだが……どうすれば……。」

プリム1「良い案がありますか？」

タブー「おっ！！そうだ！！あの手があったな……。」

プリム2「あれとは？」

タブー「計画Dのあいっ等さ……。フフフフ……。」

これが、逃走者を大きく巻き込むことになる！！

残り152分。

残り27人。

残り逃走者

マリオ、クッパ、ドンキーコング、ロボット、リンク、ゼルダ、サムス、ピット、スネーク、ネス、リュカ、マルス、アイク、ソニック、ファルコ、ピカチュウ、ゼニガメ、リザードン、ルカリオ、プリン、デデデ、メタナイト、オリマー、ロイ、ドクターマリオ、ミュウツー、ピチユー

裏切り者（後書き）

タブーが、企む計画とは！？

次回、逃走者に更なる危機・・・。

MISSION 4 (前書き)

少し、遅れました・・・。

修学旅行が、近づいているので・・・(汗)

MISSION 4

大統領「おばちゃん達を倒してくれたのは、スマブラメンバーなのか？」

大臣「はい、そのようです。」

大統領「これは、何か、褒美でもあげないとなあ……よし！！大臣！！アレを渡して来てやれ」

大臣「あつ、アレですね！！分かりました！！」

ピット「うわ……酷いことになってるよ……。」

先程の、おばちゃん達の暴動で酷いことになっている道路を見る天使。

ピット「最近の、おばちゃんは、怖いなあ……。」

ピットは、その事実をまだ、知らない。

メタナイト「ん？警察が、たくさん……何か、あったのか……？」

警察官がたくさん集まっている所に行くメタナイト。

メタナイト「どうかされたのですか？」

警察官1「ええ、おばちゃん達が、何処かへ行ってしまつて……。

」

警察官2「手錠だけが、残っているということは、逃げたつてこと
です!！」

警察官3「逃げ足の速い人達です……。」

メタナイト（マリオ達が、逮捕したはずだぞ……?何故だ……
?）

疑問を抱えるメタナイト。

ロイ「それにしても、裏切り者……。」

裏切り者を恐れているロイ。

ロイ「嫌だなあ……。」

常に、恐怖と、隣り合わせだ……。

ピチュー「おばちゃん達……いなくなつて本当に良かった……。

」

安心するピチュー。だが……。

ピリリリリ

ピチュー「まさか……。」

そう、メールだ……。

ピチュー「ミッション4……。」

クッパ「オランダ西部に2匹のジュゲムっぽい奴らが現れた。……
へっ？曖昧あいまいな表現だな……。」

マルス「残り145分になると彼らは、」

オリマー「ハンターを放出する。」

デデデ「このままにして置くと2分毎に、1体ずつ放出する。」

サムス「急ぎたまえ……うん……辛いミッションねえ……。」

MISSION 4 ジュゲムを倒せ!!

オランダ西部に現れた2匹のジュゲムっぽい奴ら。

彼らは、145分になると、ハンターを放出し、そのまま、2分毎にハンターを放出する。

つまり、

残り145分 ハンター1体放出、ハンターの合計5体。

残り143分 ハンター1体放出、ハンターの合計6体。

残り141分 ハンター1体放出、ハンターの合計7体。

残り139分 ハンター1体放出、ハンターの合計8体。

このように、ミッションをクリアしないと、どんどん数が増えていってしまっ！

ロイ「なんだ、このミッション簡単じゃないか。ジユゲム倒すだけだろ？ちよろい、ちよろい。近いし、俺が、行こう。」

近くのため、ミッションに向かうロイ。

ロイ「信頼度UPだ」

だが、この時、彼は、知らなかった・・・。

そう、このミッションの真の恐ろしさを・・・。

残り150分。

残り27人。

ミッション終了まで、あと5分・・・。

MISSION 4 (後書き)

次回、真の恐怖が明らかに!!

そして、牢獄の者達にも、希望の光が!?

MISSION 4 PART 2 (前書き)

いつもより、ちょっと、長いです。

MISSION 4 PART 2

ドンキーコング「ジユゲムって、空にいるんだろ？俺は、遠慮しとく……。」

ジャンプ力があまり無い、ジャングルの王者。

ドンキーコング「今回も、任せよう……。」

デデデデ「おっ、近いぞい!!やるぞい!!」

こちらは、同じ重量級でも、ジャンプ力があるデデデデ。

ミッションに向かうようだ。

ピット「ジユゲムでしょ？雑魚じゃん。簡単にやつつけられるよ。皆に任せよう。僕が、出るまでも無いよ。」

体力を使いたくないようだ。

ドクターマリオ「俺の予想だが、このミッションは楽だ。さっきは辛かったミッションだからなあ……。」

冷静に言うドクター。

これが、吉と出るか凶と出るか。

リザードン「飛ぶのは、得意なんだが、走るのは苦手なんだよ……でも、このミッションは楽そうだから、良いだろ……。」

ずっと、ゲームセンターに隠れるリザードン。

いつまで、隠れ続けるのか？

今回のミッションは皆、簡単だと思っているようだ。

ピチュー「おばちゃんが、いないって幸せ」

尻尾が見えているピチューの近くにハンター……。

ミュウツー「お、おい！！ハンター来てるぞ！！逃げろ！！」

その場を離れるミュウツー。

だが、ミュウツーの声は、ピチューには、聞こえていないようだ。

ハンター「！！」

ピチュー「このまま、逃げ切りたいなあ……って、うわああ！！」

慌てて、逃げるピチュー。

ピーーーーー

ポンッ

ピチュー「あああっ!!!」

ピチュー確保、残り26人。

ピチュー「もう・・・こんな時に・・・」

ピリリー

リユカ「ピチュー確保・・・」

ピカチュウ「ピチュー、捕まったの!?ハンターめ!!!」

ミュウツー「やはり・・・か・・・」

大臣「あっ、貴方ですね!!!おばちゃんを逮捕してくれたのは!!!」

アイク「えっ、はい・・・そうですね・・・」

大臣「褒美です!!!受け取ってください!!!」

アイク「はい・・・」

大臣「有難うございました!!!」

そう言うと、大臣は、去っていった。

アイク「なんだ、この封筒……。」

封筒を開けるアイク。

アイク「ふ、復活カード!?」

残り140分までに、このカードを牢獄に持っていけば、1人だけ、復活させることが出来る。

さらに、復活させた者が逃げ切ると、その金額の半分を受け取ることが出来る。

アイクは、指名やルーレットでも、どの方法でも、復活させることが出来る。

アイク「マルスも、ロイも生き残っているから……まあ、ルーレットでいいか……。」

マリオ「えっ、マジで!?!」

大統領「ええ、貰ってください!?!」

マリオ「復活カードだ!! やった〜!!」

マリオも、復活カードも獲得。

マリオ「これで、ピーチ姫を復活させることが出来るー!!」

マリオは、指名で復活させるらしい。

牢獄

ピリリリー

レッド「通達4だ・・・おっ、マリオと、アイクがミッションの褒美で復活カード獲得だって!!」

全員「やったー!!!」

ワリオ・ウルフ（俺も、もうちょっと、逃げていればなあ・・・）

スタッフ「これが、ルーレットです。」

バツ

全員「・・・。」

フシギソウ「なんか、ワリオとウルフの復活確率高くない?」

子供リンク「あっ、捕まった順だ!!」

円のルーレットは、捕まった者が遅い者ほど、復活しやすい。

つまり、ルイージは、1番復活の可能性が低い。

ルイージ「ちょっと、待って！！僕の名前がルーレットに無いよ！
！」

スタッフ「ありますよ、ここに……。」

なんと、全体の1%にも満たないスペースに書いてあるのだ。

ルイージ「狭っ！！！」

ロイ「いた、いた。ジュゲム……つて、え！？」

なんと、そこにいたのは、亜空軍の2体のスパイ。

通常は、白色の雲なのだが、もう既に黒色の雲になっている。

ロイ「ジュゲムと、全然違うじゃねえか！！！」

ロイが、啞然^{あぜん}とする中、スパイは、高威力の雷を撃って来た。

ロイ「うわあ！！危なっ！！！」

緊急回避で、避けるロイ。

ロイ「そういえば、こいつは、電池を攻撃すれば、大ダメージを……。」

「????」「させるか!！」

ロイ「だ、誰だ?」

すると、メタルプリムを乗せたサイマルが、2体ずつやって来て、2体の電池の上に着地した。

サイマル「これで、電池は、攻撃できまい!!!」

メタルプリム「帰れ、帰れ!！」

ロイ「くそ……これじゃあ、飛び道具で攻撃出来ない……。」

球体に四つ脚がついているサイマル。

こいつには、飛び道具が効かない!!

というか、ロイには、飛び道具が無い……。

デデデ「おい……ロイって、ジユゲムじゃないぞい!！」

ロイ「そうなんだよ……。」

残り147分。

残り26人。

ハンター放出まで、あと2分……。

復活終了まで、あと、7分。

スパ―、サイマル、メタルプリムを無事に、倒せるのか!?

MISSION 4 PART 2 (後書き)

ロイ「メールの内容がまさかのガセ……。誰だよ!! ジュゲムって間違えた奴!!」

デデデ「いいから、倒す方法を考えるぞい!!」

MISSION 4 PART 3 (前書き)

もうすぐ、修学旅行だ〜!!

MISSION 4 PART 3

ゼニガメ「それにしても、リザードンは、何処だ？結構、動き回っているけど、会わない……。」

エリアを探索しているゼニガメ。

ミッションに参加する気は無いようだ。

デデデ「うん……やはり、強いぞい!!」

ロイ「たった、数体なのに……クソ!!」

スパー「どうした、お前ら!!雷攻撃!!」

ロイ「ぐわ!!!危なっ……これじゃあ、近づけん……。」

デデデ「何か、良い対策は無いのかぞい!!」

激しく動き、格闘する2人……そこに……

ハンター「!!!」

見つかった……。

ロイ「俺に、言われても……ゲッ!!ハンター!!」

デデデ「えっ!?マジかぞい!!」

一旦、その場を離れる二人。

ロイ「チツ・・・これじゃあ、ミッションが辛いな・・・。」

ハンター「・・・。」

ロイが、早く気づいたため、2人共、撒いたようだ。

ロイ「撒いたようだな・・・あ・・・しまった・・・デデデとはぐれてしまった・・・。」

デデデ「ロイが、いないぞい・・・とにかく、さっきの場所に戻るぞい。」

ゼニガメ「あゝリザードンいないなあ・・・。」

2人を追ったハンターがゼニガメに近づく・・・。

ハンター「!!」

<タッタッタッタッタ・・・。>

ゼニガメ「うわああっ!!嘘でしょ!?!」

だが・・・。

ポンッ

ゼニガメ「ゼ、ゼニッ!!!」

ゼニガメ確保、残り25人。

ゼニガメ「あゝ．．．はあ．．．残念。」

ミッションをやらなかった罰だ。

ピリリリ

ファルコ「ん？ゼニガメ確保．．．か．．．。」

リザードン「じゃあ、ポケモントレーナー組で残っているのは、俺だけか!？」

ルカリオ「結構、人数も少なくなつて来たなあ．．．。」

オリマー「．．．ピクミンがいないと、私は、あまり強くないですから．．．。」

ピクミンが、いないとスマッシュ攻撃が出来ないオリマー。

オリマー「皆さん、すみません．．．。」

罪悪感が多いようだ．．．。

3

2

1

スパーク「放出だ!!」

スパークが、雷で扉を破ると、ハンターが出て来た……。

ハンター「……。」

猛スピードで走り出すハンター、これで、ハンターの合計は、合計5体となった。

ピンポンパンポン

『ハンター、1体放出、ハンターの合計は、5体』

放送で、全逃走者に、途中経過が発表される。

ドクターマリオ「皆、ミッションをやっていないってことか!? 仕方ない……動こう!」

皆が、やって無いことを動き始めるドクター。

ドンキーコング「やって無いのか!?! やってくれ……。」

他人任せの、ジャングルの王者。

牢獄

アイク「おゝい!! 復活カードだ!!」

全員「やった〜!!」

アイク「じゃあ、ルーレット回すぞ〜!! それ〜!!」

カラカラカラカラカラ……。

果たして、復活出来るのは、誰なのか!?

一方

マリオ「ピーチ姫……待っててくださいね……。」

へトへトのマリオ。

アイク「お……誰だ……誰だ……。」

ディディー「コング」来い！！来い！！」

フォックス「頼む〜！！」

ピタッ

アイク「おっ、ルーレット止まった……。」

トゥーンリンク「やったあ〜！！」

トゥーンリンク復活。残り、26人。

トゥーンリンク「3番目に捕まったから、駄目だと思ったけど、天は、僕を見捨ててなかった！！」

レッド「良いなあ……トゥーン……。」

ルイーザ「どうせ僕なんて、僕なんて……。どうせ、兄さんは、ピーチ姫を復活させるだろうし……うっ……。」

それが、現実。

ロイ「ここ、何処だ？分からない……。」

デデデ「あっ、ロイ、何やってるんだぞい。こっちだぞい。」

ロイ「あっ、スマン……。」

スパー「えりゃ!!雷!!」

ハンター「……。」

ピンポンパンポン

『ハンター、1体放出、ハンターの合計は、6体』

ロイ「ヤバイ!!急ごう!!」

デデデ「勿論だぞい!!」

次々と、出てくるハンター。

スパー達を倒せるのか!?

残り143分。

残り26人。

復活終了まで、あと、3分。

クレイジー「あっ、マスター!!こんな所に!!」

マスター「お、そ、その声は・・・クレイジーか・・・。」

クレイジー「大丈夫か!？」

マスター「あ、ああ・・・ゲームキューブが爆発して誰かにポイされたり、踏まれたり・・・。」

クレイジー「くそ!!俺の相棒になんてことを!!とりあえず、ケガの治療だ!!」

マスターを担ぎ、クレイジーは、病院に向かった。

MISSION 4 PART 3 (後書き)

果たして、マリオは、無事ピーチを復活させられるのか!?

そして、ロイ達は、スパー達を倒せるのか!?

MISSION 4 PART 4 (前書き)

明日から、修学旅行なので、更新が遅れます!!

MISSION 4 PART 4

サムス「やっぱり、参加した方が良かったかしら……。」

ハンター放出の放送を聞き、焦り始めるサムス。

サムス「ちょっと、遠いけど……やっぱり、行こう!!」

ハンターに怖がる様子がなく、サムスはミッションに向かい始める。

ドクターマリオ「俺も、頑張ってミッションやらなきゃなあ……。」

ミッションに向かっていているドクター。

ドクターマリオ「やっぱり……運動は、苦手だな。」

知恵と、体力を使うゲーム、それが、逃走中だ。

ロイ「ここだ!!着いたぞ!!」

デデデ「さあ、戦うぞい!!」

スパー「上等だ!!」

2体のメタルプリムが、2人の所へ降りてきた。

デデデ「喰らうぞい!!」

スタッフさんに、預けていたハンマーで攻撃するデデデ。

メタルプリム1「連続パンチ!!」

デデデ「のあああ!!」

動きは、向こうの方が速い。

ロイ「カウンター!!」

メタルプリム2「くっ・・・やるな・・・。」

スパーク「雷攻撃!!」

デデデ「何っ!?!」

雷がデデデを襲う!!

ドクターマリオ「ドクターマント!!」

雷を跳ね返すドクターマリオ。

スパーク「どわっ!?!」

スパークに直撃。

デデデ「おっ、サンキューだぞい!!」

ドクターマリオ「礼は、良いから早くあいつ等を倒そうぜ……。」

デデデ「勿論だぞい！！ハンマー投げ！！」

サイマル「グエツ！？」

ロイ「おっ、サイマルに、ダメージを！！やるじゃねえか！！」

デデデ「ワシをお荷物だと思ったら大間違いだぞい！！」

スパーク「小癩こじやくな……やってしまえ！！」

牢獄

ファルコン「あっ、マリオだ！！」

ピーチ「おゝい……マリオ……！！」

マリオ「ピーチ姫……！！」

ルイーダ（兄さんは、結局、姫を助けるのか……。いや、待てよ……。）

マリオ「ま、間に合った……。」

ウルフ「どうせ、お前は指名たる？で、誰を復活させるんだ？」

マリオ「そりゃあ、勿論、ピーチひ・・・」

ルイージ「兄さん！！僕を復活させてくれたら、ラーメン奢おごるよ！」

マリオ「何っ！？ルイージを復活させます！！」

マリオ・ルイージ以外「え~~~~~~~~!!!!!!!!!!」

ルイージ復活、残り27人。

ルイージは、ピーチにボコボコにされながらも、牢獄から出てきた。

ルイージ「流石さすが、僕の兄さんだ〜！！」

マリオ「大盛りラーメンだぞ。」

ルイージ「はい、はい。」

ドクターマリオ「ドクターパンチ！！」

サイマル・メタルプリム「どわ〜！！！！」

サイマル・メタルプリムを2体ずつ撃破。

残りは、2匹のスパーのみとなった。

スパーク喜んでる所、悪いが、あと、10秒でハンター放出だぜ
!!!」

ロイ「何っ!? 逃げるっ!!!」

3人は、その場から離れる。

ピンポンパンポン

『ハンター、1体放出、ハンターの合計は、7体』

ロイ「これ以上放出は、させない!!!」

残り141分。

残り27人。

クリア出来るのか!?

アイク「そつちに、ハンターいないか見てくれ、俺はこつちを見る。」

トウーンリンク「じゃあ、僕は、こつちを見ます。」

トウーンが、向こうを向くと、アイクは、ニヤリと笑い、携帯を取り出した……。

MISSION 4 PART 4 (後書き)

ルイージは、人を言い様に使う天才かも・・・。

MISSION 4 PART 5 (前書き)

修学旅行で、遅れました!!

すみません!!

MISSION 4 PART 5

ピット「ハンターは、7体!? あちゃ〜……。皆、頑張ってくれ・
」

祈ることしか出来ない天使。

ピット「頼む〜……。」

アイク（通報、通報……。）

ハンター「……。」

トゥーンリンク「あっ!! アイクさん、ハンターだっ!!」

アイク「何っ!?!」

ハンターに、いち早く気づいたトゥーン。

慌てて、逃げる2人。

しかし、分かれ道ではぐれてしまった。

アイク「トゥーンと、はぐれた……。まあ、ハンターも多くなっ
ているからなあ……。仕方ないか……。」

通報、出来ず。

デデデ「よし、ハンターは、向こうに行ったぞい!!」

ドクターマリオ「よし!!行こうか!!」

ロイ「スパー達!!これ以上、ハンター放出は、させねえぞ!!」

スパー「俺を倒したら言うんだな!!」

雷を出すスパー。

ロイ「へへへ、サイマルが、いないから電池を楽に攻撃出来るぜ!!」

デデデ「一斉攻撃だぞい!!」

ドクターマリオ「もう、終わりだ!!」

3人の攻撃が、炸裂^{さくれつ}。

スパー達「どわあああ!!!!」

スパー、撃破。

デデデ「やったぞい!!」

ロイ「皆の、おかげだー!!」

ミッション、クリアだ。

ピリリリー

サムス「あつ、メール。ドクター、ロイ、デデデにより、ミッションクリアしたみたいね……。良かった……。」「

マルス「あつ、ロイが……。やるなあ……。」「

メタナイト「流石さすが陛下だ……。やる時は、やる……。」「

だが、エリアには、3体のハンターが放出され、合計7体となった。

ルイーダ「いや、嬉しいなあ。兄さんに、助けてもらっなんて……。」「

マリオ「へっ、困った時は、お互い様だろ?」

ルイーダ「うんー!!」

そこに、忍び寄る黒い影……。

ハンター「!!」

見つかった……。

ルイーダ「うわああ！！兄さん！！ハンターだ！！」

マリオ「畜生！！何でこんな時に！！」

2人は、別々の道に逃げる。

ハンターが狙いを定めたのは……

ルイーダだ。

ルイーダ「ヒイツ！！こつち来た〜！！！！」

ルイーダの向かう先に、ミッションに貢献した、ロイ、デデデ、ド

クター。

デデデ「皆で、協力したお陰ぞい!!」

ロイ「デデデの、ハンマーも凄かったしな!!」

ルイージ「皆!!逃げて!!ハンターだよ!!」

ドクターマリオ「何!!...って、お前が、連れて来てるんじやねえか!!」

3人も慌てて逃げる。

だが、ルイージの何という、脅威な逃げ足。

デデデを抜いた。

デデデ「な、何でワシなんだぞい!!」

ターゲットが変わった・・・。

ポンッ

デデデ「のああああっ!!」

デデデ確保、残り26人。

デデデ「緑め!!覚えてろぞい!!」

ピリリリ

ルカリオ「ん？デデデ確保、残り26人。」

メタナイト「へ、陛下……こういう終わり方ですか……。」

ルイージ「危なかった……。」

タブー「スパー達……倒されちゃったか……。」

プリム1「そのようですね……。」

タブー「どうすれば……そうだ……！レックウザ……！リドリ……！」

レックウザ・リドリ「ハイッ……！」

タブー「計画Cを実行だ……！そして、プリム達……！」

プリム1・2「は、はいっ……！」

タブー「あやべっこう綾鼈甲達を呼べ……！」

プリム1・2「了解です……！」

またしても、逃走者に、危機が迫る……。

残り138分。

残り26人。

MISSION 4 PART 5 (後書き)

ルイージ、どこまで、迷惑をかけるんだ・・・。

もう、既に、大暴れ・・・。

静寂（前書き）

今回、ちょっと、長いなあ・・・。

静寂

クツパ「この、作戦は、成功かもしれないな。」

隠れる作戦に、自画自賛しているクツパ。

クツパ「今後も、この作戦だな!!」

動く気は、無い……。

リュカ「別に、自立たなくても、良いや……。」

未だに、裏切り者に怯えているリュカ。

リュカ「自分以外が、裏切り者っていうのも、怖いもんですね……。」

その、元裏切り者に……。

アイク「あつ、リュカだ。」

現裏切り者……。

アイク「えーと……リュカ、オープニングゲーム地点にいる。」

ハンター「……。」

近くに居たハンターが、確保へと向かう!!

リュカ「嘘でしょ!!こつちに、来てる……。」

曲がり角の向こうに別のハンター……。

リュカは、ハンターを追い抜かし、全速力で駆け抜ける!!

ハンター「!!」

こちらの、ハンターにも、気づかれたようだ。

リュカ「ヒイヒイヒイ!!」

ポンッ

リュカ確保、残り25人。

リュカ「うぐう……。」

ピリリー

ネス「えっ!?リュカが裏切り者通報で、捕まった!?今回は、リュカじゃなかったんだ……良かった……。」

半分嬉しく、半分悲しい様子の、ネス。

相変わらず、冷静だ。

アイク「これで、7人目……。」

これで、+70万円。

トウンリンク「ここまで、通報する奴は、あいつしかいない……。」

携帯を取り出すトウン。

ピリリー

クツパ「なんだ？」

トウンリンク「おい！！亀！！リュカまで、通報するなんて、酷いよ！！！」

クツパ「な、何のことだ！？我輩は、何も、やって無いぞ！！！」

トウンリンク「惚^{とぼ}けるな！！牢獄で、ボコボコにして殺^やるからな！！！」

クツパ「だから、違……。」

ブチッ！！ツーツー……。

クツパ「切れた……。」

牢獄

ゴリゴリゴリ……。

子供リンク「ねえ、ウルフ、処刑場の準備は、出来た？」

包丁を、研ぎながら、そう言う子供リンク。

ウルフ「ああ、勿論、バツチリさ！！」

ヨッシー「早く、捕まりませんかね。」

ガノンドロフ「早く、そいつの、泣き顔が見たいもんだ……。クク……。」

アイクに、通報されたメンバーは、処刑場を作っているようだ。

ファルコン・ワリオ「楽しみだな」

目が、ヤバイ。

~~~~~

大統領「おばちゃん達も、いなくなつて、ようやく、一安心だな。」

大臣「これからも、こういう日が続くと良いです……ねえええええええ！！?????」

大統領「ど、どうかしたのか?」

大臣「あ、あれ……。」

大臣の指さす方向には、紫と緑の2匹のドラゴン……。

大臣「嫌な、予感が……。」

リドリ「おい!!」

大臣「は、はい!？」

リドリ「ここを、破壊させて、欲しくなければ、」

レックウザ「ここにいる国民を、全員外出禁止にさせる……。」

大臣「そ、それで、国を破壊しないんですね?」

リドリ「そくだ!!早くしろ!!」

大臣「は、はい!!だ、大統領様!!」

大統領「分かっている!!」

臨時ニュース

大統領「2匹のドラゴンが、国を破壊しようと、している!!命が、欲しければ自分の家や、建物の中に入るんだ!!さもなければ、我々の命が無い!!」

このニュースは、あっという間に、国中に流れた・・・。

~~~~~

国民1「早く、建物の中に避難だ!!」

国民2「バカ!!押すな、押すな!!」

国民3「早く、家に~~~~!!!!」

プリン「な、何?皆、家に、帰って行くよ?」

ミュウツー「きゅ、急に、静かになつたぞ・・・。」

ピリリー

ドンキーコング 通達5・・・。

サマス「リドリーと、レックウザのせいで、建物内には、もう入れない……。リ、リドリー!?!」

ピカチュウ「さらに、国民も、建物内に、避難したため、」

リンク「君達が、目立つようになってしまった、気をつけたまえ……。。」

ゼルダ「え〜!?! 困るよ〜!?! 何やってるの!?! あの、2匹……。。」

リザードン「どわっ!?!」

店員「出て行ってくれ!?!」

ゲームセンター内から、追い出されたリザードン。

リザードン「俺の、秘密基地が〜!?!」

お前の物では、無い……。。

スネーク「あ……。あれが、レックウザか……。。」

ソニック「Hey!!! 何、ボーっとしてるんだい、おっさん?」

スネーク「う、うるさいぞ!！」

~~~~~

タブー「よくやったぞ・・・綾鼈甲・・・。」

綾鼈甲「全アシストフィギュア達の洗脳ですよね?タブー様の、ご命令なら、何でも聞きますよ。」

タブー「では、行って来るのだ!！」

綾鼈甲「了解です! ! 皆、行くぞ! !！」

アシストフィギュア達「ラジャー! !！」

~~~~~

ファルコ「なんか、滅茶苦茶、静かに、なっちまったなあ・・・。」

人が、いない並木道を見るファルコ。

ファルコ「大都会のはずなんだがなあ・・・。」

静かに、なつたGERO国・・・。

そこに・・・

「会いたかった〜 イエイ!!!」

新たな恐怖が、迫ってくる……。

残り133分。

残り25人。

残り逃走者

マリオ、ルイージ、クッパ、ドンキーコング、ロボット、リンク、
ゼルダ、トウインリンク、サムス、ピット、スネーク、ネス、マル
ス、アイク、ソニック、ファルコ、ピカチュウ、リザードン、ルカ
リオ、プリン、メタナイト、オリマー、ロイ、ドクターマリオ、
ミュウツー

静寂（後書き）

次回、新ミッション発動！！

そして、綾鼈甲達の恐怖・・・。

MISSTIONS (前書き)

やっと、テスト終わりました!!

・・・とじじいよび、よろやく更新!!

MISSION 5

ピカチュウ「うわああっ!? ハンターいた!」

ハンターを見つけたピカチュウ。

しかし、ハンターは、気づいていないようだ。

ピカチュウ「ドキドキするなあ……」

エリアには、7体のハンター。

捕まる可能性も、高くなってしまった。

ロボット「今回八、賞金ヲ獲得シタイデスネ……」

ピリリー

ロボット「ムツ……ナンデスカ? 誰カ、確保サレマシタカ? アツ、メールデスカ?」

その通り、メールだ……。

ロボット「ミッション5デス……」

サムス「AYB48（エーワイビーフォーティエイト）が、現れた。

」

オリマー「AYB48は洗脳されており、現在、Rランド西部にある48体のハンターが入っているオリに向かっている。」

ネス「残り115分になると、AYB48が、48体のハンターを放出してしまう。」

リンク「阻止するには、キノピコの秘密の店に行き、『洗脳治す』を自首コインで、買い、AYB48の48人全員を洗脳から解かなければならない。」

ロイ「1人でも、残っていたら、ミッションは、失敗となる。」

マルス「急ぎたまえ……え？秘密の店って何処？書いてない……」

ミッション5

AYB48の洗脳を解け！！

綾鼈甲（AYB）が、アシストフィギュア達を洗脳し、結成させた48人のユニット、AYB48。

残り115分になると、AYB48が、48体のハンターを放出してしまう。

阻止するには、この国の何処かにある、キノピコの秘密の店に行き、自首コインで、『洗脳治す』を購入し、48人全員に薬を使わ

なければならぬ。

スネーク「ミッション1で、自首用コイン使っちゃったからなあ・・・。参加出来ないか・・・。」

ソニック「Really? 困るぜ、おっさん!!」

スネークと、ルカリオは、自首用コインを使ってしまったため、ミッションに参加出来ない!!

ファルコ「アンドロフ・・・やはり、目立つな。」

遠くから、身体が大きいアンドロフを見つけたファルコ。

ファルコ「便利な奴だ。」

ミュウツー「まずは、キノピコの店を探さないと・・・。」

店を探し始めたミュウツー、ミッションに参加する気のようにだ。

マルス「ロイばかり、目立つたら、僕が困るからね!! 参加するよ!!」

マルスも、ミッションに参加。

オリマー「やりましょう!!」

オリマーも、動き始める。

ソニック「おっさんの分まで、頑張ってるZE!!」

スネーク「頼むぞ!!」

どうやら、ミッションに向かうのは、この4人のようだ。

~~~~~

リドリー「まんまと、騙されたな。クソ大統領。」

レックウザ「大笑いだな。」

大統領「なっ!?!?どういうことだ!?!避難させれば、国は、破壊しないはずだろ!?!」

大臣「そ、そうですよ!!」

リドリー「そんなの、嘘に決まっているだろ?!この国を破壊しやすくするためだよ!!」

大統領「な、何~~~~~!!??」

レックウザ「ハハハ!!喰らえ!!破壊こつせ・・・。」

???「ドナルドマジック!!!」

ドガン!!!

レックウザに、直撃だ。

レックウザ「どわああ!!!??な、なんだ!？」

リドリ「だ、誰だ？」

そこには、赤いアフロに黄色い服を着たピエロと、ステッキを持った眼鏡の紳士が立っていた・・・。

~~~~~

残り131分。

残り25人。

MISSION 5 (後書き)

牢獄

ピーチ「マリオと、緑……ククク……。」

フォックス「どうした？目がヤバイぞ？」

ピーチ「マリオは、パンチで半殺し、緑は、ギロチンで穴を開け、その傷口から、塩酸を流し込み……。」

フォックス「……。」

MISSION 5 PART 2 (前書き)

もうすぐ冬休み!!

更新ペースアップだ!!

MISSION 5 PART 2

マルス「うん．．．無いなあ．．．。秘密の店に何回も行ったことは、あるのになあ．．．。」

キノピコの店に行くために動き出した王子。

マルス「何処なんでしょう．．．？」

牢獄

ファルコン「お、おい！！アレが、AYB48じゃないのか！？あつ！！サムライ・ゴローもいる！！！」

ピチュー「AYB！？ほ、本当だ！！！」

カービィ「ナックルジョーもいるよ！！！」

ウオッチ「イッパイ居マスネ．．．。」

フォックス「アンドロフ．．．やはい、デカイ．．．。」

「LALALALA．．．。」

オリマー「ミッションやるって言いましたけど、ここから、抜ける

のは、怖いですね……。」

現在、ゴミ箱の裏に隠れているオリマー。

ハンターに鉢合わせしたら、終わりだ。

オリマー（勇気を出すしかない……。ウリヤー!!）

オリマーが、ゴミ箱の裏から出てくる。

ハンター「……。」

オリマー「!!」

そこには、ハンターの後ろ姿……。

オリマー（向こうに行ってくれ……。）

オリマーの願いは、叶い、ハンターは、向こうに行ったようだ。

オリマー「危ない、危ない……。ここで、捕まったら、ピクミン達にバカにされちゃうよ……。」

オリマーが見たハンターが、

ドンキーコング「ウホホホ、賞金が……。」

ドンキーに迫る……。

ハンター「!!」

見つかった……。

ドンキーコング「バナナ……うわああ!!そんなバカなあ!？」
逃げ出すドンキー。

ポンッ

ドンキーコング「ああ……。」

ドンキーコング確保、残り24人。

ドンキーコング「チエツ……ハンターの馬鹿野郎!!」

ピリリ

ゼルダ「ドンキーさん確保、残り24人。」

クッパ「これで、マリオシリーズは、我輩と、マリオ、そして、ドクターだけか……。」

ルイーダ「ハックション!!」

忘れられている緑……。

ソニック「うん……無い……。」

俊足の足で、国中を走り回るソニック。

ソニック「まさか、建物の中にあるんじゃないだろうな……。」

ミュウツー「誰かにミッションをやるか聞いてみるか……。」

電話をかけるミュウツー。

ピリリリ

マルス「ん？あつ、ミュウツーさんだ……。」

ピッ

マルス「もしもし、どうしましたか？」

ミュウツー「私は、ミッションをやりた、キノピコの店を探しているんだが……お前は、ミッションをやるのか？」

マルス「ええ、一応やっていますが……中々、見つかりません……」

」。

ミュウツィ「そうか・・・見つかったら、何処にあるか、また、電
話してくれ。」

マルス「分かりました。では。」

ピッ

ミュウツィ「まあ、とりあえず、ミッションをやる奴がいて、一安
心だな・・・。」

現在、ミッションをやるうとしてるのは、ミュウツィ、オリマー、
マルス、ソニックの4人。

キノピコの店を見つけ出せるのか!?

~~~~~

リドリ「お前ら、何故、ここに来た!?!」

カーネル「店にいたお客さんが、お前らのせいで、皆、帰ってしま  
ったからだ・・・。」

دونالد「Donaldは、店の売り上げを邪魔する奴は、許せないん  
だ 喰らえ!?! Donaldマジック!?!」

レックウザ「グフ!?!・・・ククク・・・面白い、返り討ちにして

やるぜ！！」

大臣「大統領、我々は、逃げましょう！！」

大統領「そ、そうだな・・・。」

~~~~~

残り127分。

残り24人。

MISSION 5 PART 2 (後書き)

成績が、ヤバイなあ・・・。

ま、良いつか。

フシギソウ「ちょ・・・。」

MISSION 5 PART 3 (前書き)

今年も、もう終わりかあ。。。。

MISSION 5 PART 3

スネーク「あのハリネズミに任せて大丈夫なんだろうか……？」

ソニックが、心配なスネーク。

スネーク「えーと……この辺には、店が無いな……民家しか無い……。」

マルス「駄目なあ……無いよお……。」

すっかり落ち込んでいるマルス。

マルス「いや、でも、諦めたら負けだ!!」

自分で、自分を励ますマルス。

マルス「頑張りマルス!!」

ゼルダ「この辺は、レストランが多いんですね……。」

ファーストフード店が多い所に来て来たゼルダ。

ゼルダ「けど、皆、シャッター閉まってるんだよなあ……。」

無念な姫。

ルイーダ「ミッションは、やりたくない。怖いし……。」

この男は、ミッションをやらないうつだ……。

ルイーダ「ん？あつ、兄さんだ。」

類は、友を呼ぶ。

マリオ「！？なんだ、ルイーダか。ハンターかと思った……。」

ハンター「……。」

実際、ハンターが確かにいたが、2人には気づかなかつたようだ。

そのハンターが向かう先に……

ピット「……。」

ピットだ……。

ハンター「!!！」

<タッタッタッタ……。>

ピット「！！！！？？？？ぐぎゃうふあはいあふあ！！！！？」

ポーンとしていて、気づくのが遅かったようだ……。

ピット「うわあああ！！ギョエエエエエエ！！」

ピット確保、残り23人。

ピット「やっぱり、超速いよー！！」

無惨に散った……。

ピリリー

ロイ「あっ、ピット捕まった！！」

ネス「もうちょっと長く生き残ると思ったんだけどなあ……。」

プリン「あゝピットさんが……。」

ルカリオ「クソッ！！自首用コインがあれば、ミッションやっていたのに……。」

ミッション1で、既に自首用コインを使ってしまったルカリオ。

参加することが出来ない……。

ルカリオ「くそう・・・何か出来ることは・・・ん？こんな狭い通路に店が・・・。」

道を進んで行くルカリオ。

そこに・・・

キノピコ「秘密の店にようこそ！！いらっしやいませ」

ルカリオ「！？え・・・『洗脳治す』ってありますか？」

キノピコ「ありますよ！！！」

ルカリオ（・・・完璧、此処だ！！！）

キノピコ「どうされましたか？」

ルカリオ「あつ、ちょっと、失礼します・・・。」

携帯を取り出すルカリオ。

ルカリオ「とにかく、適当に電話して行こう。」

ピリリリー

リンク「おや？ルカリオさんから・・・。」

ピッ

ルカリオ「もしもし、リンク？秘密の店が分かったんだよ！！！」

リンク「本当ですか!?!」

ルカリオ「ああ、本当だ。Rランド北部の『ニラレバクビル』の狭い道にあるんだ。」

48体のハンターが封鎖されている所は、Rランド西部のため近い。

リンク「分かりました!?!ミッションをやりそうな人に、伝えます!?!」

ルカリオ「よし!?!頼むぞ!?!」

ピッ

ルカリオ「よし、この調子で行こう!?!」

リンク「もしもし、秘密の店は……。」

オリマー「えっ!?!?本当ですか!?!?有難うございます!?!」

ルカリオ「秘密の店は……。」

ミュウツー「フツ、流石さすがだな……。早速、向かおう……。マルスにも、伝えなくてはな……。」

逃走者に、続々と伝わっていく秘密の店。

ソニック「音速で行くZ E!!」

そんな中、

アイク「着いた、着いた……。」

AYB48の所に着いたアイク。

そして、建物の影に隠れる……。

アイク「一網打尽とは、このこと」

笑うアイク。

残り124分。

残り23人。

ミッション終了まで、残り9分。

間に合うのか!?

MISSION 5 PART 3 (後書き)

あつ、年賀状書かなぎゃ・・・。

宿題も・・・。

MISSION 5 PART 4 (前書き)

最後のM-1が終わった・・・。

出場する前に、終わったちゃったなあ・・・。

にかく、ミッションをやってくるZ.E!!」

ルカリオ「おう、頼んだぞ。」

ルイージ「ミッション？僕は、やらないよ。目立つと、『調子に乗るな』とかピーチ姫に言われそうだからね。」

復活しても、ミッションには興味が無い。

ルイージ「でも、やっぱり、ここは、静かだなあ……。」

だが、ルイージに近づくハンター……。

ルイージ「!?!」

ルイージは、驚いて動けない……。

ルイージ（ここまでか……。）

ハンター「……。」

ルイージ（あれ？向こう行った……？）

ルイージの目の前を通ったというのに、ハンターは、気づかずに向こうに行ったようだ。

ハンターの姿が見えなくなった時、座り込むルイージ。

ルイージ「助かった・・・危ない、危ない・・・。」

影が、薄いお陰だ・・・。

ミュウツー「おっ、マルスじゃないか・・・。」

マルス「おっ、今から、秘密の店に行くんですね?」

ミュウツー「勿論・・・。」

2人で、秘密の店へと向かう!!

オリマー「ルカリオさくらん!!」

ミュウツーとマルスよりも、先に着いたオリマー。

ルカリオ「オリマーさん!! ミッションをやるんですか?」

オリマー「はい!! リンクさんが『ルカリオさんが発見した』って
いうのを聞きましたよ!!」

ルカリオ「そうでしたか!! (リンク、伝えてくれたんだ・・・。
偉いなあ。)」

こうして、オリマーも、『洗脳治す』を獲得。

その数十秒後

マルス「あつた〜!!!」

ミュウツー「意外に、遠かったけど、何とか着いたな……。」

ルカリオ「頼みましたよ!!!」

マルス、ミュウツーも、『洗脳治す』を獲得。

こうして、4人が『洗脳治す』を獲得した。

だが、動くとき、ハンターに見つかる危険も高まる。

ルカリオ「……あと、1人……か……。誰かに、電話しよう……。」

ロボット「ん？ルカリオカラ……。」

ルカリオ「あつ、ロボット？今、何処だ？」

ロボット「今、Rランドノ南部ニ居マス。」

ルカリオ「ここは、Rランド北部だから……おつ、結構、近いじゃないか！？お願いだ!!!ニラレバ〜ビルの、狭い道にある秘密の店に来てくれないか？」

ロボット「凄イ所ニアルンデスネ……。分カリマシタ……。行キ

マシヨウ・・・。」

ルカリオ「よし！！頼んだぞ！！」

ピッ

ルカリオ「OK！！これで、大丈夫だ！！ロボット、捕まるなよ・・・。」

その頃、ミッションをやる4人は、同じ場所に合流していた。

4人（何であんな所にハンターいるんだ・・・。）

AYB48の前にハンターを発見した4人。

これでは、上手く動けない・・・。

~~~~~

場所：?????

ドナルドVSレックウザと、カーネルVSリドリーの戦いが行われていた・・・。

ドナルド「ドナルドの足は、ハンバーガー四個分キック！！」

レックウザ「どわあ！！なんだ、このピエロ・・・強ええ・・・。」

ドナルド「食べ物の恨み、そして、売り上げの恨みは、大きいんだ  
！！ドナルドマジック！！」

レックウザ「小癩こしかな！！雷攻撃！！」

ドナルドは、華麗にダンスでかわす。

レックウザ「何！？」

ドナルド「ドナルドは、売り上げを邪魔されると、つい殺っちゃう  
んだ！！皆も、一緒に殺ろうよ！！逝くよ！！ランランルー！！」

レックウザ「グエ！・・・この野郎！！」

カーネル「カーネルファイヤ！！」

カーネルは、チキンの炎で、攻撃する。

リドリー「のおお！！！？？負けてたまるか！！」

カーネル「ステッキアタック！！」

リドリー「チイツ！！吹き飛ばしてやる！！風起こし！！」

カーネル「フフフ・・・私は、負けないよ・・・。」

カーネルの眼鏡が、キラリと光った・・・。

~~~~~

残り121分。

残り23人。

ミッション終了まで、残り6分。

MISSION 5 PART 4 (後書き)

学校の先生に、自分の長所って何？って、聞かれたけど・・・。

何なんだろう・・・？

自分の長所って・・・。

・・・駄目だ！！

短所しか思いつかない！！

ネガティブ思考がっ！！

MISSION 5 PART 5 (前書き)

多分、今年最後の更新です!!

皆様、良いお年を!!

MISSION 5 PART 5

商店街を歩くゼルダ。

ゼルダ「ん？何やら騒がしいわ。」

ドナルド「ドナルドマジック!!」

レックウザ「ギョエエエエ!!」

さらに、

カーネル「カーネル分身!!」

カーネルが10人ほどに、分身する。

カーネル「カーネルサンダー!!」

リドリ「ギャアア!!」

空中で、踊るリドリ。

ゼルダ「見てはいけない物を見たような気が……。」

そこから、逃げるゼルダ。

ソニック「何、立ち止まってキョロキョロしてるんだ……。」

オリマー「向こう行って欲しいですね……。」

すると、ハンターが突然、走り出した……。

ミュウツー「おっ、向こう行ったぞ!!」

マルス「今が、チャンスです!!」

AYB48に向かって走り出す4人。

突然、走り出したハンターが向かった先は……

アイク「おっ、オリマー、ミュウツー、マルス、ソニックが来たぞ……。」

アイクだ……。

アイク「……って、ハンター来てる!?!」

逃げ出すアイク。

アイク「ハアツハアツ……。」

全力で走り続けるアイク。

ハンター「……。」

上手く撒いたようだ……。

アイク「危ねえ、危ねえ……。捕まる所だった……。」

アシストフィギュア達「邪魔するなあ〜!!」

ソニック「放出は、させない!! Hey!! うりゃ!! そりゃ!!」

次々に、『洗脳治す』を使い、洗脳を解いていく逃走者達。

ミュウツー「アンドロフやジュゲムには、ジャンプして解かないとな……。」

ミュウツーも、華麗にジャンプしアンドロフやジュゲムの洗脳を解く。

オリマー・マルス「行くぞおお〜!!」

オリマー、マルスも、負けずに、洗脳を解く。

ロボット「アッ、ルカリオが、イマシタ!!」

ルカリオ「お〜い、ロボット!! こっちだ!!」

ロボットも、秘密の店に到着。

キノピコ「有難うございました」

ロボット、『洗脳治す』を獲得。

ルカリオ「よし、頼んだぞ！！ロボット！！」

ロボット「任せテクダサイ！！」

ソニック「フウ・・・これで、40人の洗脳は、解いたな・・・」

マルス「あと、1人来てくれれば・・・」

オリマー「AYB48も、あと、8人なんですけどねえ・・・」

ミュウツー「そくだ・・・ルカリオに、電話してみたらどうだ？」

マルス「そうですね・・・」

ピリリー

ルカリオ「マルスから・・・」

ピッ

マルス「あっ、ルカリオさん、僕ら、40人の洗脳を解きましたよ！！」

ルカリオ「本当か！？今、ロボットが薬を貰ってそっちに向かって
いるから！！」

マルス「あつ、そうなんですか？」

マルスは、3人にOKポーズをする。

マルス「分かりました！！それでは！！」

ピッ

マルス「ロボットが、来るそうです。」

ソニック「Yes！！これで、ミッションクリアだぜ！！」

オリマー「良かったです……。」

ロボット「ムツ……時間ガ……急ガナイト……。」

ロボット、間に合うのか！？

残り117分。

残り23人。

ミッション終了まで、残り2分。

アイク「場所は、離れていても、もう既に4人の居場所は分かっているんだ。ミッション終了メールが来たら通報して……ククク……」

+70万を獲得している男。

アイク「さらに、メールは誰がミッションをやったか、どうかも、分かるしな」

肉のために、笑う……。

MISSION 5 PART 5 (後書き)

来年も、この小説を宜しくお願いします!!

MISSION 5 PART 6 (前書き)

48体の放出を免れるのか!?

MISSION 5 PART 6

ファルコ「おや・・・アンドロフがいなくなったぜ・・・。ミッシ
ョンをやっているのか・・・？」

高みの見物のファルコ。

ファルコ「それにしても、この緊張感を何とかして欲しいな・・・。

」

これが、追われる側の気持ちだ。

リンク「ハンターいるよ・・・。」

50m先にハンターを見つけたリンク。

リンク「嫌だなあ・・・早く向こう行ってよ・・・。」

ロボット「急ガナイト!!」

走り始めたロボット。

間に合うのか!??

オリマー「あっ、あれ、ロボットさんですよ!!」

マルス「結構、遠いなあ……。」

ミッション終了まで、あと1分。

ミュウツー「足は、遅いからなあ……。そうだ!ソニック!!迎えにいつて『洗脳治す』を受け取ってAYB48の洗脳を解くんだ!!」

ソニック「oh!OK!!行って来るZE!!」

全速力で、迎えに行くソニック。

ロボット「アッ、ソニック……。」

ソニック「俺が、行ってやるZE!!」

ロボット「代ワリニ、行ッテクレルンデスカ?頼ミマシタヨ!!」

ソニックは、『洗脳治す』を受け取り、AYB48の所に向かう!!

ミッション終了まで、残り30秒。

オリマー「おおっ、速い!!」

マルス「これなら、間に合いそうですね!!」

ソニック「行くZEE!!!!」

次々と、洗脳を解いていくソニック。

ソニック「Yeah!!!」

48人目の洗脳を解く!!

ミッションクリア。

オリマー「やりましたね!!ソニックさん!」

マルス「速いですね。。。」

ロボット「ソニック、アリガトウ!!」

ソニック「一件落着!!」

ピリリー

マリオ「おっ、メールだ、ミッション結果だ。。。」

クッパ「マルス、オリマー、ソニック、ミュウツー、ロボットの活躍で、48体のハンター放出は免れた。。。おおっ、凄いな!!」

サムス「皆、よくやった」

~~~~~

?????「.....」

放出されなかった48体のハンターを見つめる謎の男.....

?????「.....」

HUNTER MOVE

ピッ

その瞬間、48体のハンターが消えた.....

~~~~~

ロイ「マルスが、クリアしたんだ.....俺も、頑張らないとな.....」

マルスには、負けたくないロイ.....

ロイ「次の、ミッションはやるぞ!!--」

アイク「皆、ご苦労だったな.....」

携帯を取り出し、

アイク「オリマー、ロボット、ソニック、ミュウツー、マルス。R
ランドの西部の大広場にいます。」

ハンター「……。」

通報。

5人の近くにいた、2体のハンターが5人の確保に向かう!!

マルス「わああ!!!ハンターです!!!2体もいます!!!」

ミュウツー「バ……バカな……。」

一斉に、逃げ出す5人。

ハンターが、狙いを定めたのは、

ミュウツー「こっちに、来た……。」

ミュウツーと、

ソニック「Noooo!!!」

ソニックだ。

ソニック「こんな時に、来るのかよ……。」

逃げ切れるのか!?

残り114分。

残り23人。

~~~~~

ドナルド「ヘッハッハッハッハッ」

倒れたレックウザを見ながら笑うドナルド。

ドナルド「売り上げを邪魔する奴は、許さないんだ」

カーネル「カーネルチキンファイヤー!!!」

リドリー「グアーーーーー!!!!!!」

海に、落ちていくリドリー。

カーネル、勝利。

カーネル「フフフ……。」

MISSION 5 PART 6 (後書き)

今年も、頑張ります!!

下克上（前書き）

2011年、今年のプロ野球も楽しみだ〜

頑張れ、僕らのカープ！！

## 下克上

タブー「どういうことだ！！洗脳を全て解かれてしまったぞ！！」

綾鼈甲「お、おかしいな……。」

タブー「チツ……まあ、良い！！次の計画に移すぞ！！」

綾鼈甲「ハ、ハイ……。」

タブー「スマブラメンバーよ……覚えていろよ……。」

~~~~~

一方、アイクに通報され、ハンターに追われるミュウツー。

ミュウツー「ヌウウウ……。」

捕まるまいと、必死に走るミュウツー。

だが、距離は、段々、縮まっていく……。

ピ—————

ポンッ

ミュウツー「ヌアマ~~~~~」

ミュウツー確保、残り22人。

ミュウツー「嘘だろ……。」

苦勞が、水の泡。

アイクは、これで、+80万を獲得したということになる。

ソニック「ハアハアハア……。」

こちらも、ハンターに追われている音速のハリネズミ。

ソニック「どうすれば……。ん!？」

ソニックの前方に、

アイク「これで、また、2人ぐらい捕まるだろうな」

アイクだ……。

ソニック「アイク!! 逃げてくれ〜!!」

アイク「どわああ!?! ソ、ソニック!! ハンター連れて来るなよ〜!!」

さらに、ソニックがアイクを抜いた。

ピーーーーーーーーーーーーーーーー

標的が変わった……。

アイク「嘘だろ〜!？」

ポンツ

アイク確保、残り21人。

アイク「そんな馬鹿な……。」

悪銭身につかず、だ。

ソニック「すまないことをしてしまったな……。」

ピリリリ

プリン「確保情報……うわあ、嫌だなあ……。」

ドクターマリオ「裏切り者の通報により、ミュウツー確保。さらに、裏切り者アイク確保!!アイクだったのかあ!!」

マルス「アイクめ……。」

ロイ「どうせ、肉目当てだっただろうな……。」

ソニック「なんだ、裏切り者だったのか……。謝る必要は無いな。」

トウーンリンク「ゴメンよ、クツパ。疑ったりして……。」

クツパ「分かってくれば、良いのだ!!グハハハ!!捕まるなよ!!」

トウーンリンク「うん……それじゃあ。」

ピッ

トウーンリンク「アイク……もしかすると、牢獄で……。」

前回の牢獄であった出来事を、思い出すトウーンリンク。

トウーンリンク「考えただけでも、鳥肌が……。」

牢獄

子供リンク「おっ!!裏切り者アイク確保!!」

ワリオ「こいつだったのか……。」

ガノンドロフ「ようやく、処刑場の力が発揮される時が来たな。」

ウルフ「準備しようぜ!!」

処刑場を準備する通報された者達……。

サムス「裏切り者が、いなくなったから少しは、安心ね……。」「
安心するサムス。

サムス「でも、ハンターには、気をつけないと……。」「

~~~~~

ドナルド「どうだい？ドナルドのハンバーガーは？」

マスター「美味いよ！！凄い美味い！！」

クレイジー「カーネルのチキンも美味いぞ！！」

カーネル「どうも。」

呑気に、食事会をする手袋達……。

~~~~~

プリン

リザードン「何だ？」

メールだ。

リザードン「通達6……。」

ルイーダ「これより、ゲームを一時中断し、休憩タイムを取る。やったあー!!」

メタナイト「休憩か……。ようやく、ゆっくり出来るな。」

ピカチュウ「お腹空いた〜。」

残り110分で、ゲームは中断され、休憩タイムに入った。

残り逃走者は、21人となった。

牢獄

ピチュー「あつ、アイクだよ!!」

トボトボと、歩いて牢獄に来るアイク。

ウルフ「ようやく来たな!!さあ、処刑場に来い!!」

アイク「嫌だ〜!!!!」

~~~~~

????「……。」

牢獄の様子をジッと見る謎の男……。

ファルコン『ほら、ギロチンを用意したから動けって!!』

アイク『勘弁してくれ!!死にたくねえ!!』

?????「……。」

HUNTER WARP

ピッ

先程の、48体のハンターが牢獄の後ろにワープされる。

アイク『ヒイヒイヒイ!!嫌だ!!』

ヨッシー『痛いのは、一瞬ですから我慢してください!!』

アイク『嫌ったら嫌!!』

?????「……。」

REVIVAL GAME

ピッ

~~~~~

残り逃走者

マリオ、ルイーダ、クッパ、ロボット、リンク、ゼルダ、トウイン
リンク、サムス、スネーク、ネス、マルス、ソニック、ファルコ、
ピカチュウ、リザードン、ルカリオ、プリン、メタナイト、オリマ
ー、ロイ、ドクターマリオ

下克上(後書き)

次回から、ハーフタイムに突入します!!

・・・って・・・誰でも分かりますよねWWW

REVIVAL GAME (前書き)

突然、届く1通のメール……。

REVIVAL GAME

牢獄

ピリリー

ディディーコング「メールだ。」

メールの内容を見たディディー。

内容に、驚く。

ディディーコング「皆、アイクを殺すのは、ちょっと待って!!」

リュカ「何故ですか？」

ディディーコング「復活ゲームだ!!」

ディディー以外「ええ!!?!?!?!」

アイク、寿命が延びた。

ディディーコング「GERO国の何処かにある1つの箱の中に4枚の復活札を用意した。」

ピチュー「但し、48体の特殊ハンターが追加された55体のハン

「ターから逃げなければならない。」

「子供リンク、ハンターから逃げ、15分以内に見つけたまえ。」

復活ゲーム

復活札を探せ！

GERO国の何処かにある、箱の中に4枚の復活札。

これを15分以内に見つけ出せば最大4人が復活出来る。

しかし、エリアには、7体のハンターを合わせ、55体のハンター。

彼らに捕まると、勿論、失格だ・・・。

また、復活すると、逃げ切った賞金は、通常と同じく288万円を獲得出来る。

しかし、これでは、既に復活したトゥーンと、ルイージに不利なため、彼らも逃走成功すると、288万円が貰えることが決定。

さらに、マリオは、288万+半分の144万を貰えるため、逃げ切ると、合計432万を獲得することが出来る。

これは、アイクが復活した場合でも同じだ。

ピーチ「えっ、特殊ハンター48体ってあれ？」

牢獄の100mほど後ろの方に48体の特殊ハンターがいるのが分かる。

リュカ「どうやら、復活ゲームの時のみ動くみたいだね。」

ゼニガメ「絶対、復活するぞ!!」

アイク「絶対、432万獲得するぞ!!」

デデデ「それに、4枚しか無いってことは、4人までしか復活出来ないということかぞい？」

ピット「そうなるね……。」

デデデ「厳しいぞい……。」

確保された、こちらの23人。

ウォッチ、ヨッシー、ピーチ、ドンキーコング、デイディーコング、ポポ、ナナ、ガノンドロフ、ピット、リュカ、アイク、ファルコン、フォックス、ウルフ、ワリオ、レッド、ゼニガメ、フシギソウ、カービィ、デデデ、子供リンク、ミュウツー、ピチユー

23人の復活劇が今、幕を開ける!!

1
0

9

8

7

6

5

4

3

2

1

ガチャーン!!!

牢獄と、特殊ハンターボックスが同時に開く。

復活ゲーム、スタート。

果たして、復活する者は、現れるのか!?

~~~~~

一方、こちらは、食事をしている生存者達。

サムス「それにしても、まだ、類似が生き残っているのは、意外だったわ……。」

ルイージ「ちょ……まだって……どういうこと!?!」

ゼルダ「復活した瞬間、捕まるかと思って期待してたのに……。」

ルイージ「エエ……!!?!?!?!」

クツパ「でも、ハンターが来ても影薄いから気づかれないかもな。」

スネーク「それは、ありえるな……。」

リザードン「でも、いくら何でもそれは、無いだろ?」

クツパ・スネーク「そ、そうか……。まあ、そうだろうけど……。」

ルイージ「そ、そうだよ!!」(ギク……当たってる……。)

それを、ネスが見ながら、クスクス笑っていた……。

## REVIVAL GAME (後書き)

次回、復活ゲームが本格的にスタート!!

REVIVAL GAME PART 2 (前書き)

最近、疲れと肩こりが酷い。

まだ、高校生なのに、大丈夫かな・・・。

## REVIVAL GAME PART 2

激しい音と共に出てくる48体の特殊ハンター。

デデデ「うわぁ、早速来たぞい！」

フォックス「100m離れていても、これは、キツイぞー！」

デデデ「うわああー！」

ポンッ

デデデ確保、残り22人。

デデデ「無理だぞい……。」

ピーチ「キャアアア！」

ピーチ、転倒。

ポンッ

ピーチ確保、残り21人。

ピーチ「んゝもう……。」

呆気なく散った……。

ガノンドロフ「ピーチが転倒したお陰で何とか撒いたな。この隙に札を探すか。」

札は、4枚。

早い者勝ちだ。

ドンキーコング「何処だ？復活札……。」

札を探すドンキー。

ポンッ

ドンキーコング確保、残り20人。

ドンキーコング「こんな所で捕まる俺って……。」  
悔しがるジャンゲルの王者。

レッド「札は？うわわああ！来た！」

レッド確保、残り19人。

レッド「ハンター多すぎ!!！」

ゼニガメ「よし、ここまで来たら大丈夫。札探しだ！」

安全を十分確認したゼニガメ。

復活への意欲が高まる！

子供リンク「僕、そっち探すからピチューあっち探して！」

ピチュー「分かった！見つけたら電話するね！」

子供リンクとピチューは、分担して復活札を探すようだ。

ウォッチ「アアア！イツノ間ニカ、ハンターガ〜！」

ポンッ

ウォッチ確保、残り18人。

ウォッチ「復活出来る人ツテ、イルンデスカ？」

リュカ「あ〜もう、ハンターしかいないよ〜！」

ポンッ

リュカ確保、残り17人。

リュカ「札なんて無い！もう、嫌だ！」

札は、何処かにある。

フシギソウ「段ボールの中とかは、無いなあ……。ヤバイよ！早くしないと、ハンターが来る！」

どンドン焦るフシギソウ。

ワリオ「おい、ウルフ！あったか？」

ウルフ「無い！……って、ハンター来た！」

ワリオ「うわああああ！？」

ワリオ確保、残り16人。

ウルフ「ギョエエエ！」

ウルフ確保、残り15人。

ウルフ「ハア……。」

ディディーコング「うわあ！！来た！！ヤダ、ヤダ！！来ないで〜  
」

ディディーコング確保、残り14人。

ディディーコング「最悪……。復活出来る訳ないよ……。」

ヨッシー「ありませんねえ……。復活札……。」

先程から、復活札を探すヨッシー。

やはり、簡単には見つからない。

ポポ「ナナ、あった？」

ナナ「駄目だ。こっちにも、無いよ。」

仲良く行動するアイスクライマー。

ポポ「一緒に復活したい！」

ナナとの絆は、1番だ。

ファルコン「何処だ？何処だ！」

自慢の足で、復活札を探すファルコン。

ハンター「！！！」

だが、ハンターに見つかった！

ファルコン「うわ！マジかよ！？……後ろからも来た……。」

ポンッ

ファルコン確保、残り13人。

ファルコン「……。」

復活、ならず。

ファルコン「畜生……。」

ミュウツー「ぐっ、何処だ？」

カービィ「復活札あった？」

ミュウツー「無い……。」

共に行動するカービィとミュウツー。

二人で探しても、やはり、見つからない。

ピット「ハンター来た！あつ、行き止まり……。お願いだから、来ないでくれえええ！」

ポンッ

ピット確保、残り12人。

ピット「……。。」

燃え尽きた……。。

アイク「復活して、絶対に432万！そして、+80万も手に入れてやる！」

復活すると、最も、賞金を多く貰える男。

復活なるか！？

残りは、フシギソウ、ゼニガメ、フォックス、ガノンドロフ、アイク、ポポ、ナナ、ヨッシー、カービィ、ピチュー、子供リンク、ミユウツの12人。

残り8分。

復活出来る者は、現れるのか!?

~~~~~

マルス「アイク復活したらどうする?」

ロイ「勘弁して欲しいね。通報されたく無いし。」

リンク「でも、誰か分かっているから多少は……。」

マルス「でも、アイク結構素早いんだよ。」

ロイ「忍者みたいに隠れるんだよなあ。」

リンク「色々、厄介ですね……。」

REVIVAL GAME PART 2 (後書き)

次回も大波乱です!!

REVIVAL GAME PART 3 (前書き)

ついに、決着!!

復活するのは、誰だ・・・？

REVIVAL GAME PART 3

マスター「あれ？ドナルドは？」

クレイジー「ああ、あいつなら、食後の散歩に向かったぞ。」

カーネル「あいつは、食後の散歩が大好きなんだ……。」

マスター「成る程……。」

~~~~~

ポポ「ナナ、あった？」

ナナ「無いよ……。」

札を探す2人……。

見つからないようだ……。

だが……。

ハンター「!!！」

見つかった……。

ポポ「あつ、ハンターだ!!……後ろからも……。」

ナナ「……。」

ポンツ、ポンツ

ポポ、ナナ確保、残り10人。

ポポ「うぐう……。」

ナナ「復活したかった……。」

フォックス「うわあああ〜!!!」

ポンツ

フォックス確保、残り9人。

フォックス「厳しすぎるだろ……。」

アイク「!?!?……これは……。」

アイク、金色の箱を発見。

アイク「復活札だ……。やった!……ついに、やったぞ!」

アイク、復活札を獲得。

アイク「まだ、残り3枚あるってことは、俺が1番始めってことか……ん？あれは……。」

遠くに、ヨッシーを見つけたアイク。

アイク「まだ、残っていたのか……。通報した奴を復活させたくないなあ……。そうだ!!！」

アイクは、残った3枚の復活札を、箱ごと粉々に折りゴミ箱に捨てた。

これで、残るメンバーの復活は、絶望的となった……。

アイク「やった〜!!！」

だが、その光景を見ていたピエロ……。

ドナルド「……。」

そうは、知らない残った8人のメンバー。

フシギソウ「うわあ〜!!!!!!ハンターが〜!!！」

ピーーーーーーーーーーーーーーーー

ポンッ

フシギソウ確保、残り7人。

フシギソウ「出番、無かったな……。」

子供リンク「電話かけよう……見つかったかな……？」

ピリリー

ピチュー「あつ、子リンから。」

ハンター「!!！」

だが、携帯の音でハンターに気づかれてしまった!!!

ピチュー「こっちは、見つからな……。」

ポンッ

ピチュー確保、残り6人。

ピチュー「捕まっちゃった……。」

子供リンク「ええ〜!!!??？」

計画が、台無しだ……。

さらに、

ポンッ

子供リンク確保、残り5人。

子供リンク「油断してた……。」

ヨッシー「来ないでくださいよおお!!!!お願いですから……  
あああ!!!!」

ポンッ

ヨッシー確保、残り4人。

ヨッシー「やはり、無理でした……。」

ゼニガメ「えええっ!?ハンター来たらダメだよ!!」

ポンッ

ゼニガメ確保、残り3人。

ゼニガメ「もう嫌……。」

ミュウツー「あと、残り時間3分だ……。」

カービィ「ステーキを食べるために、復活したいのに……。」

ミュウツー「まだ、3分もあるんだ……落ち着け。」

カービィ「あ……ハンター来たよ……。」

ミュウツー「何い!?!」

後ろから、10体以上のハンター。

2人は、別々に逃げる!!

ポンッ

ミュウツー「グア!!」

ミュウツー確保、残り2人。

ミュウツー「ヌアアアア……。」

カービィ「嫌だああああ!!!!!!!!!!」

ポンッ

カービィ確保、残り1人。

カービィ「ムペペ〜!!ハンターの意地悪〜!!」

これで、残りは、ガノンのみとなった!!

残り1分。

ガノンドロフ「あるのか・・・?復活札など・・・。」

そこに、黒い影・・・。

ガノンドロフ「あ・・・。」

ハンター「・・・。」

ポンッ

ガノンドロフ確保。

ガノンドロフ「・・・鉢合わせかよ・・・。」

復活ゲーム、終了。

~~~~~

ピリリー

マリオ「おい、復活ゲームの結果が来たぞ!!」

マリオ以外「何っ!?!」

マリオ「裏切り者アイクのみが、復活。後半戦は、計22人で行われる。」

リンク「アイクだけ……?」

ロイ「まさかだろ……。」

スネーク「丁度、半分の数で後半戦が始まるのか……。」

~~~~~

アイク「やったぜ!!!俺だけ復活だ!!!」

ドナルド「ドナルドマジック!!」

アイク「うわああ!!?!?!何だ!?!」

何とか、アイクは、避ける。

アイク「危ないだろ!?!」

ドナルド「ドナルドは、アイクが復活札をへし折っているのを見た

よ！！仲間を大切にしない奴は、許さないんだ！！」

そう言いながら、ドナルドは、右手から破壊光線を出す。

アイク「見られていたのか・・・、カウンター！！」

キンツ！！

アイクは、何とか耐えた。

ドナルド「ヘッハッハッハッハ 残念だけど、君には、地獄という  
牢獄に入って貰うよ！！」

アイク「何いい！？そうなってたまるか！！」

突如、始まったアイクVSドナルド・・・。

勝つのは・・・どっちだ・・・。

REVIVAL GAME PART 3 (後書き)

アイク、生きて後半戦に出場出来るのか!?

## 運命の戦い（前書き）

アイク、後半戦に出場出来るのか！？

## 運命の戦い

牢獄

フシギソウ「まさか、復活がアイクだけとは……。」

ピット「天は、アイクを救ったのか……。クソウ……！」

ファルコン「畜生！！早く、捕まれ……！」

ガノンドロフ「処刑場の出番は、持ち越しか……。」

ドナルド「ドナルドの足は、ハンバーガー4個分キック……！」

アイク「ギャアアア……！」

倒れるアイク。

ドナルド「ヘッハッハッハッハッハ 弱いねえ……。」

アイク「ぐ……何故だ！？俺の攻撃が全く効かない……！」

ドナルド「ドナルドは、バトルが大好きなんだ……！逝くよ……！ランラン……！」

アイク「や……止める……止めてくれ……。」

ドガガガン!!

アイクは、倒れてフィギュアになってしまった。

ドナルド「ヘッハッハッハッハッハ 悪は、滅びるんだよ」

そう言うと、ドナルドは、マスター達の所へ戻って行った……。

アイク強制失格、残り21人。

これで、復活者は、0に……。

数十秒後

プリム1「おっ、あれはアイクのフィギュアじゃないか？」

プリム2「本当だ、俺達が倒したってことにすればタブー様は大喜びだ タブー様の所に持って帰ろうぜ!!」

プリム1「OK!!」

。そう言うと、プリム達は、アイクのフィギュアを運んでいった……。

~~~~~

マリオ「そっぴゃ、あのおばちゃん達って亜空軍だったぞ!?!」

ファルコ「何い!?!それは、確かなのか!?!」

マリオ「ああ、手錠を全員掛けた瞬間、紫色になって影虫が出てきたんだよ。」

ゼルダ「あつ、そっぴゃえば、私、レックウザと、リドリーを見たわ!?!」

ソニック「マジかよ!?!亜空軍・・・完璧に関わってるZ E!?!」

ピリリー

サムス「また、メール?・・・ちよつと、皆、聞いて!?!」

サムス以外「?」

サムス「アイク強制失格、残り21人ですって!?!」

サムス以外「え〜!?!!?!?!?!?!?!」

サムス「どうやら、自分以外の復活札をへし折ったらしいわ。」

マルス「そりゃ、反則だな、失格になる訳だ・・・。」

ロイ「馬鹿な奴だ!?!ハハハ!?!!?!」

スネーク（・・・おかしい、多少の反則じゃ、そう簡単に失格にならないはずだ・・・!!）

クツパ「おつ、もうすぐ後半戦みたいだぞ。」

ロボット「頑張りマシヨウ!!」

ピカチュウ「逃げ切るぞ!!」

スネーク（アイクの事件・・・これは、裏がある!!）

牢獄

リュカ「よっしゃ〜!!!! アイク、こっちに来るぞ〜!!」

ファルコン「ざまあ見る〜!!!!」

ドンキーコング「へし折るとか許せないな・・・。」

ヨッシー「処刑場の準備です!!」

だが、アイクは、いつまで経っても戻って来なかった・・・。

賞金は、現在、156万円。

残り110分から、始まる後半戦。

7体のハンターから逃げる21人の戦いが、再びスタートする！！

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

S
T
A
R
T

運命の戦い（後書き）

次回から、後半戦のスタートです!!

植物と都会（前書き）

後半戦がSTART!!

植物と都会

開始と共に、オープニングゲームが行われた場所から7体のハンターが放出された。

メタナイト「ついに、始まったな……。」

時計を見ながらそう言うメタナイト。

メタナイト「逃げ切りたいな……。」

リザードン「体力は、回復した!!逃げ切り間違いなし!!」

逃げ切りを確信するリザードン。

どこまで粘れるか……。

オリマー「相変わらず、人がいないです……。」

GERO国を見渡すオリマー。

オリマー「妻や子のためにも頑張って逃げたいですね!!」

~~~~~

タブー「おい、あの、植物は、送り込んだな？」

ソードプリム「ええ、しかし、彼が言うには、自分で飛んでいくつて……。」

タブー「相変わらず、言うことを聞かない奴だ……。」

プリム1「タブー様!!！」

プリム2「失礼します!!！」

アイクのフィギュアを運んできた2体のプリム。

プリム1・2「アイクを、見事倒しました!!！」

タブー「嘘付け!!！捨ったんだろ!!！」

プリム1・2（……バレてる!!!!!!）

タブー「お前らの行動は、モニターでバレバレだ。しかし……コイツは、使えるな……。」

タブーは、アイクのフィギュアを見ながら笑った……。

~~~~~

ルイージ「兄さんは、お金のミッションに、積極的だね。」

マリオ「当たり前だろ？金が、減ったら嫌だからな。」

2人で、行動する双子の兄弟。

マリオ「あれ？あれは、マスターじゃないか？」

ルイージ「本当だ。」

マスター「おっ、マリオと、緑じゃないか。どうした？」

マリオ「どうした、じゃねえよ。なんで、そんな所で食事会してるんだよ。」

クレイジー「お腹空いたから……。」

ドナルド「ハンバーガーは、最高なんだ。」

カーネル「腹が、減ったら何も出来ないだろ？」

ルイージ「そうだけどさ……。」

リンク「後半戦、いよいよ始まりましたけど……やはり、緊張しますね……。」

白熱の戦いとなった前半戦を振り返るリンク。

リンク「うわっ！！ハンター！！」

ハンターをいち早く見つけたリンク。

慌てて距離を稼ぐが、

ハンター「！！」

見つかった……。

リンク「あっ！！ヤバイ！！来た！！」

さらに、スピードを上げるが、距離は縮まるばかり……。

ポンッ

リンク「うわあああ！！！！！！」

リンク確保、残り20人。

リンク「意気込みしていたのに……。」

5分も経たずに、散った……。

ピリリー

ネス「あっ、リンクさん捕まった……。もうちょっと、長く生き残ると思ったんだけど……。」

ゼルダ「リンク……捕まっちゃったのね……。」

トウインリンク「リンクさんが……あゝあ……。」

~~~~~

こちらは、GERO国を目指し、両手をバタつかせながら、飛んでいる植物。

大きな口、ギザギザの手、赤色の頭……。

ボスパツクン「ヒヤハハ……！！俺様が、国を泥だらけにしてやるぜ……！！！」

新たな恐怖が、訪れようとしていた……。

~~~~~

ボスパツクン「ヒヤハハハ……！！！！！」

????「……。」

モニターに映るボスパツクンを見る謎の男……。

????「……。」

すると、突然、亜空軍について調べ始めた……。

色々な、画面が出て来ており、一際大きく画面に映っているのがタブー。

「????」。。。。」

タブーの写真をジッと睨む謎の男。。。。

~~~~~

残り105分。

残り20人。

残り逃走者

マリオ、ルイーダ、クッパ、ロボット、ゼルダ、トウインリンク、サムス、スネーク、ネス、マルス、ソニック、ファルコ、ピカチュウ、リザードン、ルカリオ、プリン、メタナイト、オリマー、ロイ、ドクターマリオ

植物と都会（後書き）

次回、新ミッション発動・・・。

## MISSION 6 (前書き)

理系小説家ワーグナー、今日も頑張ります!!

## MISSION 6

ロボット「タブー達ノ、亜空軍ガ、関ワツテイルノデスカラ、何トシテモ逃ゲタイデスネ……。」

過去に、悲しい過去を持つロボット。

ロボット「負けラレマセン!!!」

ピリリリ

ソニック「ん……また、誰か捕まったのか？それとも……あつ、やっぱりミッションか……。」

マリオ「GERO国にボスパックンが接近中だ。」

スネーク「彼は、残り85分になると、GERO国中に、泥を撒き散らしてしまい、」

ルカリオ「泥まみれのGERO国の床は、滑りやすくなり、相当な悪臭を漂い、」

プリン「今後の、戦いに深刻な影響をもたらすことになる。」

メタナイト「ボスパックンが、来るのを阻止するには、」

マルス「火力発電所に行き、発電を開始させて、煙突えんとつから出す煙で、

サムス「退治させなければならない。」

ファルコ「このミッション、ハンター放出よりキツイな。悪臭に、包まれるなんて勘弁だぜ。」

## MISSION 6

ボスパックンを退治せよ！！

GERO国に、近づいて来るボスパックン。

残り85分になると、GERO国に、相当な悪臭がある大量の滑りやすい泥を出して、今後の戦いに影響を及ぼしてしまう。

阻止するには、オランダ南部にある火力発電所を作動させなければならない。

オリマー「何か、ピンと来ないミッションですね……。しかし、泥まみれになるのは、嫌ですが……。」

火力発電所から遠いオリマー。

ミッションに行くかどうか、迷う……。

ファルコ「フォックスもウルフもいねえんだ、ちょっと近いからミッションやるか……。」

ファルコが、ミッションに向かう!!

ネス「服が泥まみれになるのは嫌だな……。行こう。」

ネスも、ミッションに向かう!!

ゼルダ「私……。行きます……。服、汚れたくないので……。」

ゼルダも火力発電所に向かうようだ……。

だが、

マリオ「汚れる?俺らなんて、今まで臭い所や滑る所なんて、いくつも体験してるんだ。行くまでも無いな。」

ルイーダ「そうだね、兄さん。」

スネーク「任務では、臭い所なんて当たり前だ・・・行く必要無いな・・・。」

プリン「野生の時、臭い所なんて、何処でもあったもん。平気よ。」

ミッションに興味が、無い逃走者達・・・。

~~~~~

プリン「皆、我慢しないと人生やって行けないと思うんだよね・・・。」

?????「・・・。」

HUNTER T・G

モニターに、おばちゃん達にやられたハンターが映し出される。

REVIVAL

ピッ

10%・・・40%・・・70%・・・100%

REVIVAL COMPLETION

画面をスライドすると、RELEASEの文字。

男は、それを躊躇^{ちゅうちゆ}することなく押したのだった……。。

~~~~~

ボスパツクン「ヒヤハハ……!!行くぜ……!!」

ボスパツクンの暴走を阻止することが出来るのか!?

残り102分。

残り20人。

ミッション終了まで、あと、17分……。。

## MISSION 6 (後書き)

ボスパックンの泥攻撃は、スーパーマリオサンシャインの時のを思い出して貰うと嬉しいですね・・・。

**MISSION 6 PART 2 (前書き)**

最近、結構、時間が出来てきました。

## MISSION 6 PART 2

ドクターマリオ「悪臭か・・・そんなのウィルス退治と比べたら楽さ。」

泥や悪臭が怖くないドクターマリオ。

ドクターマリオ「さて、これからどうしようかな・・・。」

牢獄

リンク「あれ？まだ、アイクは、来ないんですか？」

牢獄に、たどり着いたリンク。

ヨッシー「それが、まだなんですよ。」

ファルコン「おかしいな・・・もうとっくに着いてる時刻なんだけどなあ・・・。」

ドンキーコング「もう帰ったとか？」

デイディーコング「いや、それは、無いと思うよ・・・。」

ピリリリリリー

サマス「えっ、何？通達？」

ピカチュウ「おばちゃん達にやられていたハンターが復活した。」

リザードン「ハンターを1体追加して、合計8体となる。」

マリオ「あの、おばちゃんバズーカにやられたハンターか！！」

ルイーダ「でも、1体増やすなら1体減らして欲しいよね。」

マリオ「畜生・・・おばちゃんがあんなことするからだ・・・。助けて貰ったから文句は言えないが・・・。」

これが、おばちゃんの置き土産だ・・・。

プシュー！！

激突病院の前から放出されたハンター。

ハンター「・・・。」

勢いよく走り出した・・・。

リザードン「ん？何か変な音が聞こえたぞ……。」

その場から離れるリザードン。

先程の場所をそつと、覗いて見ると、

ハンター「……。」

ハンター「……。」

リザードン「やはり……。」

リザードンは、気づかれずに逃げたのだった……。

ソニック「ハンター1体放出されたけど、裏切り者よりは、良いZ  
E!!!」

ハンターを振り切ることに、かなりの自信があるソニック。

ソニック「何処からでも来い……。」

ファルコ「この辺だな、火力発電所。……にしても、この辺は、  
発電所が多いぜ。」

見渡すと、風車や、水車などが確認出来る。

ファルコ「ん？これだな・・・火力発電所。」

だが、発電所の裏側へ来てしまったため、表側に向かわなければならぬ。

ファルコ「面倒だな・・・ん、さらに、面倒なものもあるぜ・・・。」

ファルコの視線の前にハンター・・・。

幸い、ハンターは、気づいて無いようだ。

ファルコ「表側から、行つてたら捕まっていたな・・・。」

ファルコは、ミッション終了まで、まだまだ時間があるため、ハンターが向こうに行くのを気長に待つことにした。

ファルコ「一体いると、いないじゃ、こんなに違うとはな・・・。」

ゼルダ「あゝ・・・疲れた・・・。」

走り続けたせいか、息切れの姫。

ゼルダ「明日、絶対、筋肉痛ね・・・。」

運動不足だ。

ネス「オランダ南部ってこの辺だな……。それにしても、空気が悪そうな場所だなあ……。工場ばかり……。」

自分の故郷の方が、ダントツで空気がおいしいと感じたネス。

都会にも、一長一短だ……。

ファルコ「よし、いなくなったな。向かうか……。」

発電所の表側に着いたファルコ……。

だが、

ファルコ「鍵がかかってる!？」

ネス「あつ、ファルコ……どうしたの?中に入るうよ!！」

ネスも、到着。

ファルコ「開かないんだ……。」

ネスは、扉を押したり引いたりしたが、開かなかった。

ネス「ここだよね……?」

ファルコ「ああ……場所は、間違いない……。」

すると、扉の隅っこに、ある紙が貼られていた。

ファルコ「何、何……。なっ!? 面倒な事しやがって……。」

ネス「どうしたの? 何が、書いてあったの?」

ファルコ「見てくれ……。」

紙を見せるファルコ。

果たして、その内容とは!?

~~~~~

ネス『ええ〜!? こんなことってあり……?』

?????「……。」

男は、画面を切り替えると、タブー達の映像に変わった……。

~~~~~

タブー「ハハハ!! 洗脳完了!!」

プリム1「何をしたのですか? タブー様。」

タブー「アイクの洗脳だよ。これで、アイクは、亜空軍入りだ……。」

」。

タブーは、アイクをフィギュアから戻す。

アイク「……。」

そこには、先程とは、明らかに違う鋭い目をした黒い服のアイクが立っていた……。

その後、タブーの狂った笑い声が、部屋中に広がっていた……。

~~~~~

????「……。」

男は、タブー達の映像を切った。

????「……。」

そして、タブーのデータに、『要注意人物』と書き加えた……。

~~~~~

残り98分。

残り20人。

ミッション終了まで、あと、13分……。

MISSION 6 PART 2 (後書き)

果たして、紙に書いてあった内容とは!?

MISSION 6 PART 3 (前書き)

やっと時間が取れた・・・。

## MISSION 6 PART 3

手紙の内容を見終わったネス。

ネス「家に、行くの？」

ファルコ「そうだ、どうやら所長は、心配性なため、鍵が家にあるんだ。用がある人は、理由を言って鍵を貰って入ってくれ……だつてよ。」

ネス「この発電所、管理甘いなあ……所長の家バレバレじゃん。」

ファルコ「この地図を見てみると、所長の家は、そんなに離れてないな……。」

ネス「行くしか無いよね……。」

ファルコ「ああ、説得にちよつと時間が、かかるかもしれないが……。」

そう言い、二人は、所長の家に向かって行った。

ピカチュウ「ここ、嫌な場所だなあ……。」

シャッターが閉まっている商店街を歩くピカチュウ。

ピカチュウ「この辺目立つな・・・うわ！！ハンター！！」

電柱に隠れるピカチュウ。

ハンター「・・・。」

ピカチュウ「よし、左に曲がってくれたな・・・危ない・・・。」

何処にいても油断は禁物だ。

ロボット「暇デスネ・・・。」

機械のため、泥など全く関係の無いロボット。

ロボット「誰カニ電話デモ、カケマシヨウ・・・。」

ピリリリ

サムス「あら？ロボットから・・・。」

ピッ

サムス「もしもし？どうしたの？」

ロボット「イヤ、コノミッション興味が無イカラ、暇ナンデス・・・

」。

サムス「私もよ。汚れなんてどうだって良いのにね……。」

ロボット「ソウデスヨネ……。皆、興味無いデスヨネ！」

サムス「まあね……。でも、そんなに大きな声出さない方が良いわよ。」

ロボット「アツ、ソウデスネ……。スミマセン……。」

サムス「じゃ、この辺で切るわ。じゃ。」

ピッ

ロボット「ソウデシタ……。ハンターニ、マダマダ気ヲツケナイト……。」

初心忘れるべからず……。だ。

オリマー「私は、宇宙服で守られてるんで、泥は、平気ですよ。」

水中や、毒などに入っても平気なオリマー。

さらに、日の出から日没まで走ることが出来る脅威の持久力も持っている。

オリマー「でも、ハンター8体はキツイですね……。」

メタナイト「……。」

息を殺す一頭身の仮面。

メタナイト「ムッ……ハンター!?!」

気配を感じ、素早く逃げるメタナイト。

スネーク「ん?今、誰かいなかったか?」

スネークだ……。

メタナイト「ハアハアハア……撒いたようだな……。」

必死に走ったメタナイトに、

ハンター「……。」

本物のハンター……。

ハンター「!!」

メタナイト「ハンターは、1体増えただけで……うわっ!!」

すぐ逃げるが、

ポンッ

メタナイト「うわあぁ〜!!」

メタナイト確保、残り19人。

メタナイト「ハンター多すぎるだろ……。」

ピリリリ

ファルコ「うわっ!!うるせえよ!!」

ネス「声大きい。」

ファルコ「……スマン。メタナイト確保だつてよ。」

クツパ「メタナイト確保だ……。もうこれで、悪役は、我輩のみ  
だな……。」

マルス「メタナイトまで、捕まっちゃったな……。」

トウインリンク「もう、リンクさんまで捕まっちゃったんですよ。  
復活した分、逃げ切らなきゃ!!」

気合は、十分のようだ。

ファルコ「よし、着いたな。地図によるとこれが所長の家だ。」

ネス「早く貰って国がドロドロになるのを防ごう……」

そう言うとネスは、家のインターホンを押したのだった……。

残り94分。

残り19人。

ミッション終了まで、あと9分……。

MISSION 6 PART 3 (後書き)

DERO!の方も、宜しく!!

**MISSION 6 PART 4 (前書き)**

今年の流行語大賞は、何かな？

MISSION 6 PART 4

ピンポーン

ファルコ「……本当にいるのか？もし、いなかったら……。」

ネス「いてくれ……。」

??「なんででしょう?。」

ネス「!!!あ、あの……火力発電所の所長さんですか?」

所長「そうですけど……。」

ネス「火力発電所の鍵を貰いたいですけど……。」

所長「なんで?君達、関係者じゃないでしょ?それに、後ろにいる鳥人間には、貸したくないよ。じゃ……。」

ブツツ……。

ネス「……。」

インターホンを見つめるネス……。

ファルコ「あの野郎……誰が鳥人間だ……。」

少々、切れ気味のファルコ。

ファルコ「話し合ってきた。」

ファルコは、そう言うと、家の扉を開け、入って行った。

すると、たくさんの悲鳴と、鈍器の音がネスには聞こえた……。

ガチャと、扉の音が聞こえるとファルコが鍵を持ちながら、こつちに来ていた。

ファルコ「ちょっと、説得に時間が掛かった。さあ、発電所に行こうぜ。」

絶対、説得では無い……。

ネス「う、うん……。」

ネスは、少しポーツとしていたが、ファルコとの距離が離れていることに気付くと、慌てて付いて着た。

所長「痛……。」

ゼルダ「もうダメ……。ミッション行かない……。」

疲れてしまって動けないゼルダ。

運動不足だ。

スネーク「ん？あの飛んでいる奴・・・ボスパックンか？」

ボスパックンを見たスネーク。

スネーク「・・・何か苦しそうだな・・・。墜落するんじゃないのか・・・？」

~~~~~

ボスパックン「少し、疲れてきた・・・だが、あと、もう少しだけ！！」

~~~~~

ボスパックン『泥だらけ　ヒヤッハッハッハ』

????「・・・。」

ボスパックンを見る謎の男・・・。

SAFEGUARD SHOES

謎の男は、それを押した。

すると、8体のハンター全員に滑り止めシューズが装着された・・・

これで、ハンターは、泥で滑らない。

だが、逃走者は、それをまだ、知らない……。

アイク「タブー様、あんな植物で大丈夫なんですか？」

プリムが運んできたお茶を飲みながら聞くアイク。

タブー「心配するな、アイク。ボスパックンが殺られたら背後にいるメタリドリーに暴れてもらう。」

アイク「成る程……それなら大丈夫そうですね……。」

アイクが飲み終わったお茶のコップをテーブルに置くと、プリムが下げに行った。

タブー「クククク……スマブラメンバー達よ……精々（せいぜい）足<sup>あが</sup>掻くが良さ……。最終計画は、既に始まっているんだ……。」

ソニック「おっ、ハンターか……？」

ハンター「!!！」

ソニック「来た……。」

ハンターと遭遇したソニック。

だが、自慢の足で上手く撒いたようだ……。

ソニック「遅すぎるZE!!」

オリマー「自首は、しませんよ。自首したお金で妻や子供にプレゼントをあげても嬉しくありませんもん。」

サラリーマンのため、責任は、十分あるオリマー。

オリマー「あえて、公衆電話から離れて置きましょう……。」

マリオ「泥だらけになったら、ピカチュウとかリザードンとかは、泥だらけで大変だろうなあ……。」

ルイージ「僕らは、靴を履いてるけど、ポケモンは、裸足だからね……。」

マリオ「俺らは、泥だらけになっても大丈夫だ　アツハツハツハ  
ルイージ「そんな大きな声出さないでよ・・・ハンターに見つかる  
よ・・・。」

ピカチュウ・リザードン「ハックション!!」

ファルコ「ふう・・・発電所に着いたぜ・・・。あの所長のせいで  
余計な手間かけた・・・。」

ネス「さあ、早く開けよう。」

鍵を差し込み、回して抜くと、扉が開き二人は入って行った。

ファルコ「さて、発電所を作動させるには、どうすれば・・・。」

ネス「ねえ、ファルコ・・・。」

ネスは、ある本をファルコに差し出した。

ファルコ「ん？なんだ・・・？取り扱い説明書？」

分厚い本を受け取り、パラパラとめくると、ファルコは、ため息をついた。

ファルコ「あの所長・・・厄介なことしやがって・・・。」

ファルコが、呆れた訳とは!?

残り89分。

残り19人。

ミッション終了まで、あと、4分・・・。

MISSION 6 PART 4 (後書き)

アジアカップ日本世界一!!

やりいゝ

李、決勝ゴール!!

凄い!!

ちなみに、サンフレッチェファンです

MISSION 6 PART 5 (前書き)

忙しいなあ・・・。

ふう・・・。

## MISSION 6 PART 5

ファルコ「3階まで行かなければならないのか？」

ネス「そうみたい……。」

どうやら、作動させるためには、ここにある1階の『確認スイッチ』と、3階にある『異常無し』スイッチを押さなければならぬようだ。

ファルコ「今の所長は、心配性だから、導入されたつてよ。」

ネス「間違つて押したら嫌だからかなあ……。」

ファルコ「仕方ねえ、3階に向かうぞ。」

ネス「1階の『確認スイッチ』は、もう押しておいたよ。」

スイッチには、簡単には押されないように、プラスチックの容器が被せてある。

ファルコ「よし、あとは、3階だな。」

ネス「エレベーター故障中だつて。」

ファルコ「チツ……階段で行くのかよ……。」

一方

プリン「あ……。ハンターいるねえ……。」

しゃがんで身を隠すプリン。

ハンター「……。」

プリン「……良かった……向こう行ったみたい……。」

まだまだ、恐怖は、終わらない……。

食事会をしている4人。

マスター「あ……。この本、凄い良い本だ。」

クレイジー「何の本を読んでいるんだ？」

マスター「俺の書いた本だ！！マスター最強伝説！！」

カーネル「……面白いのか？」

マスター「ああー！！」

ドナルド「下らない本だね」

~~~~~

「????」

4人を見つめる謎の男。

ドナルド「自然に体が動いちゃうんだ　へっハッハッハッハ」

マスター「あゝ!!俺の本を燃やさないでくれ!!」

「????」

FIGHTING POWER CHECK

戦闘力を調べる謎の男。

DURING INVESTIGATION

40%・・・80%・・・100%

COMPLETION

MASTER HAND・・・300

CRAZY HAND・・・350

KERNEL・・・800

DONALD・・・80000

???「・・・。」

男は、ドナルドにタブーと同じように『要注意人物』と書き込んだ。

マスター『本が灰になった・・・。』

???「・・・。」

~~~~~

マリオ「432万を手に入れて、ルイージに、ラーメンをおごって貰う。ウヒョヒョ・・・。」

ルイージ「一人で笑わないでよ。気持ち悪い。」

マリオ「ラーメン・・・あゝハンターだ。」

ルイージ「うわあ、棒読み・・・っていつか逃げようよ!!」

ハンター「!!」

見つけた・・・。

ルイージ「兄さん、来たよ!!」

マリオ「何イイイイ!!!!???」

2人は、別々に分かれて逃げる。

ハンターが狙いをつけたのは・・・

ルイージだ。

ルイージ「こっちに来た!!」

必死に、逃げるルイージ。

そして、曲がり角の先に・・・ピカチュウ。

ルイージ「ヒエッ!!」

ピカチュウ「ルイージが、走ってる・・・?」

ルイージが走り去るのを見たピカチュウ。

ハンター「!!」

ルイーヂを追っていたハンターがピカチュウに気付く。

ピカチュウ「あ……。ウワァア〜!!」

ポンッ

ピカチュウ確保、残り18人。

ピカチュウ「うわあ……。ここで終わり？ルイーヂめ……。」

驚きが、隠せない……。

ピリリリ

マリオ「ゼエゼエ……。ルイーヂ、捕まったのか？あれ……。？ピカチュウ確保。」

ルカリオ「ピカチュウ、確保された……。？これで、ポケモン組は、あと3人か……。」

ルイーヂ「ハアハアハア……。疲れるなあ……。」

ファルコ「長い階段だったぜ……。着いた……。」

ネス「あれだね、スイッチ……。」

被さっているプラスチックの容器を外すネス。

ネス「えい!!」

スイッチを押すネス。

『これより、作動します。4ケタのパスワードを入力してください。』

ファルコ「何っ!？」

ネス「パスワード!? さっきの取扱説明書に書いてあったのかな……。」

ファルコ「……。それしか、無いだろう。」

ネス「僕、見に行くよ!! 見つかったら携帯で電話するから!!」

ファルコ「分かった。聞いたら俺が入力するからな。間に合えよ!!」

ネスは、階段を駆け降りて行った。

残り86分。

残り18人。

ミッション終了まで、あと1分・・・。

MISSION 6 PART 5 (後書き)

次回、とうとうミッション6終了、間に合うのか、それとも……。

MISSION 6 PART 6 (前書き)

パソコン・・・調子が悪かったです・・・。

## MISSION 6 PART 6

ミッション終了まで、あと1分・・・。

ネス「ハアハアハアハアハア・・・。」

必死に階段を降りるネス。

ネス「何故か、ここの発電所の階段は多いな・・・。」

ファルコ「あいつ・・・間に合うのか・・・？間に合ってくれ・・・。」

ネス「よし、1階に、着いた・・・。えーと、取扱説明書は・・・あった！！」

パラパラと、ページをめくるネス。

ネス「あれ？何処？パスワード？」

焦りが、積もる。

ミッション終了まで、残り30秒・・・。

ネス「あった！！4649だ・・・。ファルコに、電話・・・。」

ピリリリ

ファルコ「おい、ネス、パスワード、何番だ？」

ネス「4649だよ!!急いで!!」

ファルコ「(宜しく・・・かよ・・・)(任せろ!!」

ミッション終了まで、あと10秒・・・。

ファルコ「4649・・・。」

ピッピッピッピッピッ。。。

『認証しました、これより作動します。』

ファルコ「よっしゃ〜!!動き始めたぞ!!!!」

ミッションクリア。

ピリリ

ゼルダ「あっ、『ミッション結果・・・ネスとファルコにより、国

がドロドロになるのを防いだ。やった。有難う……。」

ネス「良かった……。ファルコ、間に合ったんだ……。」

ファルコ「やったぞ!!！」

ネス「協力って素晴らしいね!!！」

ファルコが、階段を使い下りて来た。

ネス「そういえば、パスワードが、4649（宜しく）だったね……。」

ファルコ「いい加減だよな……。」

~~~~~

ボスパックン「この国をドロドロに……。ノワアア!!!!！」

火力発電所の煙に驚き、落下するボスパックン。

体は、炎に包まれている。

マスター「な、何だ？ボスパックン？」

ボスパックン「な、何故……。け、煙が……。」

虫の息のボスパックン。

ドナルド「自然発火するボスパックン スクープだ」

カメラを取り出すドナルド。

カシャ！

ドナルド「よし、撮れた」

クレイジー「こいつ・・・死んでるな・・・。」

カーネル「何が、起こったんだ？」

???「ヒヤハハハ！やはり、ボスパックンじゃ駄目だったか！」

マスター「その声は・・・。」

メタリドリー「俺様だ！！」

炎を吐きながら、近づくメタリドリー。

クレイジー「くっ、・・・厄介な奴だ・・・。」

ドナルド「そうか！！あの植物を殺したのは、君だね！！ドナルドは、犯罪を許さないんだ！！」

ドナルドは、リンゴを投げた。

メタリドリー「ふん！ー！こんな物、燃やしてやる！ー！」

ドナルド「へえー・・・燃やしちゃうんだ。」

メタリドリーは、リンゴを燃やした。

ドゴゴゴーン！ー！

メタリドリー「何だあああああ！ー！？？？？」

メタリドリーは、地面に落下。

ドナルド「ヘッハッハッハッハ それは、リンゴ型爆弾さ・・・。

ドナルドマジック！ー！」

メタリドリー「ギヤアアアアアアアア！ー！」

メタリドリー、焼死・・・。

ドナルド「ヘッハッハッハッハッハ」

3人「・・・。」

マスター達は、開いた口が塞がらない・・・。

~~~~~

サムス「今、爆発がしたような・・・気のせいかしら。」

ドクターマリオ「おつ、火力発電所が作動してるな。やっぱり、たくさん煙が出てるな……。」

火力発電所を見つめるドクター。

ドクターマリオ「これだから、地球温暖化が……。」

スネーク「ボスパックン、落ちて行ったな。」

ボスパックンが、落ちたのを見たスネーク。

スネーク「このままじゃ、先が不安だな。この先、何が待ってるんだろうな……。」

残り84分。

残り逃走者は、18人……。

逃げ切れるのか!?

所長「スマブラメンバーめ……クククク……。」

MISSION 6 PART 6 (後書き)

次回、亜空軍、謎の男、そして、所長に新たな動き・・・。

一寸先は闇(前書き)

今回、結構長いです・・・。

## 一寸先は闇

プリン「泥だらけっていうのも、滑って面白そうだったんだけど・・・まあ、クリアした方が良いよね・・・。」

ちよっと、ミッションクリアが、残念なプリン。

プリン「ま、いつか。」

気持ちの切り替えが早い・・・。

ネス「ねえ、ファルコ？話し合って鍵を貰ったんだよね？」

火力発電所を出る2人。

ファルコ「ああ、そうだと言ってるだろう・・・。」

同じ質問ばかりで、飽きているようだ・・・。

## 牢獄

デイディーコング「ピカチュウ、お疲れ・・・。」

ピカチュウ「あゝあ・・・捕まっちゃったよ・・・。」

牢獄に入るピカチユウ。

ピカチユウ「あれ？アイクは？」

ファルコン「それが、まだなんだ。道に、迷っているのか？」

リュカ「いやいや、それだったら、時間掛かり過ぎでしょ……。」

ヨッシー「事故に遭ったとか……。」

レッド「それも無いんじゃない？GERO国の国民は、ほとんど避難してると思うし、車なんて全然通らないよ。」

ウルフ「そうだよな……じゃあ、何でだ？」

カービィ「肉とか……。」

カービィ以外「それだ!!」

疑問、解決。

マルス「あっ、ロイじゃないか。」

ロイ「お、マルス。元気だったか？」

出会った2人の剣士。

マルス「何とかね、でも、一寸先は、闇だよ。気をつけないと。」

ロイ「相変わらず、しっかりしてる奴だ。」

キノピコ「何か、買って行く?」

ソニック「What!?ビックリした・・・。」

いつの間にか、『洗脳治す』を購入した店にいたようだ。

ソニック「しかし、BIGな声出しちゃったZE・・・ハンターいなくて助かった・・・。」

マリオ「賞金が、195万・・・。さらに、俺は逃げ切ったら自動的に、144万入るから今、339万・・・。」

1秒ごとに、増えていく賞金に興奮するマリオ。

マリオ「自首は、しないぞ。自首した金で、ピーチ姫に、何か買って嬉しくないだろうし。」

432万を目指す。

~~~~~

タブー「ボスパックンも、メタリドリーも殺られた……。くそつ
！！あいつ、何やっているんだ!？」

怒りを隠せないタブー。

タブー「電話を使うか……。」

ピリリリリー

所長「ん？電話？ヤバイ、タブー様からだ……。もしもし？」

タブー「何やってんだ!!あれほど、『鍵は渡すな』と、言ったはずだ!!」

所長「すみません、タブー様……。私が、弱かったばかりに……。」

タブー「ファルコを、鳥人間とか言っただけで挑発するからだぞ!!灰皿で、殴られたぐらいで、負けやがって!!」

所長「申し訳ございません……。」

タブー「もう所長の変装は解いてこっちに来い。ポーキー。」

ポーキー「分かりました……。」

そう言うと、ポーキーは、姿を消した。

ピンポン

すると、所長の家に誰か来たようだ。

副所長「副所長の佐々木です。所長、仕事に行きましょう!!」

だが、所長は、出てこない……。

副所長「？」

副所長の佐々木は、家上がった。

副所長「所長……うわっ!!??」

副所長の佐々木が見たのはガムテープで口を塞がれ、ロープで、グルグル巻きに巻かれた所長だった。

副所長「所長!! しっかりしてください!!」

副所長は、急いで口にあるガムテープを取った。

~~~~~

所長「痛たたたた!! もうちょっとゆっくり剥がせ!!」

副所長「今、ロープも解きますからね」

所長「痛い、痛い!!」

「????」……。」

所長達を見る謎の男……。

『「……」……』

「????」!?!」

すると、モニターには、

HELICOPTER WAS STOLEN

という文字。

「????」……!?!」

謎の男は、画面をスライドさせた。

すると、亜空軍が映っているモニターに変わった。

~~~~~

タブー「プリム達、ご苦労。見事に、盗みを成功させたな。」

プリム1「容易なことですよ。」

プリム2「彼は、ハンターを操っていますから隙は、あり過ぎです。」

タブー「よくやった、そして、アイク、ポーキー、あやへつこう綾鼈甲。今すぐ、

GERO国に向かい、1人でも多くスマブラメンバーを消してくるのだ!!」

3人「承知!!」

そう言うと、3人は、部屋を出て行った……。

~~~~~

????「……。」

啞然あぜんとする謎の男……。

拳こぶしを、机に叩き付けた……。

~~~~~

スネーク「ん!?何だあれは!?!」

いち早く異変に気がついたスネーク。

スネーク「へり!?!」

リザードン「げっ、まさか新ミッションの登場か!?!」

リザードンも驚きを隠せない。

~~~~~

大統領「あつ!? 何故、ヘリが!？」

大臣「あのヘリ・・・まさか!?!」

大統領「心辺りがあるのか!？」

大臣「は、ハイ!!とにかく、応援を頼んできます!?!」

大臣は、電話を掛け始めたのだった・・・。

~~~~~

GERO国に、突如現れた3機のヘリコプター。

ポーカー「さて、何処にいるかな?」

アイク「捕まれば楽だよ。」

綾鼈甲「今度こそ、あの恨みを・・・。」

またしても、新たなる恐怖が、逃走者に襲い掛かる・・・。

残り80分。

残り18人。

残り逃走者

マリオ、ルイーダ、クッパ、ロボット、ゼルダ、トウインリンク、サムス、スネーク、ネス、マルス、ソニック、ファルコ、リザードン、ルカリオ、プリン、オリマー、ロイ、ドクターマリオ

一寸先は闇（後書き）

次回、新ミッション発動！！

逃走者達の運命は！？

MISSION 7 (前書き)

3月中旬にあるテスト・・・。

嫌だな・・・。

MISSION 7

大臣「やはり、隣りのUNKO共和国に現れたヘリと同じだそうです!!」

大統領「そうなのか!? なら、同じ方法で帰還させることが出来るはずだ……。」

大臣「バズーカを輸入することは、可能……。しかし、我々の国は、あまり戦力が無い……。どうすれば……。」

大統領「そうだ!! スマブラメンバーが、今は、いるじゃないか!!」

大臣「えっ、まさか……。彼らに……?」

~~~~~

ピリリー

ルイージ「多分、ヘリのミッションのことだよ。……あ……やっぱり……。」

その通り、メールだ。

ルイージ「捕まりたくないよ……。」

泣きながら携帯を取り出すルイーダ。

ルイーダ「ミッション7……。」

ルカリオ「亜空軍が乗っている3機のヘリコプターが現れた。亜空軍……。」

オリマー「3機のヘリコプターは、発見した逃走者の位置を地上のハンターに伝える。」

サムス「帰還させるには、残り60分までに、3人が、Rランド西部にいる大臣に協力しに行かなければならない。」

ネス「ヘリコプターは、ミッション失敗すると、ゲーム終了までいる。」

スネーク「なんだ、このミッション……ヘリに気をつければ……いや、難しいか……。」

ゼルダ「3機もいるの!?それは、辛いわ……。」

## MISSION 7

へりを帰還させよ……!

ポーカー、アイク、綾鼈甲がそれぞれ乗っている3機のヘリコプター……!

彼らは、発見した逃走者の位置を地上のハンターに伝える。

帰還させるには、残り60分までに大臣達のへり帰還の協力をする必要がある。

現在、エリアには、8体のハンター。

動けば、ハンターに見つかるリスクが高まる。

さらに、へりが現れたため逃げ場は、ほとんど無い!!

マリオ「うわぁ〜・・・あのへり、こっちを見てるんじゃないのか・  
・・・？動いたらバレそう・・・ここは、皆に任す!!」

プリン「こついう時、小さい体って便利・・・。」

ファルコ「行くか？」

ネス「疲れているから止めとく・・・。」

ファルコ「だよな・・・。」

動かない逃走者が多い……。

そんな中、

マルス「僕ら2人いるから、あと1人待てば良いだけだね。」

ロイ「ここは、向かっておこう!!」

マルス、ロイは、既に2人いるためミッションに向かうようだ。

ロイ「大臣の所へ行こうぜ、マルス。」

マルス「ああ。」

だが、

アイク「ククク……いた、いた……。」

アイクが、マルスとロイを発見……。

そして、アイクが、地上のハンターに通報。

ハンター「……。」

マルスと、ロイの居場所がハンターに伝わる!!

ハンター「……。」

ロイ「ゲツ……ハンターいたよ!!！」

マルス「嘘だろ……。」

逃げる2人に……別のハンターが接近……。

ハンター「!!！」

マルス「うわああ!!!!！」

ロイ「クソツ!!！」

挟まれた……。

ロイ「畜生!!！ここで、捕まる訳には……マルス!!！お前だけでも逃げる!!！」

マルス「えっ!?!?そんなこと……出来ないよ!!！」

ロイ「早く!!！」

ロイは、マルスの前に立ち塞がる。

そして、2体のハンターをロイの方におびき寄せている。

マルス「……有難う……ロイ……。」

無言で走るマルス。

ロイ「うわっ!!」

ポンッ

ロイ確保、残り17人。

ロイ「後は、頼んだぞ……マルス……」

ピリリー

ドクターマリオ「メール……ヘリの通報で、ロイ確保……」

サムス「やっぱり、ヘリは危険ね……」

マルス「ロイ……」

スネーク「残り人数も少なくなってきたな……」

牢獄

<リングリントンリングリントン >

<リングリントンリングリントン >

ウルフ「うわぁ、へりの通報でロイ捕まった……。」

ピット「亜空軍め……。」

ヨッシー「それにしても、へりが、3機もいるとどうなのですね……。」

すると、赤い服をきた女性がこっちに近づいてきた。

全員「？」

「『ゲーム参加時間よりも、牢獄にいる時間の方が長い。』これって、アリ？」

レッド「えっ？アリ……。」

「じゃあ。」

女性が、紙をめくる。

「家族で、コンパクトカー。これって、アリ？」

フォックス「アリ……なんじゃないのか？」

「イマドキ、家族で、新ラクティ○！！これって、アリ？」

全員「……………」

無言の沈黙……………」

ガノンドロフ「なあ、リンク。」

小声で、ガノンがリンクに聞く。

ガノンドロフ「あの女性、ゼルダより普通に可愛いぞ……………」

リンク「……………」確かに……………」

残り77分。

残り17人。

ミッション終了まであと、17分……………」

## MISSION 7 (後書き)

ヘリコプターって、値段、高いよね。      どのどでも良い。

## MISSION 7 PART 2 (前書き)

ヘリコプター3機という危機を、逃走者は、どう乗り超えるのか！  
？

## MISSION 7 PART 2

スネーク「行った方が、良いな。」

ヘリコプター3機は、ヤバイと感じたスネーク。

ミッションに向かう!!

そこに、

オリマー「ウワアアッ!?ビックリした……。」

オリマーだ……。

スネーク「おっ、オリマー、今回も一緒にミッションに行くか?」

オリマー「え?あっ、ハイ……。」

前回、オリマーは、スネークと共にミッションをやり、結婚などの質問を受けたこともある。

オリマー「良いですよ。行きましょう。」

オリマーも、ミッションに参加するようだ。

マルス「ロイの分まで頑張らなくては……。」

ロイの犠牲を無駄にしたいくないマルス。

勿論、ミッションに向かう。

ドクターマリオ「行く！！ヘリコプターについての知恵は、ある。死角が何処かも分かる。」

へりは、怖くないと感じたドクター。

彼も、ミッションに向かう。

サムス「私、行くわ。ここまで全然、ミッションやって無いから。」  
続々と、ミッションに向かう逃走者達。

だが、

クツパ「我輩は、身体が大きいから・・・。下手に動けば目立つ。自殺行為だ。」

ネプリーグの問題にもなったクツパ。

ミッションには、向かわない・・・。

リザードン「俺、止めとく。身体が、デカいから行かない方が良い。

「  
こちらにも、向かわない……。」

ロボット「ミッション……行コウト、思エバ行ケマス……デモ、  
良い隠レ場所ヲ見ツケマシタカラ……。」

橋の下で隠れるロボット。

へりにも、見つかりにくい場所のようだ。

これで、ミッションに向かうのは、スネーク、オリマー、マルス、  
ドクターマリオ、サムの5人。

但し、エリアには、8体のハンター、動けばリスクも高まる。

そして、

綾鼈甲「あつー！いたー！」

利用規約を破り、全作品を削除された綾鼈甲がリザードンを発見。

綾鼈甲により、リザードンの位置が地上のハンターに伝わるー！

ハンター「……。」

リザードンの確保に向かうハンター。

ルカリオ「わっ！！ハンターいた！！・・・でも、見つからなかったようだな。」

走っていくハンターを目撃したルカリオ。

運良く、見つからなかったようだ。

ハンター「！！！」

リザードン「うわああ！！来た！！！」

走って逃げるリザードン。

中々、素早いようだ。

リザードン「ゲツ、こっちからもか！？」

向かう先にも、別のハンター。

リザードン「嘘だろ・・・。」

ポンッ

リザードン確保、残り16人。

リザードン「挟まれるとは・・・。」

ポケモントレーナー組、全滅・・・。

ピリリー

ファルコ「うわあ、リザードン、ヘリの通報で捕まった……。」

ネス「嘘！？もう2人も犠牲になったよ！？」

クツパ「マズイ……身体のカイリザードンが捕まった……。  
次は、我輩かもな……。」

ドナルド「アラアッ！！！」

自動販売機の前で、驚くドナルド。

プリン「ど、どうしたんですか？」

ドナルドの声に驚き、ドナルドに近づくプリン。

ドナルド「実は、自動販売機の下に、ドナルドの1000円玉が転が  
ってしまってさ……。」

プリンが、自動販売機の下を覗くと、確かに1000円玉がある。

プリン「私なら取れるかも……ちょっと取ってみるね……。」

ドナルド「本当かい！？」

プリンは、小さい身体を使い、何とか100円玉を取ってみせた。

プリン「ハイ!!」

100円玉を差し出すプリン。

ドナルド「有難う!!何かお礼がしたいな!!」

プリン「えっ?お礼?うん……」

プリンは、思わず空を見上げ、ヘリを見た。

ドナルド「そうか!!あのヘリコプターが欲しいんだね!!取って来てあげるよ!!」

プリン「え?」

ドナルド「ドナルドジャンプ!!」

ドナルドは、ヘリの所まで飛んでいった。

ポーカー「あ……いない……。アイクや綾鼈甲は、通報出来ているのに俺だけ通報出来てない……。早く、通報しなきゃ……」

????「へえ……」

ポーキー「へ！？」

ポーキーが、後ろを振り返ると、笑っているドナルドが……。

ドナルド「つい殺っちゃうんだ」

ポーキー「！？」

プリン「へりの中に、あの人、入っていった……。」

驚きを隠せないプリン。

少し経つと、へりがプリンの方へ向かってきた。

すると、途中でへりの扉が開き、バラバラの真っ赤な赤い物を海に捨てて、プリンの方へ着陸した。

着陸したへりの扉が開き、ドナルドが出てきた。

ドナルド「ヘリコプターを取って来たよー！！でも、ちょっと赤い汚れが付いてるんだ！！汚いから君のために掃除するね！！ちよつと待っててね」

ぞうきんで、掃除を始めるドナルド。

プリン「え、えーっと……と、とりあえず、これで、ヘリコプタ

「は、2機に減った……。」

海老で鯛を釣る……。

ピリリー

サムス「え？通達8？」

マリオ「プリンが、困っているドナルドを助けたため、」

ゼルダ「ドナルドが、ヘリを減らしてくれた。」

スネーク「よって、ヘリは2機となった。プリン、よくやった！！」

アイク「お、おい！？綾鼈甲！？ポーカーのヘリが消えた……。」

無線で、綾鼈甲と話すアイク。

綾鼈甲「これは、何がどうなってるんだ！？」

もはや、通報どころでは、無い……。

オリマー「スネークさん、ヘリは、2機に減りましたが、大臣の所  
に行くまで、油断は禁物ですよ……。」

スネーク「心配するな。アレがあれば大丈夫だ。」

スネークの目線の先には、ゴミ捨て場にあるダンボールがあった・  
・。

残り73分。

残り16人。

ミッション終了まであと、13分・・・。

## MISSION 7 PART 2 (後書き)

皆さんも、利用規約を守らないと綾鼈甲みたいに、ユーザごと作品を全削除されます。

気をつけましょう

MISSION 7 PART 3 (前書き)

スネークの作戦・・・大体、想像がついたでしょ？

## MISSION 7 PART 3

オリマー「アレ・・・とは？」

スネーク「分からないのか？あのダンボール達を！！」

オリマー「それを被って行くんですか？」

スネーク「ああ、これならハンターにもバレないし、ヘリに見つかる心配も無い！！早速、実行だ！！」

スネークとオリマーは、身体に合うダンボールをそれぞれ見つけて被った。

そして、ダンボールから外が見えるよう、小さな穴も開けた。

オリマー「何か・・・変な匂いしますよ・・・。」

スネーク「ゴミ捨て場にあっただから匂いくらいするんだ。行くぞ！！」

そう言うと、スネークは、向こうへ行ってしまった。

オリマー「残りの距離は、そんなに無いから歩いた方が速いと思うんですが・・・。」

そう言うと、オリマーは、渋々、スネークの後ろをついて行った。

サルス「あのへり、私を見ているんじゃないかしら？」

へりの真下にいるサルス。

サルス「わっ、ハンターいた……。こっちに、来てる……。――旦、向こうに行きましょう……。」

上手く動けない……。

「サルス「へりめ……。絶対に、帰還させる。ロイのためにも……。」

身代わりになってくれたロイのためにも、何としてもミッションをクリアしたいサルス。

サルス「……頑張るよ……。」

だが、サルスと大臣達の距離は、やや遠い……。

アイク「ポーキー……。何故……。」

綾鼈甲「俺にも……。分からない……。」

2人は、現在、パニックになっており通報どころでは、無い……。動くなら今が、チャンス。

それに、気付いたのが……

ドクターマリオ「あれ？へりの様子おかしいな？」

ドクターマリオだ……。。

ドクターマリオ「さつきから、動きが右往左往……。通報しているようには、見えない……。何があつたか知らないが、今が、チャンスだ！！」

走り出すドクターマリオ。

無事、たどり着けるのか！？

トウーンリンク「この辺、隠れやすそうだ……。。」

草むらに隠れる小柄な勇者。

トウーンリンク「服も、緑だし……。パツと見ただけじゃ、分からないでしょ……。。」

自信があるようだ……。。

ルカリオ「リザードンが、捕まったということは、ポケモン組は、残りは俺と、プリンのみ……。人数減ったなあ……。」

半分以下に減ってしまった逃走者達。

安堵は、無い……。

ドナルド「掃除終わったよー！！このへり、どうする？」

プリン「あ……有難う……。私、今、ゲームに参加してるから、終わったら取りに行くから……。」

ドナルド「おや、お仕事だったのかい？どれくらいで終わるの？」

プリン「え、えーと……。2時間くらいかな……。」

ドナルド「それじゃあ、その時間までドナルドが預かっておくよ。」

プリン「あ、有難う……。それじゃあ、そろそろ私は、行くね。じゃあね……。」

ドナルド「バイバイー!!」

少し離れた所に移動し、プリンは、大きな息を吐く。

プリン「ふう・・・あの人・・・怖かった・・・。」

ドクターマリオ「Rランド西部にいる大臣達・・・。あ、あれだな・・・人がいっぱいいる・・・。スマブラメンバーは・・・どうやら、まだ、俺しか来てないようだな。」

大臣の所へ近づくとドクターマリオ。

ドクターマリオ「・・・すみません、へりを帰還させるんですよ？」

大臣「そうなんだよ。あのへりは、非常に危険だから・・・。でも、人手が3人足りなくてね。君も、手伝ってくれるのかい？」

ドクターマリオ「勿論ですよ。」

大臣「それは、助かります。後、なんとかしても、あと2人呼んで来てくれませんか？」

ドクターマリオ「わ、分かりました。」

目立たない場所に移動するドクターマリオ。

ドクターマリオ「誰に電話しようか・・・。それにしても、あの武器でへりを帰還させるのか？」

大臣達の後ろには、UNKO共和国から輸入した大量のバズーカ。

ドクターマリオ「……。この国、大丈夫か？」

残り69分。

残り16人。

ミッション終了まであと、9分……。

MISSION 7 PART 3 (後書き)

ドクターマリオの知識は、幅広い・・・。

ああ、こういう人が、将来を頼りにされるんだろっなあ・・・。

**MISSION 7 PART 4 (前書き)**

この話も50話目。

まだまだ続きます。

## MISSION 7 PART 4

ピリリ

マリオ「ドクターの電話だ……。」

ピッ

マリオ「何だ？」

ドクターマリオ「ミッション、やってる？」

マリオ「やってない。皆、やってくれるだろうし。それじゃ。」

ブツッ、ツーツーツー。

ドクターマリオ「切りやがった。次。」

ピリリ

ルイーダ「ん？ドクター兄さんから電話だ。」

ピッ

ドクターマリオ「ミッションやってるか？」

ルイーダ「怖いから、嫌!!！」

ブツッ、ツーツーツー……。

ドクターマリオ「切れた、あいつ……マリオより言い訳が酷い  
！」

ピリリ

ゼルダ「あら？ドクターから……。」

ピッ

ドクターマリオ「ミッションやってる？」

ゼルダ「疲れてて、無理……。それじゃ。」

ピッ

ドクターマリオ「あいつ、ミッションやって無いだろ？どうなって  
んだ？」

スネーク「オリマー、遅いぞ……！」

オリマー「そんなこと言われましても……。」

ダンボールの中で隠れながら、匍匐前進ほふくぜんしんをしながら進むスネーク。

やはり、速い。

オリマー「こんな時に、初体験のことをするなんて、聞いてませんよ……。」

スネーク「早く、来るんだ!!」

オリマー「ヒェ……辛い……。ん？あれは？」

ハンター「……。」

2人に、忍び寄る黒い影……。

オリマー「ハ、ハンターですよ、スネークさん!!」

だが、距離があるため、オリマーの声が聞こえない……。

オリマーは、動かないで、そのまま待機することにした。

ハンター「!!」

見つけた……。

スネーク「!!」

スネークは、ダンボールを捨て、必死で逃げる。

オリマーの入ったダンボールを無視し、スネークを追うハンター。

オリマー「スネークさん、大丈夫かな……？」

だが、体力がまだまだあったスネーク。

上手く撒いたようだ。

スネーク「……危ねえ……。」

しかし、目的地との距離が出てしまった。

オリマー「スネークさん、捕まったのかな……？でも、やっぱり、そのまま行った方が良さそうですね。」

ダンボールを捨て、オリマーは、走ってミッションに向かう。

ドクターマリオ「皆、来ない……。皆、人任せなのか……？」

現在、リストラメンバーで唯一の生き残り、ドクターマリオ。

ドクターマリオ「今度は、コイツに電話するか……。」

ピリリー

サムス「あら？電話？ドクターからだ……。」

ピッ

サルス「もしもし、どうしたの？」

ドクターマリオ「今、ミッションやってますか？」

サルス「ええ、今、向かっている所よ。」

ドクターマリオ「流石さすが！マリオや、ルイーダ、ゼルダに電話したけどやって無いつていうから焦つてたんだよ。へりは、今、通報して無いのにな。」

サルス「通報してないの！？・・・でも、まだ、貴方あなただけなの？」

ドクターマリオ「ああ、俺俺だけさ。お前が来てくれても、あと1人必要なだけだな・・・。」

サルス「分かったわ。なるべく早く行く。それじゃ。」

ピッ

サルス「ゲーム終了まで、へりが2機いることは厳しいもんね・・・。」

ドクターマリオ「あとやりそうなのは・・・。」

ピリリー

サルス「うわ、ハンターいるよ・・・。って・・・携帯鳴ってる！」

マルスは、慌てて電話に出る。

幸い、ハンターは、気づいて無いようだ。

マルス「もしもし・・・。」

ハンターから離れながら動くマルス。

ドクターマリオ「おっ、マルス。ミッションやってる?」

マルス「今、やろうとしてるんだ。犠牲になったロイの分まで・・・。」

ドクターマリオ「本当か!?まだ、俺しか来てないが、サムスも来てくれるし、これで、3人揃ったぞ!!ヘリも、今、通報して無いし。」

ロイの話は、ドクターにとって、どうでも良いようだ。

マルス「そうなの?じゃあ、早く行くよ!..!」

ピッ

ドクターマリオ「よし、後はハンターに捕まらないようにするだけ・・・。」

~~~~~

?????」.....」

ドクターマリオ『よし、何とかクリア出来そうだな。』

モニターを見る謎の男。

????「……。」

すると、突然、画面が切り替わる。

そこには、1000体は、いるだろうか、大量のプリム。

そして、亜空軍のロボットが何かのメカを作っているようだ。

タブー『ポーカーのことは残念だったが、計画は順調に進んでいるな、クハハハ!!』

????「!?!?」

タブー『スマブラメンバーよ、GERO国と一緒に美しく消してやるよ……。ハハハハハ!!』

????「……。」

~~~~~

ドクターマリオ「おっ、サムス来た、来た。」

サムス「ゴメン、遅くなって。」

ドクターマリオ「後は、マルスだな。」

サムス「えっ、マルスが向かっているの!？」

ドクターマリオ「ああ。」

現在、大臣達の所へ向かっているのは、オリマー、マルス、スネークの3人。

この中で、1人でも来れば、ミッションクリアとなる。

綾鼈甲「……慌てている場合じゃなかった。通報を、再開するぞ  
!！」

アイク「そうだな……取り乱した。」

へりも、通報を再開。

ドクターマリオ「クソ、どうやら通報を再開したようだな。」

ドクター、早くも気付く。

残り64分。

残り16人。

ミッション終了まであと、4分……。



## MISSION 7 PART 4 (後書き)

ミッションに向かう逃走者があと3人もいれば、簡単そうに見えるこのミッション。

だが、次回、ヘリの通報逆襲劇！？

MISSION 7 PART 5 (前書き)

恐怖は、終わらない・・・。

## MISSION 7 PART 5

ソニック「俺は、ヘリに見つかっても自慢の足で逃げ切る!!この辺は、行き止まりも無いしな。」

ヘリなど気にしないソニック。

スタッフ「ミッションは、行かないんですか？」

ソニック「だけど、ここは、Eランド北部・・・大臣がいるのは、Rランド西部。最も遠いって言っても良い場所。後々の体力のことを考えると動かない方が良いのさ・・・。」

悔やむ、青いハリネズミ。

ドクターマリオ「後は、マルスを待てば良いだけだな。」

サムス「もうこの辺まで来ているはずよ。」

マルス「もうちょっと・・・かな・・・。」

残り距離、あと数百メートルとなったマルス。

このまま行けばミッションクリアまで余裕だ。

マルス「よし、これ行けますね。」

だが、

綾鼈甲「あつ、いた!!」

へりが、逃走者を発見。

綾鼈甲により地上のハンターに位置情報が伝わる。

綾鼈甲「よし、一丁上がり」

綾鼈甲が見つけたのは、

ドクターマリオ「うわあ!!ハンター来たぞ!!」

サムス「嘘でしょ!?!」

ドクターとサムスだ……。

2人は、ハンターから逃げる。

入れ替わりに来たのが、

マルス「着いた、着いた。ここだな。あれ？ドクター達いないよ？  
何処？」

ドクターマリオ「早く逃げろー！！」

サムス「わ、分かってるわよー！！」

2人は、別々の道を逃げる。

ハンターが狙いを定めたのは・・・

ピーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

サムス「うわっ、速い・・・。」

サムスだ・・・。

ポンッ

サムス「キャアッ！？」

サムス確保、残り15人。

サムス「あゝ・・・ドクター、ゴメン・・・。」

ピリリー

ルカリオ「ヘリの通報により、サムス確保。」

ゼルダ「サムスが捕まった……ということは、女性は、私だけね……。」

ドクターマリオ「うわ……サムス捕まった……どうしよう……。」

マルス「嘘でしょ！？サムス、捕まった！？ドクターもいないということは、2人ともハンターに追われたのか……。」

サムスの確保に悔しがるマルス。

マルス「これじゃあ、ミッション出来ない……。」

「???」「マルスさん!?!」

マルス「うわぁ!?!誰!?!あつ、オリマーさん!?!」

オリマー「やっと、着きました……。まだ、マルスさんだけですか?」

Rランド西部にオリマーが、到着。

マルス「これで、2人か・・・あと1人・・・。ドクターが戻ってくれれば・・・。」

オリマー「あと、スネークさんがやっていますよ。途中で、ハンターに追われて逸<sup>はく</sup>れてしまいましたか・・・。」

マルス「そうか・・・。あと、2人もいれば、成功するかも・・・。」

希望が出てきたマルス。

ドクターマリオ「ヤバイ・・・全力疾走したからな・・・もう体力が・・・。」

ここまでかなりの体力を使ったドクターマリオ。

体力は、もう限界のようだ。

ドクターマリオ「げっ、残り時間、あと1分ぐらいしか無いのか・・・。マルスには悪いけど、もう無理だ・・・。疲れてもう動けない・・・。」

惜しくもミッションを断念。

これで、ミッションに向かっているのは、スネークのみとなった。

スネーク「大分だいぶ、近づいてきたが・・・チツ・・・ハンターいるな・・・。」

スネークは、オリマーとマルスが見える距離まで来ていたがハンターがいて動けない。

オリマー「2人が来るのを信じましょう!！」

マルス「う、うん・・・。(僕が、もうちょっと早く来ればこんなことには、ならなかったのに・・・。)」

残り61分。

残り15人。

ミッション終了まであと、1分・・・。

果たして、ヘリを帰還させることが出来るのか!？

MISSION 7 PART 5 (後書き)

次回、ついに、ミッション終了!!

果たして・・・。

**MISSION 7 PART 6 (前書き)**

テストが終わり、こっちも更新!!

## MISSION 7 PART 6

ハンター「……。」

スネーク「ハンターいるな……だが、迷っている場合じゃないな  
!!!」

しかし、ハンターが振り返ってしまった。

ハンター「!!!」

スネーク「あつ、ヤバ……。」

ハンターから逃げ、右の道へ行き、木の後ろで伏せるスネーク。

ハンター「……。」

辺りを見回すハンター。

どうやら、見失ったようだ……。

オリマー「あつ、あれ、スネークさんですよ。」

マルス「本当だ。時間無いよ。あと、ちょっとしか……。」

大臣「準備完了です!!!あと1人いれば、発射出来ます!!!」

マルス「ヤバイ……。」

スネーク「おつ、オリマー達がいるぞ!!」

オリマー達とスネークの距離、およそ50m

ミッション終了まで、あと20秒。

先程のハンターは、もう近くには、いない。

オリマー「早く、早く!!」

スネークは、全速力でオリマー達の元へ向かう!!

スネーク「急がなければ!!」

オリマー達の元へスネークが到着。

スネーク「待たせたな!!」

マルス「3人、揃いました!!」

大臣「よし、3人ともその場所を持っていてくれ!!」

ミッション終了まであと10秒。

大臣「発射〜!!」

もの凄い音が響き、バズーカから弾が発射された。

ミッションクリア。

綾鼈甲「ん？なんだ？うわあ〜!!!!」

へりは綾鼈甲ごと何処かへと吹っ飛んで行った。

綾鼈甲「また、これか〜!!」

アイク「なっ!? チツ・・・脱出!!」

いち早くバズーカの発射に気がついたアイク。

へりから飛び降り、アイクはパラシュートを開く。

へりは、炎に包まれたが、アイクは無事脱出したようだ。

ソニック「おっ、ミッション成功したようだな〜!!」

へり帰還に喜ぶソニック。

ソニック「だけど、あのパラシュートの人、何処かで見たことあるなあ……。」

大臣「いやあ、有難う!!」

マルス「いえいえ、とんでもない。」

大臣「しかし、君達、誰かに追われていたけど……。」

オリマー「ハンターに追われているんですよ。別に悪いことしてないのに……。」

大臣「そうか……ならば、全員は無理だけど、私の国家権力で何体か減らしてあげよう!!。」

3人「本当!? (国家権力か……嫌な言い方……)」

大臣「ハアツ!!」

大臣が、念を入れるとハンターが2体消滅した。

大臣「これで、少しは……。では、頑張ってくれ。」

オリマー「有難うございます!!」

スネーク「任務が完了しやすくなったな。」

3人が去った後、大臣が眩くらく。

大臣「この国を守らないとな……。よし、自衛隊や警察にも連絡しておかないとな。」

ゼルダ「あつ、そういえば、女性は、まだプリンちゃんがいた……。」「

ピリリー

ゼルダ「あつ、ミッション結果だ、誰がやったのかな？」

マリオ「オリマー、スネーク、マルスの活躍によりへり帰還。さらに、褒美としてハンター2体が消滅。ハンターの数は、合計6体。おお、凄いな!!」

ドクターマリオ「マルス、来たんだな。よくやった!!」

牢獄

ファルコン「お、おい!!あれ、アイクじゃないか!？」

パラシュートで降りてくる人物に驚くファルコン。

リンク「えっ、そんなはずは……。」「

ウォッチ「ア、アイクサンデスヨ！！アレ！！」

なんと、アイクは、牢獄の前に降りて来た。

全員「！？」

だが、すぐに異変に気付いた。

そこにいるアイクは、普段よりも鋭い目、黒い服を着ており、何もかもが違う。

「ヒイツ！？」

赤い服の女性は、アイクが怖かったのか、牢獄の中へ入って来た。

彼女は、ガノンの後ろで震えている。

ロイ「ど、どうしたんだよ、アイク。入って来いよ。」

ロイは、牢獄を飛び出し、アイクの前に立つ。

アイク「黙れ。」

ロイ「へっ？・・・ウガッ！？」

アイクは、ロイの首に剣を突きつける。

その行動に皆、唾然としていた。

ロイ「あ……ああ……。」

剣の先から少しずつ流れ出る赤い液体。

リンク「な、何やっているんですか!？」

リンクが我を取り戻しアイクをロイから離す。

ロイはその場に倒れ、少々苦しそうだ。

アイク「……チツ、覚えてるよ!！」

アイクは、そう言うと、風のように去っていった。

リンク「アイク……。あっ、ロイは!？」

ガノンドロフ「大丈夫だ。かすり傷程度だな。」

ガノンがスタッフに貰った包帯をロイの首に巻きながらそう言う。

リンク「良かった……。けど、何故、アイクが？」

ワリオ「分からん……。」

フォックス「何か、いつもと違う感じがしたんだよな……。」

カービー「『肉、肉』言っている顔じゃなかったもんね。」

ウルフ「確かに、怒ってんのか？」

アイク「……チツ、あいつら、余計な口を聞きやがって。」

????「聞こえるか？アイクよ。」

アイク「……タブー様……へりの件に関しては申し訳ありません。」

無線でタブーと話すアイク。

アイク「これからどうすれば良いでしょうか？」

タブー「今の目的は、スマブラメンバーを1人でも多く消すんだ。お前のポケットの中にあるものでな。」

アイク「……！！成る程……。」

タブー「健闘を祈る。」

タブーとの通信が切れたようだ。

アイク「この手があったか……。流石さすが、タブー様。」

アイクは、ゆっくりとポケットの中から携帯を取り出した……。

残り58分。

残り15人。

恐怖は、まだまだ終わらない・・・。

## MISSION 7 PART 6 (後書き)

あるCM編その1

ピロッ

まりらい「キノコ、画像。」

ピロッ

まりらい「出た。・・・おおっ、いっぱいあるなあ。でも、プロックから出てくるのは、やっぱりキノコじゃなくてマツタケが良いなあ、うん。」

知りたいことを無料で、音声検索。

チャララララララ

5人「スマブライド、エーオー」

チャラララ

逆襲(前書き)

アイクの企みとは・・・？

## 逆襲

トウンリンク「うわ、警官がいるよ。」

警官を見つけたトウンリンク。

トウンリンク「まあ、ヘリがあんな方法で帰還したもんね。無理もないか……。」

ルカリオ「ハンター2体減ったっていうけど……。やっぱり、いるんだよね……。」

ルカリオの進むその先にハンター！

ルカリオ「0体にしてくれないかな……。」

小さな欲望。

ロボット「残り時間、1時間ヲ切りマシタ！！コレハ逃ゲ切りモ十分アリマス！！」

ハンター2体減少で気持ちが良いロボット。

だが……

ピリリ -

ロボット「メール・・・ミッションデスカ？イヤ、通達デスネ・・・  
通達9・・・。」

オリマー「アイクが現れた。えっ？アイクは、牢獄にいるはず・・・。」

ソニック「彼は、逃走者を見つけ次第、通報し、ハンターに位置情報を伝える。」

ゼルダ「気をつけたまえ。・・・何これ？」

洗脳され亜空軍に加わったアイク。

アイクは、逃走者に容赦なく通報し、ハンターに位置情報を伝えてしまう。

アイクにもハンターにも気をつけなければならない。

マルス「アイクが？一体、どうなってんだ？」

状況を読めないマルス。

マルス「とにかく、アイクに近づいちゃ駄目ってことだね・・・。」

「

クツパ「ん!?あれってアイクか!?!」

早速、アイクの後ろ姿を目撃したクツパ。

アイクは、クツパに気付いてないようだ。

だが、

アイク「おっ、いたいた……。Eランド南部、橋の下にいます。」

アイクが、早くも逃走者を発見。

クツパ「ん!?あいつ携帯で何か話してるぞ……。まさか、通報か!?!」

クツパは、慌ててその場を離れる。

通報されたのは……

ロボット「ワッ、ハンター来テマス!!」

ロボットだ……。

ロボット「ウワワアア……。」

逃げるが、距離は縮まるばかり……。

ポンッ

ロボット確保、残り14人。

ロボット「ア……コマデスカ……。」

科学の力がここで散った……。

ピリリー

プリン「アイクの通報により、ロボット確保!？」

ネス「アイク……それにしても……何故……?」

ファルコ「賞金は、貰えないが俺達まで道連れにするってか。敵と味方の区別も出来ねえのか。」

クツパ「ロボットが通報されていたのか……。」

アイクの存在に恐れを知ったクツパ。

だが、アイクを見ていたのはクツパだけでは無かった……。。

アイク「捕まったようだな。あゝ、愉快、愉快。」

満足するアイク。そこに、

???「ドナルドマジック!!」

アイク「なっ!?!まさか!?!」

アイクは避け、声の主の方を見る。

ドナルド「ドナルドです!!」

アイク「また……。か。貴様ああああ!!」

ドナルド「仲間を裏切るといふ奴は、許さないんだ。ドナルドマジックで消してあげるよ。」

アイク「二度とその口を聞けないようにしてやる。覚悟しろ……。。」

タブー「準備は整ったか？」

プリム1「勿論です。今、デュオン達がGERRO国に向かっている所です。」

プリム2「ガレオム達も計画が順調のようです。」

タブー「分かった。デュオンに計画を実行せよ、と伝えておいてくれ。」

プリム1「了解しました。」

タブー「デュオン達は、デュオン以外は頼りないが、いないよりはマシだろう。まあ、計画通りには、簡単には行かないことは分かっていたさ。中々、楽しませてくれるよな……。ククク……。」

警官1「何だ？やけに騒がしいぞ？」

ソードプリム1「ウオオオ〜!!」

警官2「な、何だ、こいつら？」

軽く100体は、いるであろう亜空軍の大群。

警官達は、どんどん倒れていく……。

警官は、防戦するが、間に合わない。

警官3「ど、どうすれば……。」

???「喰らえー!」

何処からか、テニスのラケットがソードプリムに直撃。

地面に落ちたラケットには、『』という文字があった……。

残り56分。

残り14人。

果たして、どうなってしまうのか……。

逆襲（後書き）

あるCM編その2

ピコッ

すねいば「手榴弾、画像。」

ピロッ

すねいば「出た。色々な形のものがあるもんだな。だが、やはり俺はこの丸いのが好きだな。やはり、こいつは良いな。」

知りたいことを無料で、音声検索。

チャララララララ

5人「スマブライド、エーオー」

チャララッ

AYB48(前書き)

今回は、ドラマが多いですね・・・。

## AYB48

ソードプリム2「だ、誰だ!？」

????「ハツハツハツハツハ、ワルイージ、NO・1!!」

そこには、細身で長身の男、ワルイージが立っていた。

ソードプリム2「フツ、たった1人で何ができる!!」

ワルイージ「俺だけじゃ無いぞ。」

ワルイージが、パチツと指を鳴らすとAYB48ことアシストファイギュア軍団が姿を現した。

ソードプリム3「生意気な……。俺達、亜空軍の力を見せてやる!!」

強気にそう言うソードプリム。

そこに、

カーネル「ムツ!? 亜空軍だと!? 加勢するぞ!!」

カーネルの登場。

こうして、亜空軍との戦いが始まった……。

プリン「な、何？プリムが戦ってる？巻き添えになりたくない……」

プリンは、そっとその場を離れる。

マスター「なんか、向こうが騒がしいな。」

クレイジー「バーゲンでもやってるんだろ？」

マスター「ああ、成る程。」

呑気だ……。

ドナルド「ドナルドの足は、ハンバーガー4個分キック!!」

アイク「カウンター!!」

ドナルド「アラーツ!？」

アイク「バカが、フツ、お前なんて大したこと無い……。」

ドナルド「へえ……。」

アイク「なっ、貴様、いつの間にも後ろに!？」

ドナルド「こつちの方が良いかな？」

ドナルドは、リンゴを投げた。

アイク「こんな物、斬ってやる！！」

スパッ

ドガンー！！

アイク「ギャアアア！！???」

ドナルド「へっハッハッハッハ」

アイク「貴様……。」

ドナルド「おや、まだやるのかい？」

アイク「でりゃー！！」

アイクは猛突進し、ドナルドの心臓部分を突き刺した。

ドナルド「……！！」

ドナルドは、刺されたまま首を下にしたまま動かない……。

アイク「残念だったな、ピエロ。お前の命……貰ったぜ。ククク……。」

アイクは、高らかに笑い出した。

「????へえ〜。」

アイク「なっ!?!」

ドナルド「ドナルドは、これくらいじゃ死なないよ!」

ドナルドは、自分に刺さっているアイクの剣を引っこ抜き、アイクの後ろに捨てた。

ドナルドの傷は、アイクが深く刺したにも関わらず、切り傷程度しか無い。

アイク「バ、バカな……。」

アイクは、思わず後ずさりをしている。

ドナルド「人を殺そうとした奴は、つい殺っちゃうんだ 逝くよ、ランランルー!」

アイク「う……うわあああ!」

剣を持ちながら、ランランルーの衝撃で宙に浮くアイク。

建物を超え、住宅のゴミ箱にホールインワン……。

アイク「く、くそう……。ぬ……。抜けない……。あのピエロ……。覚えてる……。。」

ドクターマリオ「ん？何か黒い物が飛んでたな？カラスか？不吉だな……。」

飛んでいた物に、翼は無い……。

Donald「ヘッハツハツハツハ」

果たして、この男に勝てるのは、いるのだろうか……？

これで通報の心配は無くなったが、逃走者は、そのことを知らない……。

スネーク「ん……。あれは、デュオンか……？」

目を細めながら見るスネーク。

スネーク「ま、まさかな……。」

スネークは何事も無かったかのように、その場を離れた。

デュオン「あの煙だな……。」

GERO国の外から火力発電所の煙を見るデュオン。

ブーメランプリム1「どういう作戦なのですか？」

デュオン「ここは、警備が頑丈だ。だから、あの火力発電所に俺がジャンプして突っ込む。そうすれば、爆発し、国はボロボロ、人は大量に死ぬ。」

ブーメランプリム2「成る程・・・でも、そんなことしたらデュオンさんの命が危ないですよ!!」

デュオン「大丈夫だ。俺は、あの程度の炎じゃ死なない。あの辺は、まだ亜空軍は侵入しないように指示してある。」

ブーメランプリム1「それなら安心ですね・・・。」

デュオン「だが、あの距離をジャンプするには、少しパワーを貯める必要がある。もうしばらく待ってくれ・・・。」

そう言うと、デュオンはパワーを貯め出した・・・。

~~~~~

?????」・・・。」

デュオンの様子を見る謎の男・・・。

?????」・・・。」

画面をスライドすると『ADD HUNTERS』の文字……。

謎の男は、それをタッチすると円グラフが現れる。

段々、メーターが上がっていき、50の所で止まった。

その瞬間、火力発電所に50体のハンターが設置された……。

~~~~~

残り55分。

残り14人。

残り逃走者

マリオ、ルイージ、クッパ、ゼルダ、トウインリンク、スネーク、  
ネス、マルス、ソニック、ファルコ、ルカリオ、プリン、オリマー、  
ドクターマリオ

次回、新ミッションが逃走者に立ちはだかる……。

AYB48 (後書き)

あるCM編その3

ピコッ

がのじゅん「アメリカの空母、画像。」

ピロッ

がのじゅん「出た。やはり、空母は広いな。ハイラルも広いが、こ  
ういうのにも乗ってみたいもんだ……。これを買うか……。」

知りたいことを無料で、音声検索。

チャララララララ

5人「スマブライド、エーオー」

チャララッ

M I S S I O N 8 (前書き)

ついに、あの男が動き出す・・・。

## MISSION 8

大統領「上手く、へりは帰還してくれたようだな。」

大臣「そうですね、ですが……。」

大統領「え？』ですが？』」

大臣「あれ、何でしょう？」

大臣の目線の先には、青とピンクの色をした大きな生き物。

大統領「あの格好……まるで、パワーでも貯めているようだな。」

大臣「変な奴ですねえ……。」

~~~~~

ピリリリー

ソニック「Oh……誰か捕まったのか？」

携帯を取り出すソニック。

ソニック「ミッション8だ……。」

ルカリオ「火力発電所を作動させてしまったため、」

スネーク「中に冷凍保存されている50体のハンターが」

トウンリンク「熱により解凍されようとしている。」

プリン「阻止するには、残り35分までに火力発電所を停止させなければならぬ。」

MISSION 8

火力発電所を停止せよ!!

火力発電所で冷凍されている50体のハンター。

現在、火力発電所が作動してしまったため、熱で解凍されつつある。

阻止するには、残り35分までに火力発電所に行き、作動している火力発電所を停止させなければならぬ。

マリオ「ファルコとネスのせいだな。余計なことしやがって。・・・あ、でも、ボスパックン退治したのか。」

気付くのが遅いスーパーヒーロー。

マリオ「これで、2人を責めてたら半殺しにされてたな・・・危ねえ。」

ドクターマリオ「これ、失敗したらハンターが56体になるってことだろ？それに、アイクもいるだろ？失敗したら絶対に逃げ切れ無いじゃん。」

未だに、息切れが続いているドクターマリオ。

ドクターマリオ「今回は任す。皆、頼んだ。」

ネス「ヤバイよ、ファルコ……。皆に怒られる。」

ファルコ「俺達は、ボスパックンからこの町を守ったんだ、文句は言われねえだろ？」

2人で行動しているネスとファルコ。

ファルコ「ミッション行くか？」

ネス「そうだね……。」

ファルコ「じゃあ、行くか。」

再び、火力発電所に向かう。

トウーンリンク「行こうかな……。ハンター50体は嫌だしなあ……。」

行くか行かないかで迷っているトウーンリンク。

トウーンリンク「行ってみよう……。」

ハンターに負けずに動き出すトウーンリンク。

スネーク「これは、ネスとファルコに任せの方が良いんじゃないのか？あの時のミッションもやってるしな。」

ハンター50体放出に対して人任せなスネーク。

スネーク「それにしてもさっきのデュオンだよな……。」

ミッションをやるかやらないかは、逃走者の自由。

動けば、捕まるリスクも高まる。

ゼルダ「このミッション、失敗したら確実に全滅ね。」

冷静に分析する姫。

ゼルダ「でも、行かない、アイクもいるし自分のことで精一杯。」

ミッションに興味無し……。

ルイーダ「だ、誰かがやるよ。50体も放出されるんでしょ?」

ハンターにビビりまくりのルイーダ。

ルイーダ「僕は、天に祈るよ。誰か、ミッションやって。」

ネス「また火力発電所に行かないとね。」

ファルコ「確かに……。火力発電所で待機しとけば良かったぜ。」

ミッションをやるのは、ネス、ファルコ、そして、トウインリンクの3人ようだ……。

~~~~~

カーネル「カーネルサンダー!!」

都会のGERO国で亜空軍と戦うカーネルとアシストフィギュア達。

次々に、プリム達が倒れていく。

そして、誰もが勝利を確信をしたその時だった。

????「待ちな。」

カーネル「!!!??」

そこには、青い体で宙に浮いている男……。

タブー「ククク……。」

タブーだ……。

カーネル「お前は誰だ!?!」

タブー「名乗る必要無し、貴様らにはここで消えて貰う……。」

そう言うとタブーは、青い羽根を出した。

もの凄い威力がタブーに貯まっていく。

タブー「OFF波動!!!」

全員「!!!??」

その瞬間、全員の意識が途切れた。

~~~~~  
「……!?!」

凄まじい光景に啞然とする謎の男……。

「……?」

ハッと、気を取り直すと『LIST OF RUNAWAYS』を
タッチした。

すると、残り逃走者の顔写真が映し出された。

その中で、男はルイージの顔写真をタッチした。

「……?」

しばらくジッとルイージの顔写真を見つめると、ルイージのデータ
に『救世主』と書き込んだ……。

~~~~~

残り52分。

残り14人。

ミッション終了まで残り17分……。

MISSION 8 (後書き)

あるCM編その4

ピコッ

わりの「ニンニク、画像。」

ピロッ

わりの「出た。おおっ、この焼きニンニク美味そうだな。生のニンニクも美味いがこっちのバージョンも良いな。」

知りたいことを無料で、音声検索。

チャララララララ

わりの「俺様が書いたニンニクの絵。そっくりだ〜!!ガツハツハハツハツハ!!」

笑いながら言う、リーダーわりの。

5人「スマブライド、エーオー」

チャララッ

MISSION 8 PART 2 (前書き)

更新ペースを上げたいなあ・・・。

## MISSION 8 PART 2

牢獄

ヨッシー「あっ、ロボット来ましたよ。」

ロボット「ウーン・・・残念デス。」

入獄するロボット。

デデデ「アイク・・・一体、何がしたいんだぞい？」

メタナイト「しかし、彼は、もう逃走者では無いからゲームに参加して無いはずだぞ。」

フォックス「確かにそうだな・・・。ルール分かってないのか？」

リンク「いや・・・違うと思う・・・。」

フォックス「え？」

リンク「さっき見たようにアイクは普通じゃなかった。」

ピット「確かにそうですよね。何かいつもと違うオーラというか・・・。」

ウルフ「まあ、牢獄に帰りたくないだけってことは無さそうだな。」

リンク「それに、ここまで人を痛めつける奴じゃない。」

ワリオ「でも、現にこうやって人を裏切ってるぞ。そう言い切れるのか？」

リンク「あいつを信じてるんだ。」

ワリオ「うるさい！！俺様達の辛さの何が分かる！！俺様は、アイクのせいで捕まったんだぞ！！素直に謝るならまだ許せる。だが、戻って来ない。あいつは、金のために裏切ったんだぞ！！」

リンク「それは、そうかもしれない。けど、あいつはもう金が貰えないのに何故、スマブラメンバーを通報し続けるんだ・・・？」

ワリオ「そりゃ、決まってるだろう。俺様達を道連れにして賞金を渡さないようにするためだよ。」

リンク「違います！！そんな奴じゃない！！」

ワリオ「何だと！？お前、いつまでアイクを庇<sup>かば</sup>つつもりだ！！」

レッド「いい加減にしろ！！今頃、争ったって仕方無いだろ！？」

ワリオ・リンク「黙れ！！」

????「やけに騒がしいね。」

全員「え？」

ドナルド「やあ、ドナルドだよ。」

全員「……？」

プリン「……。」

目立たない所に隠れるプリン。

プリン「エリアが広いからハンター6体なら余裕ね。」

先程、ハンターが減ったため逃げ切る自信が出てきたプリン。

プリン「でも、このミッションは行かない。さっきの دونالد って人と相手してたら疲れた。」

その場に座る風船ポケモン。

マルス「あつ、マリオさんだ。」

遠くにマリオを発見したマルス。

マルス「時計ばかり見てるなあ……。やっぱり、お金が増えるのは楽しいんだろうなあ……。」

現在、マリオにハンターの警戒心は無いようだ。

ネス「あの先にまた、ハンターいるし……ついてない……。」

ファルコ「何でキョロキョロしたまま立ち止まってるんだよ。」

オランド南部にある火力発電所を目指すファルコとネス。

こちらには、ハンターがいる……。

ネス「別の道、通る？」

ファルコ「いや、それじゃあかなりの回り道になっちまうからなあ。」

上手く動けない……。

ルカリオ「賞金、226万か……。」

1秒ごとに上がって行く賞金を見るルカリオ。

ルカリオ「自首したくなるような金額だなあ……。」

目の前の賞金に心が動く。

トウーリンク「急がないと、間に合わないよ……。」

火力発電所から少し遠い場所にいるトウーリンク。

トウーリンク「ヤバイ、飛ばしすぎた。歩いて行こう……。」

~~~~~

所長「あれ？発電所が勝手に開いてる？」

副所長「確かに……。何故でしょう？」

所長「よし、あれを起動させよう。」

副所長「……何ですか？」

所長達は、監視室に行った。

所長「やっぱり、監視カメラを起動して無かったんだな……。」

所長は、そう言うと、監視カメラのスイッチを入れる。

すると、火力発電所の周りの2台の監視カメラが起動した……。

これが、逃走者に襲い掛かる……。

~~~~~

残り48分。

残り14人。

ミッション終了まで残り13分・・・。

## MISSION 8 PART 2 (後書き)

あるCM編その5

ピロッ

ふあるみや「カート、画像。」

ピロッ

ふあるみや「出た。あ……しばらく見ない内に新しいデザインが……。全部欲しい……。」

知りたいことを無料で、音声検索。

チャララララララ

5人「スマブライド、エーオー」

チャララッ

**MISSION 8 PART 3 (前書き)**

さて、更新、更新・・・。

## MISSION 8 PART 3

クレイジー「……!!」

マスター「どうした、クレイジー。」

クレイジー「あっ、あれ見ろ……マスター……。」

マスター「何って……ん!!??」

2人は、慌ててその場所に向かった。

ピリリ

スネーク「なんだ……? 通達8……。」

ドクターマリオ「火力発電所にある2つの監視カメラが起動した。」

ゼルダ「その監視カメラに見つかりとハンターに位置情報が伝わる。」

マリオ「阻止するには、監視カメラの電源コードを抜かなくてはならない。」

所長により作動した監視カメラ。

監視カメラに見つかりハンターに位置情報が伝わってしまう。

阻止するには、監視カメラの下にある電源コードを抜かなくてはならない。

ファルコ「カメラってあれか？デカイカメラだぜ……。」

ドラム缶ほどの大きさの監視カメラ。

ファルコ「確かにあれならより広い範囲が見れるが……その分、死角も広いはずだ。」

ネス「じゃあ、その死角に入っていけば……。」

ファルコ「そういうことだな。」

ハンターが来ないのを確認し、進む2人。

トウインリンク「カメラってあれだよね……？」

火力発電所の裏側に着いたトウイン。

ファルコ達が向かってない方のカメラを発見したようだ。

トウインリンク「うわぁ・・・左右に動いているってことは、まだ動いてるってことだね・・・厄介な物があるなぁ・・・」  
柱に身を隠す・・・。

このドラム缶ほどの大きさの監視カメラ。

監視カメラから遠く離れた所でも油断はならない。

オリマー「先程、ミッションをやりましたからね。これで、幸運の女神が微笑んでくれるでしょう。」

妻や子のために張り切るサラリーマン。

そんなオリマーを・・・。

監視カメラ「!!」

ロックオン・・・。

ハンターにオリマーの居場所が伝えられる。

ハンター「……。」

オリマー「ん？あれ、ハンターかな……？逃げよう……ってこ  
つちからも!？」

ピ—————

だが、向こうからも別のハンター。

オリマー「うわああ!!」

挟まれた……。

ポンッ

オリマー確保、残り13人。

オリマー「うわあ……こんな所で……。」

一瞬の油断が全てを崩壊させる……。

ピリリ

ソニック「Oh……オリマーが捕まった。」

スネーク「さつきまで一緒に行動していたから何か辛いな……。」

ルイージ「まさか、監視カメラに見つかったんじゃ……。」

ルカリオ「ん？何故、ここにヘリが？」

道の端に置かれているヘリコプター。

このヘリがあるということは、先程まで دونالد がいた場所だ。

ルカリオ「……？何故？でも、ヘリってやっぱり格好良いな……」

興味津々だ……。

## 牢獄

Donald「何かあるか知らないけどケンカは良くないよ。」

リンク・ワリオ「お前には、関係無いだろ！？」

Donald「いや、Donaldは役にたったよ。」

リユカ「あつ、そういえばヘリを1機帰還させたのはDonaldって、書いてありましたが貴方ですか！？」

Donald「勿論さ！！Donaldは、人の役にたつのが大好きなんだ

「

リンク」ですが、アイクのことは貴方には関係無いです。ケガをする前に下がっててください。」

ドナルド「アラッ！！じゃあ、この辺でハンバーガーでも食べとくね。じゃあね。」

ドナルドは、牢獄の傍そばにあるベンチに腰かけハンバーガーを食べ始めた。

その後もリンクとワリオの口論が続いている……。

残り45分。

残り13人。

ミッション終了まで残り10分……。

MISSION 8 PART 3 (後書き)

春休みは、何話、更新出来るのか・・・。

**MISSION 8 PART 4 (前書き)**

今日も何とか更新!!

## MISSION 8 PART 4

マルス「ミッション、誰かやってますかね？」

前回のミッションに向かったマルス。

今回は、向かわないようだ。

トウーンリンク「見つかったら通報されちゃうんでしょ？・・・と  
なると、素早く抜いて素早く逃げるしか無いね。」

電源コードの近くまでやって来たトウーンリンク。

トウーンリンク「カメラが向こうを向いたら行こうと思います。」

左右に動く監視カメラを見ながら言うトウーンリンク。

トウーンリンク「今だ!!！」

ダッシュで走る。

が、

監視カメラ2「!!！」

ロックオン

トゥーンの位置情報がハンターに伝わる。

トゥーンリンク「これだ!!」

コードを抜くトゥーンリンク。

1つ目の監視カメラ、停止。

所長「あれ？映像が途切れた……。」

副所長「な、何故でしょうか……？」

所長「分からん……。呪いかもしれないな。」

トゥーンリンク「多分、見られた!!逃げよう!!」

ハンター「!!」

トゥーンリンクの後ろからハンター！

トゥーンリンク「うわああ!!？」

逃げるトゥーンリンク。

トゥーンリンク「ここで捕まる訳には……。」

体力が回復しているトゥーンリンク。

ハンター「……。」

周りの建物を利用し、上手く撒いたようだ。

トウーリンク「危な・・・やっぱり、見られてたんだ・・・。」

ファルコ「よし、結構、カメラの近くに来たな。」

ネス「これで、火力発電所に容易に入れるはずだね・・・。」

トウーリンクを追ったハンターが2人に近づく・・・。

ハンター「!!！」

見つかった・・・。

ネス「うわっ!!??？」

ファルコ「ここでかよ!?!？」

一旦、別行動に出る2人。

2人は建物を利用し、ハンターとの距離を取る。

ハンター「・・・。」

上手く撒いたようだ・・・。

ネス「疲れた・・・ファルコ、逃げ切ったかな・・・。」

ファルコ「・・・ったく、何でこの辺、ハンターが多いんだよ。それとも、さつきと同じ奴か・・・?」

牢獄

ワリオ「いい加減、アイクの騙しに気付け!!」

リンク「あいつは、そんなことしない!!」

ワリオ「しただろ!!」

リンク「してない!!」

リンクとワリオの口論は、さらにヒートアップしていた。

ドナルド「・・・。」

ドナルドは、それを見ながらハンバーガーを食べていた。

パッパッパッパ

ドナルド「ん?電話が・・・。」

ピッ

ドナルド「もしもし、ドナルドです。」

携帯電話に出るドナルド。

ドナルド「あ……マスターかい？どうしたの？」

マスター「実は……。」

ドナルド「何っ！？場所は……？分かった、今、行く！！」

ドナルドは、猛ダッシュで走って何処かへ行ってしまった。

カービィ「凄い速さだね……。」

ゼニガメ「何か驚いていたけど何だったのかな？」

ネス「やっと戻れた……。」

ようやく監視カメラの所へ戻って来たネス。

ネス「これだな、電源コード。うりゃー！！」

2つ目の監視カメラ、停止。

所長「何っ！？どうなってるんだ！？」

副所長「故障でしょうか……。」

所長達は、スイッチをカチャカチャと押し始めた……。

ネスとトゥーンの活躍により、これで、全ての監視カメラが停止した。

ネス「ふう……これで、通報されることは無いぞ……。」

幸いにも、監視カメラに見つからずに済んだ。

ファルコ「おっ、コード抜いたのか。じゃ、火力発電所に行こうぜ。」

ファルコも到着。

ネス「そ、そうだね。ハンター50体を阻止しなくちゃ……。」

ネスは、ゆっくりと立ち上がった。

残り41分。

残り13人。

ミッション終了まで残り6分・・・。

**MISSION 8 PART 4 (後書き)**

監視カメラが何とか停止。

これで、クリアとなるか・・・。

MISSION 8 PART 5 (前書き)

書いてたのに投稿しなかった・・・。

## MISSION 8 PART 5

プリン「あれ？あのカメラ止まったんじゃないの？」

監視カメラが左右に動かないことに気付くプリン。

プリン「誰かがやったんだ……。」

ルイージ「……。」

マリオ「あつ、ルイージだ。」

ルイージの後ろから近づくマリオ……。

マリオ「よっ。」

ルイージ「へっ！？うわあああー!!！」

マリオ「声、デカイ……。ハンター気付いてないから良いけどよ。」

ルイージ「いつも、いつも……。それは、兄さんが悪いんだぞ。」

所長「ちよつと、異常が無いか見て来るぞ。お前は、直らないかどうか見てておいてくれ。」

副所長「分かりました。」

火力発電所の監視室から出る所長。

所長「ん？なんだ、これは？」

所長が見たのは、火力発電所の非常口にいる50体のハンター。

所長「気持ち悪……。」

トウインリンク「あつ、ファルコさんとネス君だ。」

火力発電所の入口にいる2人を目撃したトウインリンク。

トウインリンク「……あ、2人もいるんだし、時間もまだあるし任せて大丈夫でしょ。」

そつとその場を離れるトウイン。

役目を果たしたようだ。

副所長「あ……何で作動しないのかなあ……。うりゃー!」

機械を強く殴る副所長。

すると、強い地響きが響いた。

副所長「へ？」

その時、地震のような揺れが起こった。

副所長「うわあああ！？」

激しい揺れ。

だが、数秒後、揺れは納まった。

副所長「・・・何だったのかな？壊れちゃったのか・・・？」

ネス「着いた、着いた。」

ファルコ「また来るとはな・・・。」

2人が、火力発電所に入った瞬間、ガシャーンという大きな音が響いた。

ネス「うわあ！？何！？」

ファルコ「向こうから音がしたな・・・。」

奥に進む2人。

ネス「な、何これ!？」

ファルコ「何で、ここは、色々、厄介なんだ……。」

~~~~~

ドナルド「マスター、クレイジー。本当なのか……?」

マスター「そうだ……。」

クレイジー「あれを見る……。」

ドナルド「!!」

そこには、倒れているアシストフィギュア達とカーネルの姿。

ドナルドは、すぐにカーネルの所へ行つた。

ドナルド「う、嘘だろ、カーネル?嘘だよね?」

マスター「……。」

クレイジー「……。」

ドナルド「そんな……。目を開けてくれよ……。カーネル……。」

その瞬間、ドナルドは、ガクリと下を向き、大声で喚いた。

~~~~~

残り39分。

残り13人。

ミッション終了まで残り4分・・・。

MISSION 8 PART 5 (後書き)

ネスとファルコ。

意外に良いコンビなのかもしれません。

**MISSION 8 PART 6 (前書き)**

この話で60話目となります。

だから何だよ・・・とか言わないの

## MISSION 8 PART 6

ファルコ「何故、ここにシャッターが閉まってるんだ？」

ネス「前に来た時はこんな無かったのに……。まあ、確認スイッチは切っておこう。」

2つのスイッチが押しであることで作動するこの発電所。

切る時は、両方を切らなくてはならない。

とりあえず、確認スイッチを押すネス。

これで、あとはパスワードがいる3階のスイッチのみとなった。

所長「おや、見学ですか？」

そこに現れる所長。

ファルコ「あ、所長か……。」

ネス「……殴っちゃ駄目だよ。」

ファルコには、所長との嫌な思い出がある。

所長「おや？初対面なのに、何故、私の名前を……。」

ファルコ「惚<sup>とほ</sup>けんな!!！」

ネス「ファルコ、落ち着いて!!」

殴りかかろうとするファルコを必死に止めるネス。

所長「・・・と、ともかく先程、副所長と電話をしたのだが、どうやら誤って発電所中のシャッターのボタンを押してしまったらしい。

」

ネス「それで、シャッターが閉まった・・・という訳か。あつ、彼にもう一度開けて貰うってというのは・・・。」

所長「残念だけど、彼は、機械オンチだ。説明しても上手く伝わらないだろう。」

ファルコ「所で、俺達、火力発電所を停止する所に行きたいんだけど・・・。」

所長「そこを見学するのかい？珍しいねえ。でも、このシャッターのせいで結構、遠回りになるよ。」

ネス「ついて行きます。」

所長「そう？じゃ、行くよ。」

2人は、所長について行った・・・。

スネーク「お・・・あれは、牢獄だ。挨拶でもしとくか・・・。よ  
お、元気にして・・・なんだ、騒がしいな？」

ウォッチ「リンクサン、落ち着イテクダサイ!!」

リンク「うるせえ!!」

ワリオ「これは、俺様達の問題なんだ!!」

スネーク「何があったんだ・・・？近づかない方が良いな・・・。」

その場を離れるスネーク。

ワリオ「アイクは、信じたら駄目だ!!」

リンク「信じてやってください!!」

ピーチ「ZZZ・・・ん・・・うるさいなあ・・・。」

牢獄の中で、ずっと寝ていたピーチが起きる。

ピーチ「そのこの2人、うるさいわよ!!」

リンク「黙っててください!!」

ワリオ「引っ込んでろ!!」

ピーチ「この野郎・・・調子に乗るな・・・魔剣良綱LV100！  
」

ピーチ以外「ハア！？」

魔剣良綱とは、圧倒的な攻撃力とステータス上昇に加え、剣でありながら遠距離攻撃ができるというまさに最強の武器のことである。

さらに、LV100だ・・・。

ピーチ「プリニータハールさん（作者）から買ったの・・・。喰  
らえー！！」

ピーチ以外「・・・へ？」

その後、もの凄い音が牢獄に響き渡った・・・。

ピーチ「よし、これでケンカは終わったね、平和が1番よね。」

ルイージ「ねえ、さっき誰か大声を出してなかった？」

マリオ「気のせいだよ。」

ルイージ「・・・だと良いんだけど・・・。」

ネス「ま、まだなの？」

ファルコ「ずいぶん歩いたぞ……。」

所長「随分と回り道してますからねえ……。所で……。2人とも。」

ファルコ「何だ？」

ネス「どうしたの？」

所長「ここ何処？」

2人「迷ったのか……!?」

所長「うん。」

ファルコ「お前の発電所だろ!? 分かれよ？」

ネス「まあ、確かに地図も無いんじゃないや迷うよね……。」

所長「ありますよ。」

ファルコ「早く出せ……!!」

ネス「……!! こんなことしてる場合じゃない。もう時間が1分ぐらいしか……。所長さん、地図貸して下さい……!!」

所長「は、はい……。」

ネス「今、何処？」

所長「地図でいうと……ここです。」

ネス「あのスイッチの所からそんなに遠くない……。ファルコ、行こう。」

ファルコ「分かってる。」

2人は、走り出したのだった……。

所長「あの2人……何をそんなに急いでいるんだ？」

残り36分。

残り13人。

ミッション終了まで残り1分……。

MISSION 8 PART 6 (後書き)

ハンター50体放出か、それとも・・・。

MISSION 8 PART 7 (前書き)

思わぬ落とし穴・・・。

## MISSION 8 PART 7

ミッション終了まであと50秒。

ネス「急いで、急いで!!」

ファルコ「分かってる!!」

2人は、スイッチの場所までたどり着く。

ファルコ「げっ、あれが50体のハンター!?! 気持ち悪……。」

ネス「そんなこと言ってないでスイッチを……えーと……あれだ!!」

ネスは、スイッチを押す。

ポチツという音が響いた。

ファルコ「おっしゃ!! ミッションクリアだ!!」

『それでは、停止させるための4ケタのパスワードを入れてください。』

ファルコ「ハア!?! この野郎……!!!! ふざけんな!!」

壁を蹴るファルコ。

ネス「え……。4649じゃないの……？」

ネスは、4649と入力する。

『パスワードが違います。』

ファルコ「……。もう駄目だな……。今更、説明書を見に行っただって遅い……。無理だ。これで終わりだな……。ご苦労さんだったな……。」

ファルコはその場に座り込む。

ネス「ま、まだ諦めちゃ駄目だよ!!！」

ミッション終了まであと30秒。

ネス「そ、そういえば、作動させる時のパスワードって単純だったよね？」

ファルコ「思い出話か？そんなこともあったな。」

ネス「……。ということは、このパスワードも単純なんじゃないの？」

ファルコ「……。!!そうか!!あの所長、バカだから……。」

ネス「じゃあ、何かな？最初が『宜しく』だったら……。」

ファルコ「その反対のはずだ!!俺がさっき言った言葉、『ご苦労さん』だ!!！」

ネス「え？・・・だから、5963?」

ミッション終了まであと10秒。

ファルコ「それに掛けるしかない!!押せ!!」

ネスは、5963と入力する。

ネス「・・・どうだ!!」

『認証しました。』

ガシャン!!

火力発電所、作動停止。

ミッションクリア。

ネス「やったあ〜・・・。」

ファルコ「・・・やっぱり、単純だったな。」

デュオン「あ、あれ・・・?火力発電所の煙が・・・。これじゃ、

作戦が……。」

ブーメランプリム1「ど、どうします?」

ピリリー

ドクターマリオ「ミッションの結果だ。ネスとファルコにより、ハンター50体の放出は免れた。やった!!! 凄いな、あの2人!!!」

マルス「また、監視カメラもネスとトウーリンクにより止められた。よし、これで、通報されることは無いな。後は、アイクだけか……。」

ガラララ……。」

ファルコ「ん?」

ネス「あ……シャッターが開いたみたい……。」

ファルコ「何でこんな時に開くんだ……。」

所長「ようやく追いつきました。どうやら、副所長がシャッターを開いたようです。さて、何処を見学ですか?」

ファルコ「見学なんてしねえよ!!! じゃあな。」

所长「えっ……。」

所长は、スタスタと先に行く2人を見ながら唾然としていた……。

ルイージ「あ……ハンターもう来ないで欲しいよ。兄さん、この道の先にハンターがいないか覗のぞいて来てよ。」

マリオ「ルイージが覗のぞくだって。キャー……！……！！！」

ルイージ「兄さん、うるさいよ！！ハンター来るでしょ！！？」

ハンター「……！！！」

見つかった……。

マリオ「来たああ！！??？」

ルイージ「兄さんのせいだぞ！！！」

マリオブラザーズ、逃げ切れるか!??

残りゲーム時間34分。

残り逃走者、13人。



MISSION 8 PART 7 (後書き)

ハンター50体放出は免れた。

だが・・・。

現実（前書き）

マリオブラザーズの運命は・・・。

## 現実

マリオ「来てる……。」

ルイーダ「ここで捕まりたくないよー!!」

マリオとルイーダがハンターに見つかった。

ハンターが狙いをつけたのは……

ルイーダ「ひえ〜!!」

ルイーダ「……」

ルイーダ「もう駄目だ……」

ルイーダとハンターの距離が縮まる。

そこに、

ファルコ「もう二度と行かねえからな、この発電所。」

ネス「そう怒らないでよ、でも、やっぱり、疲れたね。」

火力発電所から出てきたファルコとネス。

ハンター「!!！」

ネス「へっ!？」

ファルコ「マジかよ!!！」

ルイージとハンターの間で2人が出てきてしまったため、ハンターの標的が変わってしまった!!！」

代わりに犠牲になったのは……

ピ——————

ネス「うわああ!!！」

ポンッ

ネス確保、残り12人。

ネス「あゝ……捕まった……。けど、楽しかったな……。」

ファルコ「……やべ……体力が……。」

ルイージ「兄さんのバカ……。」

ファルコとルイーダは逃げ切ったようだ。

ピリリリ

マリオ「ルイーダ……捕まったのか……？あれ、ネス確保。ルイーダ逃げ切ったんだ。」

トウインリンク「え〜！？ネス君、捕まった！？せつかく、ミッシェンやってたのに……。」

アイク「うりゃー!!」

ゴミ箱から脱出するアイク。

アイク「死ぬかと思った……さて、通報を再開するか……。」

~~~~~

ドナルド「……。」

アシストファイギュア達やカーネルが10台程の救急車に運ばれている。

マスターは119番を押し、救急車を呼んだ。

まだ生きているかもしれないという願いを込めて。

10台もの救急車が去った後、ドナルドは、ため息をついた。

クレイジー「ド、ドナルド。気持ちは分かる。だが……。」

ドナルドは、クレイジーの話を聞かずにトボトボと歩いていった。

すると、ドナルドの足に何かが当たった。

ドナルド「……ん？」

それは、カーネルの持っていた杖だった。

ドナルド「……。」

ドナルドは、カーネルの杖を拾い、それを持って何処かへ行ってしまった。

クレイジー「ド、ドナルド……。」

デュオン「まあ、大丈夫さ。作戦変更。」

ブーメランプリム2「どうするんですか？」

デュオン「適当な所へジャンプして建物を破壊する。パワーは十分あるからな。トオツ!!」

デュオンは、大きくジャンプした。

マスター「なっ!!?デュオン!?!」

クレイジー「これじゃあ、国が壊れるぞ!!」

マスター達がデュオンを目撃。

マスター「何とかしないと……。喰らえ!!」

マスターは、指を鉄砲のような形にして、撃った。

デュオン「グアアッ!?!」

デュオンは、大きく吹き飛ばされる。

クレイジー「よっしゃ!!よくやった、マスター。」

クレイジーは、猛スピードで追いかけてデュオンをキャッチした。

クレイジーは、そのまま砂浜にデュオンを叩きつけた。

デュオン「のあっ!?!バ、バカな……。」

デュオンは、そのまま爆発した・・・。

~~~~~

そして、その映像を見ていた男・・・。

タブー「やはり、あいつじゃ駄目だったか。まあ、良い。次の策があるしな・・・ククク・・・。」

~~~~~

残りゲーム時間33分。

残り逃走者は12人・・・。

現実（後書き）

タブーの企みとは・・・。

因縁（前書き）

状況がエスカレートだ・・・。

因縁

アイク「何処にいる？何処にいるんだ？」

逃走者を探すアイク。

ドクターマリオ「あっ、あれは、アイク……？逃げよ……。」

アイクを見つけたドクターマリオ。

ドクターマリオ「ん……？」

すると、アイクの目の前にタブーが現れた。

タブー「アイクよ。ご苦労、少しハプニングもあつたが1人は通報出来たから良しとしよう。」

アイク「申し訳ありません。」

タブー「この場所はおそらく危険になるだろう。撤退するぞ。」

アイク「了解しました。」

タブーは、アイクと共に消えていった。

ドクターマリオ「間違いない……あの目、あの表情、あの格好……多分、アイクは亜空軍に洗脳されてる。もうアイクに通報されないことを含めて急いで皆にこのことを知らさなければ……！」

ハンターがいないのを確認し、メールを打ち始めるドクターマリオ。

ドクターマリオ「……一斉送信で送ろう……。」「

~~~~~

大統領「ん？また、爆発音が聞こえたぞ。砂浜から」

デュオンの方を見る大統領。

大臣「……何があつたんでしょね？ん……？」

大統領「どうした、今日はハプニングが多い日だな。」

大臣「あれは……鳥……でしょうか？」

大統領「そうだろ？でも、珍しい鳥だな。」

大臣「あの口ばしなんて刺さったら痛いでしょうね。」

~~~~~

アイク「タブー様、次の作戦は……？」

タブー「考えてある。ガレオム、例の物は出来たか？」

ガレオム「ええ、出来ましたよ。」

ゲームショップにいるガレオムと通信をするタブー。


~~~~~

「……?」

高笑いするタブーを見つめる謎の男。

「……?」

すぐさまガレオムが作った例の物の性能を調べる謎の男。

「……?!?!」

そして、モニターに『亜空間爆弾』という名前が表示された……。

~~~~~

残りゲーム時間32分。

残り12人。

因縁（後書き）

皆、ゲームキューブ爆弾、覚えてる？

真実（前書き）

逃走者に伝わる真の情報・・・。

真実

ピリリー

ファルコ「ん？ミッションか？いや、ドクターからのメールだ。」

ルイージ「ドクター兄さんがメールなんて珍しいなあ、何だろう・・・？」

マリオ「アイクは、ここから撤退したようだ。』おっ、マジか？やった！！これで通報されることは無い。」

プリン「俺が見る限り、彼は、恐らく亜空軍に洗脳されている。』ええっ！？どういうこと？」

スネーク「タブーと共に撤退したため、恐らくタブーの命令で動いている。』・・・何故、タブーが？」

クツパ「俺が分かったことは以上だ、何か分かったら連絡する。』確かに、アイクはいつもと違うような気がしたが・・・。そこまで分かるとは・・・やっぱり、あいつは医者だな・・・。』

牢獄

ワリオ「そういうことだったのか・・・。』

リンク「ケンカなんかする必要なかったですね・・・。・・・とい

うか狭いですね。」

ピーチ「ZZZ・・・。」

ドクターマリオから届いたメールを見ながらそう言う2人。

ピーチが、ついでに買ってきたプリニーラハールさんからの回復薬を使い回復するメンバー。

さらに、ピーチが寝れないからって牢獄の中に自分のベッドを持ってきたので皆、大迷惑だ。

ピット「・・・狭い。」

サムス「・・・早く起きないかしら・・・。」

ルカリオ「ん？なんだ？向こうが騒がしい・・・。あゝ・・・よく見えないな・・・。」

目を細めるルカリオ。

ルカリオ「・・・！！まさか・・・。ドクターが言ってた亜空軍か・・・？嫌な予感がする・・・。」

~~~~~

大臣「近づいてきましたよ。」

そこには、丸い体に頭にはプロペラ、二本の手に軍手をつけてバケツを持ち歩いているポトロン、ピンク色の波打つ絨毯じゅうたんのような体を持つファウロン、そして、鋭い口ばしのアロアロス……。

大統領「変な奴ら……。」

~~~~~

ゲームショップの中からガレオムが出てくる。

ガレオムは大量のプリムを連れて行き、2つの亜空間爆弾を運び出す。

ガレオム「よし、この辺だな。もう1つの方はこの場所に置いてくれ。」

プリム達に地図を見せながら説明するガレオム。

そこに、先程、大統領達が見たファルロン達が合流した。

亜空軍ロボのロボットアタッカーやロボットブラスターなどを先導し、もう1つの亜空間爆弾も運ばせた。

ガレオム「これで、完璧だな。」

その近くに、

ドナルド「この本、前に読んだな……。」

ドナルドだ……。

ガレオム「おい、そのピエロ。邪魔だ。ケガをしたくなかったら向こうに行け。」

ドナルドは、驚いたような表情を見せたが、すぐに笑顔になった。

ドナルド「それがドナルドに対する言葉かな？」

ドナルドは、笑顔でゆっくりと立ち上がった。

ガレオム「偉そうに……。皆、コイツをやっちなまえ!!」

~~~~~

ロボットアタッカー1「ココダ。」

ガレオムが指示した所にたどり着くロボット達。

そこに、

マスター「あ、あいつら何やっている!？」

クレイジー「亜空軍!?!やはり……。さらに、亜空間爆弾まであるとは……。」

マスター「しかもあの亜空間爆弾はデカイ……。あれは、相当な威力がありそうだ……。」

クレイジー「止めに行かなくては・・・。」

マスター達は、亜空軍に向かって行った。

~~~~~

残りゲーム時間30分。

残り12人。

真実（後書き）

次回、新ミッション発動！！

亜空軍との戦いは、どうなるのか・・・。

MISSION9 (前書き)

立ち塞がる新ミッション・・・。

MISSION 9

鋭い口ばしを持つ3体のアロアロスがドナルドを襲う!!

ドナルド「ドナルドマジック!!」

アロアロス「ギャア!?!」

アロアロスは、一瞬にして焼き鳥になった……。

ガレオム「……!!」

ドナルド「へっハッハッハッハ」

~~~~~

ピリリー

マルス「また、メール?あ、ミッション9……。」

ファルコ「急に、来るもんだから……この音慣れねえ……。携帯をマナーモードにしてえな。何々……。」

クツパ「『2つの亜空間爆弾を設置した。』とんでも無い物を……。」

プリン「『亜空間爆弾は、GランドとRランドの境界線と、EランドとOランドの境界線に設置されてある。』」

マリオ「『残り10分になると亜空間爆弾が爆発し、爆発したエリアは、封鎖される。』」

ルイージ「『封鎖されたエリアにいと、強制失格となる。』」

ソニック「『阻止するには、亜空間爆弾を爆発させようとしている2体のロボットを2人同時に抜き』」

ルカリオ「『亜空間爆弾を丸い状態に戻さなければならない。』」

マリオ「これ、きついで！！1つ爆発したらエリア半分封鎖、そして、両方、爆発したら全員、強制失格……。」

## MISSION 9

エリア封鎖を阻止せよ！！

西側のGランド・Rランドと、東側のEランドとOランドの境界線に亜空間爆弾が設置された。

残り10分になると亜空間爆弾が爆発し、爆発したエリアは封鎖され、そのエリアにいた逃走者は強制失格となってしまふ。

阻止するには、それぞれの亜空間爆弾にいる2体の亜空間ロボットを2体同時に引っ張り、元の丸い状態に戻さなければならない。

爆発してしまうと、1つ爆発で、エリア半分封鎖。

両方が爆発してしまうと全エリアが封鎖されてしまい、全逃走者が強制失格となってしまう。

最低でも、4人の協力が必要となる今回のミッション。

ドクターマリオ「行こう、この国を守ることに繋がるしな。」

マリオ「この国を守る！！正義は、勝つんだ！！」

ファルコ「行くか……。」

プリン「これは、参加するしかないでしょ。」

スネーク「時間的に、これが最後のミッションだな。行くしかないな。」

ソニック「音速で行くZE！！」

マルス「これは、行かないと……。」

ルカリオ「強制失格は、辛い……行こう。」

ゼルダ「何も出来ないかもしれないけど、行かないよりは、マシね……。」

クッパ「これ、下手すれば、この国がヤバイな・・・初めてのミッション挑戦だ！！ガハハ！！」

トウーリンク「この国を守ります！！」

全逃走者が、ミッションを挑戦すると思われたが・・・。

ルイーダ「誰かやるよ・・・。僕には怖くて行けないよ・・・。」

この男だけは、ミッションに向かわない・・・。

残りゲーム時間28分。

残り12人。

ミッション終了まで、あと18分・・・。

残り逃走者

マリオ、ルイーダ、クッパ、ゼルダ、トウーリンク、スネーク、マルス、ソニック、ファルコ、ルカリオ、プリン、ドクターマリオ

MISSION 9 (後書き)

ミッションに向かう11人の逃走者達。

だが、彼らはまだ、真の恐怖を知らない・・・。

MISSION 9 PART 2 (前書き)

強制失格を免れるために、ミッションに向かう逃走者達・・・。

## MISSION 9 PART 2

ミッションに向かい始めた逃走者達。

ソニック「東側に行くZ E!!」

Eランドにいたソニック。

東側に向かう。

スネーク「西側の方が近いな・・・。」

Rランドにいたスネーク。

西側に向かう。

西側に向かうのは、

ドクターマリオ、スネーク、マルス、プリン、ゼルダ、クッパ、ル  
カリオの7人

東側に向かうのは、

ソニック、マリオ、ファルコ、トゥーンリンクの4人。

ちなみに、ルイージも東側の方が近い。

ドクターマリオ「とりあえず1つ止めておけば大丈夫だからだな・  
」

西側の亜空間爆弾に向かうドクターマリオ。

だが、ドクターに近づくと黒い影……。

ハンター「……!!」

見つかった……。

ドクターマリオ「うわっ!!」

ハンターに気付くのが早かったドクターマリオ。

だが……

ドクターマリオ「ちょ、待て待て!!待てよ!!速っ!!」

ポンッ

ドクターマリオ確保、残り11人。

ドクターマリオ「あんなに距離があつたのに……。速……。」

リストラメンバー、全滅だ……。

ピリリー

ルカリオ「この時間で携帯が鳴るってことは、誰か捕まったな。．．  
．うわっ、ドクターマリオ確保。」

ルイージ「ドクター兄さんは情報をたくさんくれたのになあ．．  
残念。」

牢獄

フォックス「ドクターマリオ確保!!」

子供リンク「え〜!?!リストラメンバー全滅〜!?!」

デデデ「お、おい、子リン。自分で言っただけで悲しくないのかぞい?」

子供リンク「残念だけど、事実だから．．．仕方ないよね．．．。」

マリオ「ミッションをするには2人が必要なんだよな．．．。そう  
だ、さっきまでルイージと一緒にだったからルイージと一緒に行けば  
良いな!?!ここから近くにいないはずだ!?!」

携帯を取り出すマリオ。

マリオ「俺って、頭良い!!」

ルイージに電話をするマリオ。

ピリリリリー

ルイージ「もしもし、どうしたの?」

マリオ「よお、ルイージ、一緒に、ミッション・・・」

ルイージ「嫌!!」

ブツッ、ツーツーツー・・・。

マリオ「・・・。」

マリオは、携帯を地面に叩きつけた。

幸いにも、壊れて無いようだ・・・。

~~~~~

ガレオム「おのれ、貴様・・・。」

ドナルド「ヘッハッハッハッハッハ」

亜空軍が、次々と倒されて行く光景をガレオムは黙ってはいなかった。

ガレオム「俺が相手してやる!!」

ガレオムは、戦車形態になった。

ガレオム「お前もタブー様がやっつけた白い服のじじいのようにしてやる!!」

すると、何処かでプチツという音が聞こえた。

ドナルド「へえ〜・・・。」

ガレオム「なっ!?!? 貴様・・・いつの間に後ろに・・・?」

ドナルド「ドナルドは、ムカつくといっ殺っちゃうんだ。皆も一緒に殺ろうよ、逝くよ!! ランランルー!!」

ガレオム「な・・・。」

~~~~~

ファルコ「この辺のはずだ・・・。なっ!?!?」

東側の亜空間爆弾に着いたファルコ。

だが、亜空間爆弾の周りには大量の亜空軍。

そして、そこには必死に、マスターとクレイジーが亜空軍と戦っている。

ファルコ「あいつらを倒さなければならぬってことか・・・?」

西側の方よりも東側の方がミッションの難易度が高いようだ・・・。

残りゲーム時間26分。

残り11人。

ミッション終了まで、あと16分・・・。

MISSION 9 PART 2 (後書き)

西側の方が簡単なのは、トナルドがいるから・・・。

MISSION 9 PART 3 (前書き)

そういえば、今年、受験生だ

大丈夫かなあ・・・。

## MISSION 9 PART 3

倒れているガレオムを蹴飛ばしダンスを踊るドナルド。

ドナルド「ドナルドマジック!!」

もの凄い勢いで100体ほどのプリムが吹っ飛んだ。

~~~~~

マスター「ぐっ、数が多すぎる……。畜生……。」

クレイジー「キリが無いな……。」

ファルコ「行きたいが……。ハンターがなんているんだよ……。」

ハンター「……。」

激闘している中で平然としているハンターに苛立つファルコ。

ファルコ「向こう行け……。」

ソニック「Hey!!ファルコ!!行かないのかい!?!」

音速のハリネズミ、ソニックが到着。

ファルコ「バカ、ハンターいるぞ。」

ソニック「Oh……sorry……。」

トウインリンク「ハンターいる……。」

ファルコとソニックの反対側から東側の亜空間爆弾に向かうトウインリンク。

ファルコが見た同じハンターを発見。

騒ぎが大きい亜空間爆弾の周辺には、やはり、ハンターは警戒するようだ。

マリオ「……。」

先程のことで少々怒っているマリオ。

マリオ「……。」

無言で歩く。

現在、西側に6人、東側に4人の逃走者が向かっている。

ルカリオ「おっ、プリン。ミッション行くのか？」

プリン「勿論、強制失格なんて嫌だからね……。」

残っているポケモン同士の逃走者達。

プリン「この辺だと思っただけど……ん？今、何か声が……。」

耳を傾けるプリンとルカリオ。

プリン「……微かだけど……ランランルーとか、マジックとか聞こえる……。しかも、この声……まさか……。」

ルカリオ「知り合いなのか？」

プリン「う、うん……。一応……。」

声がる方向に向かう2人。

距離は、まだまだあるようだ。

クツパ「やはり、遠いな、行かないよりはマシかもしれないが……。」

同じく西側に向かうクツパ。

ゼルダ「遠いわね．．．ここ、何処かしら？」

こちらも西側に向かう姫。

スネーク「．．．あれか。」

西側の亜空間爆弾を見つけた不可能を可能にする男。

スネーク「だけど、何だ．．．この不気味な声は．．．。」

近寄るスネーク。

ドナルド「ヘッハッハッハッハッハ」

スネーク「何だ、あの不気味なピエロは．．．。おい。」

ドナルド「アラーツ！！どうしたの？」

スネーク「何って．．．ガレオムやプリム達が．．．何だこれは？」

ドナルド「ドナルドの仲間がやられたから、敵討ちかたきりをしたんだ。」

スネーク「そうなのか．．．。（酷い光景だ．．．。まあ、一応、亜空軍を倒したんだから、敵では無いな．．．。）」

ドナルド「だけど、あれだけは壊れないんだ。」

ドナルドが指差す方向には、亜空間爆弾があった。

スネーク「そ、そうか……。まあ、仲間がやられたのは、悔しいよな。俺も分かるぞ。」

ドナルド「ドナルドは仲間が大好きなんだ、それじゃあ、ドナルドは散歩に行つて来るよ。じゃあね〜!!」

そう言うとスキップをしながらドナルドは去つて行つた。

スネーク「何だったんだ、あいつ……。それにしても、酷い光景だな。俺は、大丈夫だがプリンとかに見せたら刺激が強すぎるだろうな……。」

辺りを見回すスネーク。

スネーク「こつちにこんなに敵がいるんなら東側も亜空軍がいるんじゃないのか……。まあ、ともかくあと1人を待つとするか……。」

あと1人来れば、西側のGランド、Rランドは封鎖を免れる。

残りゲーム時間23分。

残り11人。

ミッション終了まで、あと13分・・・。

MISSION 9 PART 3 (後書き)

西側と東側とでは、大きな雲泥の差があります。

MISSION 9 PART 4 (前書き)

新学期が始まったらどれくらい時間が取れるのだろうか・・・。

MISSION 9 PART 4

マリオ「トウーンじゃないか。」

トウーンリンク「あっ、マリオさん。今、ハンターがいて動けないんですよ。」

マリオ「マジか……。」

早歩きで東側の亜空間爆弾付近に到着したマリオがトウーンと合流。

ファルコ「あのハンターが向こう行ったら、即、行くからな。」

ソニック「OK」

様子を覗^{っか}つファルコとソニック。

~~~~~

????「……。」

ファルコとソニックの様子を見る謎の男。

????「……。」

画面をスライドすると、『BONUS ITEM』とこの文字。

男は、それをタッチした……。

~~~~~

ピリリー

ソニック「What!？」

ファルコ「ヤベエ、ハンターに気付かれる……一旦、離れるか……」

2人は、亜空間爆弾の場所から離れる。

ファルコ「下らないメールだったら許さねえぞ、通達10か……」

マルス「G・E・R・Oランド全てに1つずつ逃走に役立つ宝箱を用意した。」

クツパ「中身は、それぞれ逃走に便利な物が入っている。早い者勝ちだ。」おお、これは便利なのだ!!」

宝箱は合計4つ、場所は携帯のメールの地図で知らされる。

クツパ「成る程、こんな所に置いてあるのか……。中身が何か気になる所だ……。けど、遠いな……」

ルイージ「あっ、これ？」

偶然、宝箱の近くにいたルイージ。

オランダの宝箱を開ける。

ルイージ「・・・？」

ルイージが手に入れたのは、『M』と書かれた赤いボタン。

ルイージ「押してみよう。」

何の警戒も無くスイッチを押すルイージ。

すると、

『パラッパッパッパ』

ルイージ「スイッチから変な音が・・・何これ？ハズレアイテムなの？・・・ん？」

すると、向こうから何かが走ってくる。

ルイージの目の前で止まった。

ドナルド「ドナルドです！！」

ルイージ「うわああ！？」

ドナルド「いやあ、ドナルドのおもちゃの試作品がこんな所にあっ

「ただね、助かったよ。」

ルイーダ「……ど、どういたしまして。」

ドナルドにスイッチを渡すルイーダ。

ドナルド「ついでだからドナルドと散歩をしようよ!! 楽しいよ!!」

ルイーダ「は、はあ……。」

ドナルドについて行くルイーダ。

ルイーダ「……。」

逆らえない……。

ソニック「宝箱か……でも、ここからは遠いZE!!」

ファルコ「ハンターもいなくなったみたいだな。よし、マスター達の所へ行くぞ。」

ソニックとファルコがマスター達のいる東側に到着。

ファルコ「こいつはヒデエ……。」

マスターの周りには、大量の亜空軍。

マリオ「ファルコ!!」

トウーンリンク「ソニック!!」

ファルコ「マリオか。」

ソニック「おっ、Niceだ!!」

4人が東側に到着。

マリオ「それにしても向こうは凄い人数だ。勝てるのか・・・？」

トウーンリンク「やってみなければ分かりません!!マスター達の加勢に行きましょう!!」

4人が亜空軍に突撃。

ルカリオ「・・・ハンターいるし。」

プリン「何でいるの・・・？」

こちらは、西側に向かう2人。

上手く動けない・・・。

残りゲーム時間20分。

残り11人。

ミッション終了まで、あと10分・・・。

MISSION 9 PART 4 (後書き)

ドナルド、走るの速い・・・。

MISSION 9 PART 5 (前書き)

国を守ることは、出来るのか!?

MISSION 9 PART 5

牢獄

ワリオ「改めて聞くが、アイクのこと本当なんだよな？」

ドクターマリオ「ああ、目で分かった。あれは、本来の目じゃない。

」

フォックス「洗脳が目に関係している・・・？どういうことだ？」

ドクターマリオ「心理学で習ったが、洗脳は、より実質的な意味で価値観や記憶すら改竄かいざんする事を指し、『全くの別人にしてしまう』とも言えるもんだ。また記憶の改竄かいざんにより、洗脳の際に不当な扱いを受けたという記憶すら失っている場合には、主観的に『洗脳を受けた』という事を認識する事も不可能だからな。目を見れば大体、分かる。」

フォックス「成る程・・・。」

カービィ「言葉が難しい・・・全然分かんない・・・。」

長い説明に、呑気のんきに欠伸あへびをするカービィ。

ちなみに、ピーチはベッドごと隣の牢獄に移された。

ルカリオ「よし、ハンター向こう行った。」

プリン「行きましょう。」

ハンターが向こうに行ったその先に・・・

スネーク「あれ、ハンターか？」

スネークだ・・・。

スネーク「隠れる所は・・・。」

スネークにハンターは、まだ気付いていない。

スネーク「ここしかない・・・。」

亜空間爆弾の背後に隠れるスネーク。

ハンター「・・・。」

スネーク「・・・。」

ハンターの場所に応じて場所を少しずつ変えていくスネーク。

ハンター「・・・。」

向こうに行ったようだ・・・。

スネーク「危な……。」

念のため、少しハンターから距離を取り、曲がり角を曲がるスネーク。

そこに、

ルカリオ「おっ、スネーク。」

すると、スネークは、人差し指を口元にまで持って行った。

ルカリオ「……。」

どうやら、ルカリオとプリンも意味が分かったらしい。

スネークは、もう一度、亜空間爆弾の方を向く。

スネーク「……よし、良いぞ。」

プリン「ちょっとタイミングが悪かったみたいね。」

ルカリオ「みたいだな。」

スネーク「あと、ここから先はルカリオと俺だけで行く。」

プリン「え？何で？私も行きたい……。」

スネーク「悪いがお前は行かない方が良い、ルカリオ、こっちにきてくれ。」

プリンとルカリオには、曲がり角のせいで死角になっていた亜空間爆弾周辺。

ルカリオ「……うわ、これは、酷い。プリン、お前は、行かない方が良い。」

プリン「そ、そんなに酷いの？分かった……。」

亜空間爆弾までゆつくりと歩いて行く2人。

スネーク「じゃあ、『せーの』で、この亜空間口ボを引っ張るぞ。」

ルカリオ「分かった。」

2人「せーの」

スポツという音と共に亜空間口ボが抜ける。

そして、2人は、亜空間爆弾を丸い形へと戻した。

ミッションクリア

スネーク「これで、西側は、安全という訳だ。」

ルカリオ「東側は、大丈夫なんですかね……。」

ピリリー

クツパ「ムツ!?」『ミッション9、途中経過』?」

ゼルダ「ルカリオとスネークにより、西側の封鎖は免れた。』あつ、やったんだ……。」

ルイージ「西側に行きたい……でも、もう西側から遠い所だよ、ここ……。」

ドナルド「ドナルドは、いつも元気いっぱい!!」

これで、西側のGランド、Rランドの封鎖は免れた。

だが、東側の4人が大変なことになっていることを他の逃走者は知らない……。

残りゲーム時間17分。

残り11人。

ミッション終了まで、あと7分……。

MISSION 9 PART 5 (後書き)

西側が、封鎖阻止出来たため、全員強制失格は無くなった。

だが、東側は・・・。

MISSION 9 PART 6 (前書き)

意外性って言葉、好きです。

MISSION 9 PART 6

ドナルド「へっハッハッハッハ」

ルイーダ「待ってよ……ん？あ、あれは……ま、まさか……」。

ドナルド「どうしたんだい？」

固まるルイーダに驚くドナルド。

ルイーダ「ドナルド、悪いけどちょっと待ってて。」

ドナルド「……。」

マリオ「バ、バカな……。」

ソードを首に当てられるマリオ。

ソードプリム2「お前ら3人動くなよ、動いたら……ククク……」。

ソニック「Oh……my……dog……。」

トウインリンク「……。」

ファルコ「チツ……。」

亜空軍に囲まれた4人。

最初は、有利に戦っていたが、数が多すぎるせいか段々、4人の体力は段々、消耗して行き今の状態となる。

マスターとクレイジーも倒れて気絶してしまったため、既に絶体絶命状態だ……。

ハンターに見つかっていないことだけが、不幸中の幸いである。

トゥーンリンク「僕らの人生……ここで終わりだね。」

ファルコ「何、弱気になってんだ。」

トゥーンリンク「何でもこういう時にも強気なんですか……。」

ソニック「もう駄目だ……。」

ソードプリム3「さて、終わりの時間だ、死んで貰うぜ……。」

大量の剣や拳が4人に振り上げられる。

ソードプリム3「じゃあな。」

4人は、もう諦めたのか視線を逸らす。

????「待て〜!!!」

ソードプリム3「ん？誰だ？」

そこには、

????「兄さん達を離せろ！！」

マリオ「なっ……！？」

トウーンリンク「嘘……。」

ルイーダ「ルイーダロケット！！」

走りながらルイーダロケットで突撃するルイーダ。

油断してたせいか、ルイーダロケットで亜空軍は吹っ飛んだ。

4人「！！！？」

4人は、そのお陰で開放され自由となった。

ファルコ「よ、よく来てくれたな、まあ、お前の助けが無くても……
嘘だぞ。」

トウーンリンク「有難う！！」

マリオ「……ルイーダ、何故、ここに？ミッション、あんなに嫌
がってたじゃないか？」

ルイーダ「ドナルドさんと歩いていたら偶然、囲まれている兄さん
達を見たんだ……そしたら、何て言えば良いのかな……助け

なきやっという気持ちが・・・そしたら、無意識にこっちに来ちゃって・・・。」

マリオ「ルイージ・・・。その行動力、その気持ち、それでこそ・・・スマブラメンバーだ!!」

ソニック「良いことしたじゃねえか!!」

祝福をうけるルイージ。

だが、

ソードプリム3「チツ・・・貴様・・・よくもやってくれたなあ・・・。」

倒れていた亜空軍が起き上がる。

マリオ「フツ・・・友情の力で復活した俺達に勝てる・・・と?返り討ちにしてやるうぜ!!」

4人「ああ!!」

5人は、亜空軍に突撃していった。

その威力は、先程とは、比べ物にならない程の威力で・・・。

残りゲーム時間14分。

残り11人。

ミッション終了まで、あと4分・・・。

MISSION 9 PART 6 (後書き)

5人の威力、それは、パワーだけでは無い。

友情という力も込められている・・・。

MISSION 9 PART 7 (前書き)

亜空軍との戦いの行方は・・・。

MISSION 9 PART 7

マルス「あ……宝箱だ……。」

現在、Gランドにいるマルス。

宝箱を発見。

ハンターがいないかどうか確認した後、宝箱を開ける。

マルス「おっ、無敵サングラス……。これは、定番のアイテムだな。」

マルス、無敵サングラスを獲得。

これを使えば、1分間だけハンターが仲間だと認識し、1分間のみハンターからの追跡を防ぐことが出来る。

マルス「いざという時に役立ちますね。」

ファルコ「うりゃああー!!」

トゥーンリンク「えりゃああー!!」

GERO国のために懸命に戦う5人の逃走者。

ルイージの助けもあつたお陰か、亜空軍は、壊滅状態に近づいていった。

ルイージ「これなら、行けそうだね!！」

マリオ「よっしゃあ!もう一息!！」

ソニック「OK、OK・・・あつ!！」

ソニックが見たのは

ハンター「・・・。」

こちらへ近づいているハンター。

ソニック「ハンター来たぞ!！」

ファルコ「マジか!？」

ハンター「!！」

逃走者を見つけ、走り出すハンター。

マリオ「ゲエツ、来たぞ!！」

ルイージ「に、逃げよう!！」

ソニック「俺に任せろ!ハンター、こっちだ!！」

ソニックがハンターを誘き出す。

ハンターは、ソニックを標的に捉えた。

トウインリンク「だ、大丈夫なんですか？」

ソニック「俺がこいつを引き離すから後は、頼んだZ E!!」

ソニックは、そう言うと、4人のいる所から走り去って行った。

マリオ「今の内に亜空軍を……。」

ファルコ「あいつのためにもな……。」

1本道のハンターとソニックとの戦い、距離は中々、縮まらない。

ソニック「しつこい奴だ……。」

ソニックは、ハンターより1足先に、1本道を抜け出しジグザグに曲がる。

ハンター「……?」

立ち止まるハンター。

どうやら、見失ったようだ。

ソニック「ふう……撒いたようだな……。でも、亜空間爆弾の場所からかなり遠くなったな……。後の4人に託そう。」

役目を果たしたようだ……。

マリオ「マリオキックー!!」

トウーンリンク「よし、これでここにいる亜空軍は全滅だよ!!」

ファルコ「おっ、終わったか。結構、早かったな。」

ルイーダ「これで、東側の封鎖も阻止出来たって訳だね。」

トウーンリンク「多分、メールが届いていないってことは、ソニックも逃げ切れたみたいだね。」

マリオ「あれで捕まっていたら申し訳ないよな……。」

ファルコ「ごちゃごちゃ言っでなくて早く封鎖するぞ。」

????「……させない。」

ファルコ「ん？誰だ？今、そんなこと言った奴は？」

ルイーダ「ぼ、僕じゃないよ。」

マリオ「俺でもないぞ。」

トウーンリンク「僕も……。」

ファルコ「ハア！？じゃあ、誰が……。」

????「ご苦労だったな……。」

トウーンリンク「あっ！！皆、上見て！！」

見上げると、そこには水色の身体をした羽根がついた男……。

4人「タブー！？」

タブー「その通りさ……。亜空間爆弾を爆発阻止はさせない……。」

マリオ「何故……お前が……。」

タブー「そんなこと話す必要は無い……お前らは、ここで死ぬのだからな！！」

タブーは、パワーを貯め始めた。

ルイージ「マズイ！！あれは、OFF波動だ！！」

マリオ「俺達は、避けられるかもしれないが……。だけど、そんなことやってたら……。この国が破壊されてしまう……。止める、タブー！！！！」

トウーンリンク「そうだよ！！何のメリットも無いよ！！」

タブー「メリットならあるさ……。お前らの悲惨な顔が見れるといふメリットをな！！喰らえ！！」

ファルコ「止める……。」

????「ドナルドマジックー!!」

タブー「グアアアアー!!??」

タブーの左翼が貫かれた。

その衝撃でタブーが貯めていたパワーが無くなる。

ルイージ「え……?誰……?まさか、この声……。」

????「ヘッハッハッハッハ　ルイージ君、君が遅いから迎えに来てあげたよ。」

ルイージ「ド、ドナルドさん!!」

タブー「き、貴様……。」

ドナルドがマリオ達の後ろからニンマリと笑いながら歩いて来た……。

残りゲーム時間11分。

残り11人。

ミッション終了まで、あと1分……。

MISSION 9 PART 7 (後書き)

次回、MISSION 9 終了!!

果たして、勝つのは・・・。

MISSION 9 PART 8 (前書き)

皆さん、いつも感想有難うございます!!

MISSION 9 PART 8

ミッション終了まであと1分。

タブー「き、貴様……余計なことを……。」

ドナルド「ドナルドは、この国が大好きなんだ。この国は破壊させないよ。」

タブーは、苛^{いら}ついているようだ。

ルイーダ「今のうちに、亜空間爆弾を止めよう!!もう時間まで1分もない!!。」

マリオ「そ、そうだな!!。」

ファルコ「マリオブラザーズ、お前らが止めて来い。俺達がハンターやタブーが来ないか見とくからな。」

トゥーンリンク「無事に、止めてきてよ!!。」

マリオ「任せる!!。」

ルイーダ「行こう、兄さん!!。」

亜空間爆弾までおよそ50m

タブー「行かせるか!!。」

翼を再生させたタブーがマリオとルイージを追いかける。

ミッション終了まであと30秒。

ドナルド「ハッハッハッハッハッ」

ドナルドは、右手から破壊光線を出す。

タブー「イギヤアアア!!??」

タブーの後頭部に直撃。

タブー「アアア・・・。」

相当痛いせいか頭を抱えるタブー。

マリオ「行くぞ、ルイージ。」

ルイージ「せーの!!」

2人は、亜空軍ロボットをひっこ抜いた。

ファルコ「良いぞ、頑張れ!!」

ミッション終了まで残り10秒。

そして、マリオとルイージにより亜空間爆弾が丸い状態に戻っている。

タブー「や、止める……。」「

そして、亜空間爆弾がガシャンという音をたてた。

ミッションクリア

トゥーンリンク「やったあ!!！」

ファルコ「よくやったじゃねえか!!！」

タブー「バカな……。この俺の野望が……。」

虫の息のタブー。

ドナルド「ヘッハッハッハッハ　さて、おとなしくここから立ち去つたらどうだい？さもないと……。」

ドナルドは、ランランルーのポーズをした。

タブー「グッ……。覚えてろよ……。」

そう言うとタブーは消えていった……。

ピリリー

クッパ「おっ、ミッションの結果だ。『マリオとルイーダにより東側の亜空間爆弾の爆破を阻止。』」

ゼルダ「『エリア封鎖は、免れた。』やったあー!!」

ソニック「あいつら、仕事を果たしたようだな。よくやったZE!
!」

ルイーダ「有難う。。。 Donaldさん。」

Donald「Donaldは、この国が大好きなんだ。簡単には、破壊させないよ。」

そう言うと、2人は、ハイタッチをした。

マリオ「良かったなあ。でも、まさかタブーが出てくるなんてなあ。。。。」

ファルコ「やはり、レックウザやリドリーが出てきたからな。あいつらを送り込んだのもタブーの仕業だろうな。」

トウインリンク「ともかくミッションクリア出来たし、この国を守られたしー安心だね。。。。」

~~~~~

大統領「おおっ、あの謎の兵器が止まったぞ。」

大臣「さらに、あの変な奴らもいなくなったようですよ。」

大統領「これで平和が訪れたな。スマブラメンバー達のお陰だな。一時はどうなるかと思ったが……。」

大統領は、国中にアナウンスを流した。

大統領「皆さん、この国はもう安全です。外出などを許可します。」

放送すると、店のシャッターが次々に開き始めた。

そして、公園に元気な子供達が遊び始めた……。

~~~~~

ピリリー

プリン「『通達11……』今頃、何？」

ソニック「『亜空軍がいなくなったため、これより建物に進入可能になった。』おお、これで逃げ切り確定だ!!」

ゼルダ「さつきから人が多いと思ったら……。成る程ね。」

残りゲーム時間9分。

残り11人。

アイク「……情けない大将だ。ククク……。」

MISSION 9 PART 8 (後書き)

アイクが微笑んだ・・・。

可能性（前書き）

物語も終盤ですね・・・。

可能性

牢獄

レッド「西側も東側も封鎖阻止、そして、建物に進入可能だからこれは良い展開になってきたよ!!」

ヨッシー「そうですね、マリオさん達も残っていますからね。」

サムス「さらに、GERO国の建物って結構広いでしょう?だから、もう逃げ切りは確定ね。」

ポポ「皆、頑張れ!!」

ナナ「逃げ切つて!!」

ハンター「……。」

だが、建物の中にもハンターは進入。

油断は、出来ない……。

クッパ「ぬっ、賞金が278万を超えたな……。」

賞金が増えることに喜ぶクツパ。

クツパ「ここまで来たんだ、足が遅い我輩でも逃げ切れるということを実証したからな。」

逃走成功で288万円を獲得出来る今回の逃走中。

勝利は、目前だ……。

ファルコ「よし、じゃあ別れた方が良さな。」

トウーンリンク「そうだね、大勢で見つかりやすいから……。」

マリオ「俺は、ルイージと行動するから。」

ルイージ「絶対に逃げ切ろっね!!」

ファルコとトウーンはその場を離れた。

~~~~~

タブー「くっ……あのピエロ……覚えていろよ……。」

亜空間のモニターで دونالدがマスターとクレイジーを治療しているのを見るタブー。

マスター『お、おい・・・もうちょっと優しく治療してくれよ。』

クレイジー『包帯がグルグル巻きだぜ・・・。』

ドナルド『ドナルドは、治療が大好きなんだ。』

マスター『嘘つけ・・・。』

タブー『畜生・・・あの野郎・・・。』

アイク「プリム、あの装置は3つ全てに取り付けたな？」

プリム1「ええ、付けました。」

無線でプリムと通信するアイク。

アイク「よし、封鎖してくれ。」

プリム1「了解しました。」

その会話が途切れた瞬間、自首用公衆電話が封鎖された・・・。

アイク「よし、あの計画を実行するには公衆電話は邪魔だからな。さて、俺の計画を実行するか・・・。」

タブー「よし、無事に公衆電話を封鎖出来たようだな……。後は……。」

~~~~~

ピリリー

ルカリオ「メール……。通達12か……。通達多いな……。」

マルス「これより、3つの公衆電話が封鎖されたため、自首が出来なくなった。」

スネーク「最後まで頑張りたまえ。」もうここまで時間が迫っているんだ、自首なんかには、無いさ。」

自首禁止の通達が来ても、あまり衝撃を受けない逃走者達。

ソニック「まあ、最初から自首するつもりなんかサラサラ無いけど……。」

最初から逃走成功を目標にしていたソニック。

ソニック「自首なんか必要無いZE!!！」

余裕のソニックに近づくと

ハンター「……!!！」

黒い影……。

ソニック「うわっ!?!」

先程、ハンターを撒いたソニック。

だが体力は、少し回復しているようだ。

ハンター「……。」

上手く撒いたようだ……。

ソニック「危な……。近くまで来ていたのか……。」

だが、先程のハンターが再びソニックに近づく。

ハンター「……!!」

ソニック「うわっ!?!」

ソニック、逃げ切れるか!?!

残りゲーム時間6分。

残り11人。

可能性（後書き）

ソニックの運命は!？

茨の道（前書き）

ソニックは、逃げ切るか、それとも・・・。

茨の道

ソニック「そりゃ、無いだろ……。」

ソニックがハンターに見つかった。

ソニック「捕まってたまるか……。」

音速のスピードで走るソニック。

ハンターも負けずに追いかける。

ゲーム終了まで残り5分。

だが、亜空軍の戦いで体力を消耗しょうもうしているソニック。

さらに、何度もハンターを撒いているため体力は限界に近い……。

ソニック「な……速い……。」

ポンッ

ソニック確保、残り10人。

ソニック「NO……どうやってたら、そんなに息切れせずに走れるんだい？」

ピリリ

マルス「えっ？嘘・・・ソニック捕まった？」

トウーリンク「さっきまで一緒にいたのに・・・。」

スネーク「ハリネズミが捕まったか・・・。今回も俺の勝ちだな。」

このソニックの確保が後々、逃走者を苦しめることを知らない・・・。

牢獄

ファルコン「ソニック確保!!」

全員「うわぁ・・・。」

ネス「けど、あと10人残ってるんでしょ？大丈夫だって!!」

リュカ「そうだよね!!皆、頑張つて!!」

ドクターマリオ「いや・・・まだだ。」

ネス「え？」

ドクターマリオ「よく考えろ、おかしくないか？」

ワリオ「おい、ドクター、お前は調子に乗ってるのか？」

ドクターマリオ「そうじゃない。アイクのことだ。」

リンク「アイクのこと?」

ドクターマリオ「あいつがまだここに来ていない、つまり、まだ洗脳されているってことだ。それなのにまだタブーに洗脳されているってことは……」

ピチュー「……ってことは?」

ドクターマリオ「タブーは生きている。」

全員「!!!?!」

ファルコ「ここまで長かったが、やっと終わりだな……。あゝあゝ、疲れた……。」

ゲーム終了まで残り3分。

マリオ「あと3分切った〜!!」

ルイーダ「これは、行けるね!!」

逃走成功で288万円。

だが、ハンターに捕まれば、0

クツパ「む？あれは宝箱か？」

宝箱に興味がなかったクツパ。

Rランドの宝箱を発見。

クツパ「中身は……。」

クツパが取り出したのは、

クツパ「GPS……小さなモニターだな……。」

小型のGPS、これをハンターに付けるとモニターで位置が分かる。

クツパ「1つだけか……無いよりは良いが……。もうゲームが
終わるぞ……。」

ゲーム終了まで残り2分を切った。

マルス「行ける、行けるぞ！！これ！！」

プリン「逃走成功なんて夢みたい……。」「

~~~~~

アイク「あった・・・あったぞ・・・。」

アイクが見つけた物。

それは、

ゲーム終了まで00:01:30

タイマー。

アイク「間に合いましたよ、タブー様。」

しばらくタイマーを見つめるアイク。

ゲーム終了まで00:01:10

アイク「さて、実行と行きますか・・・。」

アイクは、タイマーに手をかけた。

ガシャンという音が周りに響く。

ゲーム終了まで00:01:03

ゲーム終了まで00:01:02

ゲーム終了まで00:01:01

ゲーム終了まで00:01:00

ゲーム終了まで00:01:01

ゲーム終了まで00:01:02

ゲーム終了まで00:01:03

アイク「成功・・・。」

アイクは、笑いながらタイマーを持ち何処かへ去って行った・・・。

~~~~~

ルイーダ「あと1分・・・あれ!?時間が増えてる!?!」

マリオ「マ、マジか!?!・・・あれ、でも賞金は300円ずつ増えてるぞ!?!」

牢獄

子供リンク「あれ!?時間が増えてるよ!?!」

ドクターマリオ「やはり・・・終わりじゃなかったか。」

残りゲーム時間2分。

残り10人。

現在、1分追加・・・。

茨の道（後書き）

クライマックスは、これからだ・・・。

M I S S I O N 1 0 (前書き)

10個目のミッションです。

ついに、2ヶタか・・・。

MISSION 10

ファルコ「はあ！？このタイマー時間が増えてるぞ！！壊れてるのか！？」

時間が増えることに戸惑うファルコ。

ファルコ「どうなってんだ？」

ピリリリー

ファルコ「多分、このことに対してのメールだな。ミッション10・・・。」

トウインリンク「アイクにより賞金がファイバータイムに突入し、代わりに時間が逆戻りしている。』アイク・・・。何だよ、ファイバータイムって・・・。」

ルカリオ「『現在、時間が1秒ごとに200円ずつ増える賞金が1秒300円ずつ上昇している。』あつ、本当だ・・・。」

スネーク「『阻止するには、タイマーを持っている洗脳されているアイクを捕まえてタイマーを取り返さなければならぬ。』」

プリン「『洗脳を解くには、洗脳治す』が必要だ。』」

クツパ「アイクめ・・・厄介なことを・・・。」

MISSION 10

ファイバータイムを終わらせろ！！

現在、1秒ごとに200円ずつ増える賞金が1秒間に300円ずつ上昇している。

だが、その代わりに時間が1秒ごとに増えている。

このままではゲームは永遠に終わらない。

阻止するには、Rランド北部の『ニラレバビル』の狭い道にある秘密の店で『洗脳治す』を購入し、洗脳を解き、タイマーを取り戻さなければならない。

但し、ミッションクリアした瞬間に賞金は、1秒200円上昇に戻る。

牢獄

ソニック「まさか、『洗脳治す』って・・・これか？」

ポケットから『洗脳治す』を取り出すソニック。

ミュウツー「な、何故、持っているんだ!？」

ロボット「私カラ貰ッタ物デスネ……。」

以前、AYB48の洗脳を解くために使った『洗脳治す』

洗脳を解こうとしたロボットが向かっていったが途中でソニックに会ったのだ。

そこで、残り時間の関係で足が速いソニックが向かい、AYB48の最後の8人の洗脳を解いたのだ。

だが、『洗脳治す』は、10個セットになっているので2つ余っていたのだ。

フォックス「お前が捕まっていなければなあ……。」

ソニック「うーん……厳しいミッションになりそうだ……。」

足が速いソニックが捕まりアイクを捕まるのは困難になりそうだ。

ロイ「残っている逃走者で1番足が速いのはマルスだな、大丈夫かなあ……。」

ドンキーコング「けど、クッパやスネークとかは、そんなに足が速く無いからなあ……。アイクを捕まえることは難しいぞ……。」

マリオ「あっ、ラッキーじゃん。賞金増えてるってことは自首すれ

ば良いな。」

ルイーダ「兄さん、自首出来ないよ……。」

マリオ「!?しまった……。」

プリン「アイク、何処にいるの？建物の中？それとも……。」

辺りを見回すプリン。

建物の中も進入可能となったので探すのが困難になってしまった。

エリアには、6体のハンター。

だが、動けばハンターに見つかるリスクも伴う。

残りゲーム時間3分。

残り10人。

現在、2分追加。

ミッションクリアとなるのか!?

残り逃走者

マリオ、ルイーダ、クッパ、ゼルダ、トウーリンク、スネーク、
マルス、ファルコ、ルカリオ、プリン

MISSION10 (後書き)

アイクを追う逃走者、そして、逃走者を追うハンター・・・。

MISSION 10 PART 2 (前書き)

ようやく更新・・・。

MISSION 10 PART 2

クツパ「逃げ切れるかと思ったんだが……。」

賞金と時間が増えていく時計を見るクツパ。

クツパ「まあ、金が増えることは良いことだな。」

ルカリオ「多分、皆、秘密の店、知らないよな……一斉メールしよう。」

残る逃走者に秘密の店の場所を知らせるルカリオ。

ピリリー

スネーク「あつ、ルカリオから……秘密の店……か、Rランド北部の『ニラレバくビル』の狭い道にあるのか……。あつ、自首用コインがいるのか……。ぬっ……。」

ハンター「……。」

スネーク「あつ、ハンターいるな……。」

建物に進入可能となってもハンターの恐怖は終わらない……。

スネーク「俺はもうコインは持ってない……。少し休憩するか……。」

自首をすることが出来なくなったため、『洗脳治す』を買うための自首用コインを持っている者はミッションに参加出来る。

現在、コインを持っている逃走者はマリオ、ルイージ、クッパ、ゼルド、トウーンリンク、ファルコ、プリンの7人。

トウーンリンク「ミッション？勘弁してよ、さっきの亜空軍との戦いでクタクタなんだから……。」

亜空軍との戦いで体力を使い果たしたトウーン。

ミッションへは、向かわない……。

プリン「さっきの移動で疲れた……ミッション、行かない……もうヘトヘト……。」

4時間以上の逃走に限界に近いプリン。

隠れたまま動かない……。

ファルコ「完全なデメリットのミッションじゃないからな、今は、体力温存しとくぜ……。賞金も増えてるし良いだろ？」

こちらも、体力を消耗しているファルコ。

動きたくないようだ。

マリオ「ミッション行く？」

ルイーダ「もう体力的にも精神的にも疲れたよ。行かない……。」

マリオ「だよな……死にそうになったんだからな……。」

ゼルダ「1人の自首用コインで10個の『洗脳治す』が購入出来るってことは、10人全員に配れるって訳ね。でも、アイク……足、速いのよねえ……せめて、アイクの場所さえ分かればねえ……。」

そう言いながら動かない姫。

ゼルダ「ミッションは遠慮しとく……。」

マルス「アイク……いくら裏切り者だったとしても……助けよう。でも、自首用コインは無いからなあ……見つけることくらいは……。」

クッパ「そういえば、マリオ達、ミッションをさっきやったんだよな……？ガハハ！！マリオブラザーズには、負けられないからな

「！！特別に我輩が自ら行ってやるぞ！！」

ミッションに向かうのは、この2人のようだ。

~~~~~

タブー「クク・・・作戦成功だ・・・。アイクよくやったぞ・・・。

」

タイマーを盗んだアイクを見ながら笑うタブー。

タブー「やはり、先程の戦いや移動でほとんどのスマブラメンバーは疲れているようだな・・・。金が増えるというメリットを残しておいて良かったぜ。人間達には、欲望が永遠にあるからな。さて、俺は・・・と。」

~~~~~

残りゲーム時間6分。

残り10人。

現在、5分追加。

MISSION 10 PART 2 (後書き)

更新が出来るのは、ゴールデンウィークまでか・・・？

いやいや、そんな訳は・・・。

MISSION 10 PART 3 (前書き)

時間が増えていく。。。。

MISSION 10 PART 3

牢獄

ファルコン「お前ら・・・こんな時に何やってんだ？」

ワリオ「泥団子を作ってる。」

リンク「ファルコンさんも作りますか？」

ファルコン「作らねえよ。」

先程の仲直りという訳でリンクとワリオは一緒に泥団子を作っていた。

ゼニガメの水とリザードンの岩砕きの岩で泥団子を作る2人。

ウルフ「お前ら幼稚園児か!!！」

ワリオ「うるせえ!!！」

ワリオは、泥団子を投げた。

ウルフ「どわっ!?!？」

顔面に直撃。

ウルフ「てめえら・・・。」

フォックス「お、おい、ウルフ、落ち着け。こんな所で喧嘩している場合じゃ……。」

デデデ「ワリオのニンニクの匂いよりはマシだぞい。」

ウルフ「……チツ、分かった、分かった。だけど、この泥、落としてくれ。」

トウーンリンク「うわゝ賞金が300万を超えた……。」

時間と共に増えていく賞金。

トウーンリンク「僕にもっと体力があればなあ……確実に رفتたのに……。」

マリオ「ルイージ、今頃こんなこと言うのもなんだが……。」

ルイージ「何？」

マリオ「お前を復活させて良かった。」

ルイージ「え……？」

マリオ「考えてみる、俺がルイーヂを復活してなかったら Donald も来ていない、さらには、俺やファルコ達もこの世に存在していないかもしれない。」

ルイーヂ「……。」

マリオ「俺は、ピーチ姫を復活させようとしてたんだが、多分、ピーチ姫は体力が無いからルイーヂのように俺達を助けてくれることは不可能に等しい。だから、お前を助けて良かったと思っている。」

ルイーヂ「……そんなこと無いよ。」

マリオ「な、何でだ？」

ルイーヂ「僕は、ただズルい方法で復活して Donald さんと偶然にここに来たんだ。」

マリオ「お、おい……そんなこと無いって……。」

ルイーヂ「臆病な僕は所詮、スマブラメンバーのお荷物。兄さん達に迷惑をかけたことには変わりないよ。それに、自分で自ら行動していたら兄さん達は、あんな目には遭わなかったんだ。」

マリオ「……。」

その時、パチンという音が響いた。

マリオがルイーヂの頬を叩いたのだ。

ルイーヂ「なっ……。」

マリオ「何、言ってるんだ。俺は、お前の良い所をたくさん知ってるぞ。お前はお荷物なんかじゃない。俺にとっては、かけがえの無いスマブラメンバーだ。」

ルイーダ「……兄さん……。」

マリオ「お前が自ら行ったかどうかは別としてお前があの時、勇気を出してくれたことは事実だろ？」

ルイーダ「う、うん……。」

マリオ「しっかり胸を張れって!!」

ルイーダ「わ、分かった。所で兄さん……。」

マリオ「今度は、何だ？」

ルイーダ「ミッションやるっ!!」

マリオ「……お前、強くなったな。行こうか!!」

ルイーダ「Let's go!!」

マリオとルイーダもミッションに参加。

クッパ「秘密の店……あれだ。」

距離が近いこともあったのか、クツパが秘密の店に到着。

クツパ「ここで『洗脳治す』を買えば良いんだな・・・ん!？」

クツパが驚くのも無理もない。

原型が分からない程、秘密の店は破壊されていた。

その傍らには、秘密の店の店員であるキノピコがボロボロの状態で倒れていた・・・。

残りゲーム時間9分。

残り10人。

現在、8分追加。

MISSION 10 PART 3 (後書き)

次回、ミッションの真の恐怖・・・。

MISSION 10 PART 4 (前書き)

逃走中シリーズを書き始めて1年ですね・・・。

MISSION 10 PART 4

ルカリオ「それしても、何故、アイクはタイマーを盗ったんだ……？」

アイクの行動に深刻に考えるルカリオ。

ルカリオ「俺達が憎いのか？それとも、何か別の理由が……。」

プリン「……。」

地面に座り込むプリン。

だが、プリンに近づくと

ハンター「……。」

ハンター。

プリン「……あっ!？」

ハンターに気付いたプリン。

ハンター「!!！」

だが、ハンターもプリンに気付く。

プリン「ヤバイ……。」

ピーーーーー

ポンッ

プリン確保、残り9人。

プリン「逃げる暇も無かったよ……。あゝあ。」

ピリリ

ファルコ「プリン、捕まったか。」

スネーク「けど、あいつは結構逃げた方だよなあ。」

クツパ「お、おい大丈夫か!？」

倒れているキノピコに声をかけるクツパ。

クツパ「見た感じ、店の商品も全部無いな……。どうすれば良いんだ?」

困惑するクツパの所にマルスも到着。

マルス「!?どうしたんですか!?これ!?まさか、クツパさん・
」

クツパ「我輩じゃないぞ……。どうやら何者かに破壊されたらしい……。商品も全部、盗られたらしい。店員のこいつが起きてくれれば良いんだがなあ……。」

すると、うう……。という声を出しながらキノピコが目を覚ます。

キノピコ「あつ、クツパにマルスさん……。どうしたんですか?」

クツパ「おおつ、無事だったか!?一体、この店はどうしてこんなことに……。」

キノピコ「あ……。そうでした。私は、殴られて気絶してたんですね……。」

マルス「な、何があつたんですか?」

キノピコ「実は……。」

数十分前

キノピコ「今日の売り上げは、どれくらいかな……。ん!?何だろ……。あれ……。」

バズーカプリム1「あのピエロには勝てねえ!!どうすれば良いん

だ……。」

バズーカプリム2「逃げながら言うことじゃ無いよな……。」

バズーカプリム1「でもこれじゃあ、タブー様に怒られるぞ……
どうすれば良いんだ。」

バズーカプリム2「うん……金目の物でも盗めば喜んでくれる
はずだ。」

バズーカプリム1「じゃあ、あの店にしよう!!あの場所なら目立
つことは無いからな!!」

バズーカプリム2「よし、1つ残らず盗もつぜ!!」

そう言い、秘密の店に突撃して行き……。

キノピコ「うわぁ〜!?!何ですか〜!?!」

バズーカプリム1「喰らえ〜!!」

そこまで話すとキノピコは一息ついた。

クッパ「やはり、亜空軍だったか……。」

マルス「でも、これじゃあ、『洗脳治す』が買えませんね……。

」

キノピコ「『洗脳治す』を買いに来たんですか……確かに、品物は1つ残らず盗られました……。ですが」

2人「ですが？」

キノピコ「少し手間はかかりますが……入手方法は、あります。」

クツパ「何っ!？」

マルス「それは、何ですか!？」

キノピコ「それはですね……。」

残りゲーム時間12分。

残り9人。

現在、11分追加。

MISSION 10 PART 4 (後書き)

次回、意外な入手方法・・・。

MISSION 10 PART 5 (前書き)

キノピコの知ってる入手方法とは・・・。

MISSION 10 PART 5

キノピコ「げきとつこうじょう激突工場に行ってください。」

クツパ「激突工場？」

キノピコ「実は、『洗脳治す』を作っている激突工場がこの国にあるんです。ここから少し離れていますけど……。」

マルス「そこに行けば貰えるんですか？」

キノピコ「はい、けど、明日になったらまた入荷されますから……。」

マルス「そこまで待てません……。その工場場所を教えてください。」

キノピコ「分かりました、工場への地図をあげます。」

工場の地図を渡される2人。

クツパ「お前の地図はあるのか？」

キノピコ「いっぱいコピーがあるんで大丈夫です。あと、この印鑑を……。」

キノピコは、店の中から印鑑を取り出し、2人の地図の端に印鑑を押した。

キノピコ「これで、私から頼まれたということが証明されます。あと、一応、お金を払ってください。1コインにつき10個分しか貰わないでくださいね。」

クツパ「そういう所はキッチリしてるんだな……。」

そう言い自首用コインを渡すクツパ。

クツパ「それにしても、この印鑑は変なマークだな……。それは、さておき、早速行こうか……。」

マルス「このことを皆のに知らせた方が良いですね。」

ピリリー

ルカリオ「ミッションクリアしたのか!? いや、マルスからのメールだ……。」

スネーク「『秘密の店が壊されていて洗脳治すが買えません。』何だと!?!?」

トウインリンク「『そのためには作っている激突工場に行かなければならないそうです。』激突?」

ファルコ「『さらに、キノピコの印鑑が無いと受け取ることが出来ないので気をつけてください。』おいおい……余計に面倒じゃねえか……。」

マリオ「張り切ってミッションに行ったのは良いけどよ……何で、ハンターいるんだ……」

ルイーダ「この道は狭いからすぐバレそうだね……」

ミッションに向かう2人はハンターを発見。

ルイーダ「あっち行け」

念を送るルイーダ。

トウリンク「体力も結構、回復したからね。行こう」

ファルコ「大変そうだが……行くか」

スネーク「結局、秘密の店に行かなければならないのか……。とりあえずアイクを探してみるか……」

ルカリオ「……これ以上賞金は要らないな。行こう」

ミッションに次々と動き出す逃走者達。

これで、ゼルダ以外の逃走者はミッションへ向かうことになった。

しかし、未だにアイクの姿を見た逃走者はいない。

24%・・・25%・・・

タブー「よし、良いぞ良いぞ・・・。アイク・・・もっと逃げ続けるんだぞ・・・。」

バズーカプリム1「タブー様、金目の物をたくさん盗んで来ましたよ!!!」

タブー「・・・何だこれ・・・。こんな物要らん!!!」

タブーは、『洗脳治す』などの商品を燃やした。

商品は全て灰になった。

バズーカプリム2「・・・。」

~~~~~

マルス「それにしても、激突工場って・・・。」

キノピコ「ああ、工場長さんの名前です。」

クツパ「激突さん・・・なのか・・・?」

残りゲーム時間15分。

残り9人。

現在、14分追加。

アイク「ただ、逃げているだけではつまらないな。・・・通報でもするか。」

MISSION 10 PART 5 (後書き)

次回、アイクが・・・。

MISSION 10 PART 6 (前書き)

再び悲劇が・・・。

MISSION 10 PART 6

ゼルダ「そういえば、もう残り9人しかないのよねえ……。」

自分が結構、長く残っているのを実感するゼルダ。

ゼルダ「ハンターは6体……。いた……。」

そつとハンターから離れるゼルダ。

ハンターは気付いてないようだ。

マリオ「秘密の店はこの辺……。うわっ!？」

クッパ「ぬっ!?!マリオか……。」

クッパ達と鉢合わせになったマリオブラザーズ。

ルイージ「秘密の店に行ったの?」

クッパ「そつだ、お前らも早く行け。」

ルイージ「秘密の店ってあのボロボロの店?」

マルス「……そうなんですよ。」

マルスは、詳しい事情を2人に話す。

その様子を見ていたのが、

アイク「見つけた」

アイクだ・・・。

アイク「4人もいるな・・・。一網打尽に出来るチャンス」

???「へえ・・・。」

大勢でいるとハンターに見つかる可能性も高まる。

それと同様にアイクにも見つかりやすいようだ。

アイクは携帯を取り出した。

アイク「マルス、クッパ、マリオ、ルイージ、Rランド北部『ニラレバ〜ビル』の狭い道にいます。」

ハンターに通報・・・。

近くにいたハンターが4人の確保に向かう!!

アイク「これでよし。ん?なんだ、このリンゴは?」

すると、段々、リンゴが点滅し始めた。

アイク「?」

マリオ「印鑑のマークなんだこりゃ……。」

ルイーダ「平仮名で、『きのぴこ』って……。」

そして、マリオとルイーダもキノピコに地図と印鑑を貰うことに成功。

マリオ「あいつ、あんな所で働いていたんだな……。」

マルス「さあ、行きましょう。」

クッパ「……って、ハンター来たぞ!!」

ルイーダ「嘘お!?!」

バラバラに逃げる4人。

慌てたため、誰も爆発音など耳に聞こえなかった。

ハンターが視界に捉えたのは……

マルス「こつちに来たか……。」

ハンターから最も近い距離にいたマルス……。

マリオ「あれ・・・ハンター来ないぞ。」

クッパ「もう体力の限界だ・・・。」

ルイーザ「兄さん達と、はぐれちゃった・・・。」

3人もバラバラに・・・。

だが、マルスの逃げる先に

ドナルド「ヘッハッハッハッハ」

マルスは、ドナルドを無視して逃げる。

ドナルド「やあ、黒い人!!お話ししようよ。」

ハンターの目の前に立つドナルド。

ハンターは、ドナルドを避け再びマルスを追う。

ハンター「・・・?」

ドナルド「お話ししようよ。」

だが、見失ったようだ・・・。

マルス「無敵サングラスを使わずに逃げれた・・・。」

残りゲーム時間18分。

残り9人。

現在、17分追加。

アイク「危ねえ・・・死ぬ所だった・・・何があったんだ・・・？」

MISSION 10 PART 6 (後書き)

次回、ミッションが大きく前進!?

MISSION 10 PART 7 (前書き)

クツパ、大活躍!!

MISSION 10 PART 7

走り続けるアイク。

アイク「ここまで来ればもうピエロは来ないだろう……。」

その近くに

クツパ「ぬ？あれはアイクか？」

大魔王クツパだ……。

クツパ「捕まえておくか……。おい、アイク!!」

アイク「げっ……クツパ!!」

アイクを追うクツパ。

だが、足の速いアイク、距離は、どんどん離れて行く。

クツパ「くそ……このままでは何もしまま終わってしまう……  
・そうだ!!」

クツパは、先程手に入れたGPSを取り出した。

ハンターに付けるとモニターで位置が分かるGPS

クツパ「ハンター専用だが、ハンター以外にも使えるはずだ!!」

頭を使うクツパ。

アイクにGPSを付けて位置情報を得る作戦へと変更したようだ。

クツパ「うりゃー!」

パワーのあるクツパ。

剛速球のようにアイクに向かうGPS

見事、アイクのマントに付いた。

アイクは後ろを向いているため気付いていないようだ。

クツパ「・・・よし、これで・・・。」

モニターでアイクの場所を確認するクツパ。

クツパ「後は、『洗脳治す』か・・・。」

今度は、激突工場に向かうクツパ。

クツパ「おっと、その前にアイクの場所を全員に知らせておくか。」

ピリリー

スネーク「誰か捕まったのか？ぬっ、クツパからか・・・。」

マリオ「『ガハハ！！げんきにしてるか！？クツパだ！！』何だこのメール……。」

ルカリオ「『ワガハイがジーピーエスをなげてアイクにつけてやった』どこからそんなものが……。」

ファルコ「『アイクは、ジールランドのみなみにいるぞ！！がんばってつかまえてくれ！！』漢字で書けよ……。南くらい頼むから漢字で書いてくれ。」

ゼルダ「メールの内容は腹立つけどこれでアイクの場所が分かったという訳ね。」

クツパの作戦に気付かないアイク。

アイク「やつぱりだな……。鈍足な亀め。」

????「へえ……。。」

アイク「なっ！？ピエ……。」

アイクの首を掴むドンルド。

ドンルド「ドンルドはバトルが大好きなんだ 逝くよ！！」

アイク「ああ……。もうやめ……。」

ドナルド「ランランルー!!」

クッパ「あれ・・・?あいつ・・・GランドからOランドに移動してやがる・・・足が速いな・・・。とりあえず、メール、メール。」

ピリリー

マルス「クッパさんから・・・メール・・・Oランド西部に移動した!?!」

トウーンリンク「ワープでも使ったの・・・?」

マリオ「クッパからメール多いな・・・おっ、あれだ!!激突工場!?!」

クッパよりもルイーダよりも先に工場に到着したマリオ。

マリオ「従業員がいるはずだ・・・あっ、いたいた・・・ってハンターかよ。」

慌てて来た道を引き返すマリオ。

マリオ「・・・ったく、ハンター減らしてくれ。」

残りゲーム時間21分。

残り9人。

現在、20分追加。

マスター「ドナルド、アイク見なかったか？」

クレイジー「この辺で俺は見たんだけどなあ……。」

ドナルド「うん、こんなに人がいるんだから探すのは困難だよ。」

マスター「そうだよなあ……。」

クレイジー「どうすれば良いんだ……。」

MISSION 10 PART 7 (後書き)

工場に着いたマリオ。

だが、そこにも思わぬ真実が・・・。

MISSION 10 PART 8 (前書き)

更新ペース大丈夫かなあ・・・。

## MISSION 10 PART 8

アイク「あのピエロ・・・なんて威力だ・・・。あんなに飛ばされ  
るとは・・・。」

ドナルドの威力に驚くアイク。

幸いにもGPSはマントに付いたままだ。

アイク「それにしても・・・抜けない。」

再びゴミ箱にホールインワン・・・。

ハンター「・・・。」

マリオ「よし、工場から出て行ったな。」

ハンターを見送ったマリオ。

従業員に声を掛ける。

マリオ「あのお、すみません。」

従業員A「何すか？スカウトは禁止っスよ。」

従業員B「いやいやこんなボロ工場にスカウトなんか来ないし！あ

「あ、掃除とかマジだるいんですけど。」

従業員A「給料、減らされるぞ。」

従業員B「はあく!?意味分からんし〜!」

マリオ「・・・あの〜・・・。」

従業員A「あつ、忘れてた。何ですか?」

マリオ「『洗脳治す』をキノピコから頼まれたんだけど・・・。」

従業員A「ハンコありますか?あつ、ありますね・・・。ちょっと待ってください・・・。」

洗脳治すを探す従業員。

従業員B「掃除だる〜。」

従業員A「お前、黙って掃除してろ。えーと・・・。」

マリオ(遅いな・・・早くしてくれ。)

クツパ「あつ、漢字変換出来た・・・。」

携帯をいじりながらそう呟くクツパ。

クツパ「こつやって漢字に変換するんだな、最近の技術は凄いな。」

だが、クツパに近づく黒い影……。

ハンター「!!」

見つかった……。

クツパ「のあああ!？」

逃げるクツパ、その先に

スネーク「な、なんだ!？ハンター連れて来てるじゃないか!？」

スネークも巻き添えだ。

クツパ「このままでは捕まる……そうすれば、このモニターも無駄に……スネーク、このモニターを受け取れ。」

スネーク「な、何だこりゃ!？」

クツパが投げた小型モニターをキャッチするスネーク。

スネーク「……アイクの居場所の奴か。」

クツパ「後は、頼んだぞ!!」

クツパは、ハンターを自分の方におびき寄せせる。

ポンッ

クツパ確保、残り8人。

クツパ「捕まったか……。まあ、我輩にしては、上出来だな。」

ピリリー

スネーク「『確保情報、クツパ確保か。残り8人になっちまったか……。』」

機械には、強いスネーク。

モニターの使い方などは慣れているようだ。

ファルコ「何い！？クツパ確保！？じゃあ、アイクの居場所、もう分からねえのか！？」

モニターは、スネークが持っているため居場所は分かる。

ファルコ達は、このことを知らない。

トゥーンリンク「この辺のはずなんだけどなあ……。』」

アイクがいるはずの場所に到着したトゥーンリンク。

トウーンリンク「何処にいるのかなぁ……。」

思うように見つからないようだ。

従業員A「え〜と……。」

マリオ「あつ、ルイーダ。」

ルイーダ「あつ、兄さん『洗脳治す』は見つかった?」

マリオ「まだだ。」

近くにいたルイーダがマリオと合流。

従業員A「ああ……どこにあるか分かんないっす。」

従業員B「ウチらまだここに1週間しか来てないから分かんないんだよねえ。」

マリオ「どうするんだよ……。」

ルイーダ「工場長とかに電話して聞けばどうかな?」

従業員A「ナイスアイデア!!」

携帯で工場長に電話をかける従業員。

マリオ「早く気付いて欲しかった・・・。」

残りゲーム時間23分。

残り8人。

現在、22分追加。

MISSION 10 PART 8 (後書き)

残る逃走者はついに8人に・・・。

MISSION 10 PART 9 (前書き)

更新、更新・・・。

逃走中同盟のリーダーなんだからしつかりしなくちゃ・・・。

## MISSION 10 PART 9

牢獄

ドンキーコング「クツパ確保かぁ……。」

ファルコン「8人……これで、準々決勝だな!!」

オリマー「また、その例えですか……?」

ヨッシー「アイクは何処にいるんでしょうね?」

カービィ「やつぱりお肉屋さんに……。」

リザードン「見つからないということは何処かに隠れているのか?」

ピカチュウ「まさか、GERO国にいないんじゃない……。」

従業員A「ハイ、分かりました。ハイ。」

電話を切る従業員。

マリオ「どうだった?」

従業員A「どうやら今日の生産は終了して『洗脳治す』は倉庫にあるそうですね。」

ルイーザ「じゃあ、倉庫に行こう。」

従業員A「こっちです。」

従業員B「行ってらっしゃい。」

従業員A「お前、行かないのか!？」

従業員B「うん。」

こうして、マリオ達は倉庫に向かう。

トゥーンリンク「アイク……何処だ……?」

アイクを探すトゥーン。

そのトゥーンの向かう先に

アイク「あゝ抜けんな……。」

アイクだ……。

アイク「ん?誰か来た!？」

ゴミ箱に隠れるアイク。

トウーンリンク「どこかなあ……。」

そう言いながらゴミ箱の前を通り過ぎるトウーン。

アイクに気付いていないようだ。

アイク「危ない……。」

マスター「アイクは俺達が上空から探すか。」

クレイジー「面倒だが、それが一番、無難な手段だな。」

ドナルド「ドナルドは、始めからそれを思ってたんだ。」

クレイジー「嘘つけ!!！」

マスター「ハハハ……まあ、行って来る……ぜ？」

クレイジー「あ……あれ？」

ドナルド「どうしたの？早く行ってよ。」

マスター「身体が動かない……。」

クレイジー「俺もだ……。」

ドナルド「ドナルドは身体が動くよ。ほらね」

ダンスをするドナルド。

????「させないぞ……。」

マスター「その声は……。」

クレイジー「タブーか!?!」

タブー「その通り……。マスター、クレイジー、お前らの好きなようにはさせない……。」

ドナルド「アラーツ!?!」

マスター「また光の鎖で操られてしまうとは……。」

タブーは、光の鎖でマスターとクレイジーの身動きを封じていた。

その姿は、まるでタブーに大きな両手が出来たような姿となっている。

タブー「これで、こいつらは俺の自由自在に操ることが出来る……。」

ドナルド「2人を解放したら?解放しなかったらドナルドマジックで消すよ?」

タブー「無駄さ。俺はこの手袋達を盾にするからな……ハハハハ!?!」

ドナルド「な、何い……。」

タブー「ここで恨みがあるお前を操っても良かったのだが、お前だけは俺自身で消したかったからな。お前は残したんだ。ありがたく思えよ。」

ドナルド「……。」

タブー「さて、ここでお前を倒したい所だが……まだ俺の最終計画が整ってない。だから、お楽しみはまた今度だな。それじゃ。」

。そう言うとタブーはマスターとクレイジーと共に消えていった……。

ドナルド「……嫌な予感がする……。」

マイペースなドナルドが危機感を持つ状況。

他人事では無い……。

従業員A「ここが倉庫です。……あれ？」

マリオ「どうかしたのか？早くしてくれよ。」

従業員A「あちゃ……パスワードがいるみたいです。」

マリオ・ルイージ「ええ〜!?!」

従業員A「自分、新入りなんで・・・まだパスワードを教えてください。ああ・・・どうすれば・・・。」

ルイージ「電話して聞けば?」

従業員A「ナイスアイデア!!」

携帯を取り出す従業員。

マリオ「あゝあ、コイツのせいで何分無駄にしてるんだ・・・。」

残りゲーム時間25分。

残り8人。

現在、24分追加。

MISSION 10 PART 9 (後書き)

洗脳治す獲得となるのか・・・。

MISSION10 PART10 (前書き)

近くて遠い……この言葉は、日常で色々な場面に当てはまるのでしょ  
うね。

## MISSION 10 PART 10

電話をかける従業員。

従業員 A 「あつ、激突さん？パスワードなんですけど・・・え？近くにいる？」

ルイージ 「激突さんって、人の名前だったの・・・？」

マリオ 「・・・ということは、工場長との電話か・・・？」

???? 「おい!!！」

3人 「!？」

従業員 A 「げ、激突さん・・・。」

激突 「パスワードはこの間、教えてたろう!? 忘れたのか？」

従業員 A 「す、すみません・・・ 忘れました・・・。」

激突 「倉庫のパスワードは、『0000』だ!! しっかり覚えておくんだぞ!!！」

従業員 A 「わ、分かりました・・・。」

この国のセキュリティは甘いようだ。

従業員は、0を4回押すと倉庫の扉が開き素早くダンボールを持って来た。

ガムテープを剥がすと中には大量の『洗脳治す』が入っていた。

従業員A「ど、どうぞ……。」

マリオ、ルイージ、洗脳治すを獲得。

マリオ「よし、これで手に入れたぞ!!」

ルイージ「10個セットなんだね……。」

2人は、そう言いながら工場へ出て行った。

ルイージ「それにしても、0000……。」

スネーク「この辺のはずなんだが……。」

GPSを頼りにアイクを探すスネーク。

トゥーンリンク「あっ、スネークさん。」

スネーク「おっ、トゥーンか。アイク、見なかったか？」

トゥーンリンク「僕、さっき、あっちの方を見てきたんですけど……。」

スネーク「いなかったのか？」

トウーンリンク「ええ、いませんでしたよ。」

スネーク「おかしいな、モニターだとあっちにいるんだが……。もう1度、探してみるか……。」

アイクに、トウーンとスネークが近づく。

アイク「げっ、こっちに来た……。」

円柱型のゴミ箱から抜け出せないアイク。

バレないように少しずつゴミ箱ごと移動する。

だが、移動する際にガタン、ガタンという音が聞こえてしまい、

スネーク「あっ……いたぞ……！」

トウーンリンク「アイク、発見……！」

アイク「クソ……見つかった……！」

ゴミ箱ごと移動するアイク、しかし、そのスピードは明らかに遅い。

スネーク「もう観念しろ……！」

トウーンリンク「タイマーを返すんだ!!」

アイク「くっ……タブー様のためにも……ん？」

アイクの向かう先には、下り坂があった。

アイク「やった!!これならスピードを……うわっ!!」

トウーンリンク「あれっ!?!アイクが消えた……？」

スネーク「どういうことだ!?!」

目の前でゴミ箱ごとアイクが消えたことに驚きを隠せない2人。

視線を下に向けると壁の近くでアイクが倒れている。

その周辺にはゴミ箱の欠片とゴミが散乱している。

どうやら、下り坂を勢いよく転がりながら壁に激突した衝撃でゴミ箱が壊れてしまったらしい。

ゴミ箱が壊れたため、アイクはゴミ箱からの脱出に成功。

しかし、

アイク「目が回る……。」

転がり続けていたせいか上手く動けない。

トウーンリンク「よし、チャンスだ!!」

スネーク「いや、待て!!」

トウーリンク「え、なんで？大チャンスだよ!？」

スネークは、黙ってアイクの方を指指す。

そこにはハンターの姿。

トウーリンク「成る程……」

2人は、ハンターとの距離を取るためアイクから離れた。

残りゲーム時間27分。

残り8人。

現在、26分追加。

MISSION 10 PART 10 (後書き)

ゴミ箱から脱出したアイク。

次回、アイクの逆襲が再び・・・。

MISSION 10 PART 11 (前書き)

時間と企み・・・。

MISSION 10 PART 11

ファルコ「こついう時だけは、より長く時間を感じるな……あゝ……苛々する……。」

苛立ちを隠せないファルコ。

ファルコ「畜生……どこにいるんだ？」

ゼルダ「早くやってくれないかしら？」

30分以上、全く動いてないゼルダ。

ゼルダ「……まだ終わらないの？」

ミッションクリアを願うのみ……。

ゼルダ「遅いなあ……やっぱり、男はダメですね……。」

ルカリオ「とりあえず……アイクを見つけることが1番だな。」

アイクを探し続ける波動の勇者。

クッパのメールを頼りに動く。

~~~~~

亜空間

タブー「クククク・・・。」

80%・・・81%・・・

笑うタブー。

タブー「あれ？綾鼈甲、ヘリが海に落ちて助かってる・・・。生きてるな。まあ、あいつはもう要らないしな。強制脱退させるか。」

別のモニターを見るタブー。

マスター「おい、いい加減にしたらどうだ？」

クレイジー「離せや！！！」

タブー「おっと、まだ俺の最終計画が完了してないだろ？気長に待て。」

マスター「何を企んでいるんだ！？」

クレイジー「そうだ、そうだ！！教えろや！！！」

タブー「良いだろう、教えてやる。どうせ、この計画は止められないのだから……。」

~~~~~

スネーク「ハンター、向こうに行ったか？」

トゥーンリンク「うん……多分ね。」

ハンターがいないことを願うトゥーンとスネーク。

一瞬の油断も禁物だ……。

マリオ「……。」

ルイーダ「……。」

トゥーンとスネークが見つけたハンターをマリオ達が発見。

マリオ「……ついてない」

ルイーダ「それ、言っちゃ駄目。」

忍耐も重要な行動だ……。

逃走中には、知恵や体力がフルに利用しなければならぬ。

スネーク「お、マリオだ。」

マリオに気付いたスネーク。

スネーク「マリオ、アイクを見なかったか？」

マリオ「あつ、スネーク。それが、まだ見てないんだよ……今、来たからな。」

ルイーダ「トゥーンとスネークにも『洗脳治す』をあげるよ。」

トゥーンリンク「あつ、ゲットしたんだ。」

スネーク、トゥーン、『洗脳治す』を獲得。

これで、洗脳治すを持つている逃走者は4人となった。

その4人の近くに

アイク「……うわ、4人もいるよ……。」

アイクだ……。

アイク「通報するしか手は無いなあ……。」

携帯を取り出し

アイク「スネーク、トゥーンリンク、マリオ、ルイーダ、オランダ

西部のT字路にいます。」

通報……。

ハンターが4人の確保へと向かう!!

スネーク「ん？アイク、発見!!」

ルイージ「今、通報したよね!？」

マリオ「追え〜!!」

アイク「ヤベツ!？バレた!!」

4 V S 1で追いかける。

だが、ハンターも4人に接近。

果たして4人の運命は!？

残りゲーム時間30分。

残り8人。

現在、29分追加。

MISSION 10 PART 11 (後書き)

4人の運命は・・・そして、アイクとの戦いは!?

MISSION 10 PART 12 (前書き)

テストがようやく終了。

結果は、ともあれ更新復活です。

MISSION 10 PART 12

アイク「捕まってたまるか……。」

4人に見つかったアイク。

スネーク「もう逃がさんぞ!!」

アイク「しつこいな……。」

4人とアイクの距離は中々縮まらない。

だが、そのアイクの逃げる先に

マルス「ん?何か騒がしいな……。」

マルスだ……。

アイク「うわああ!?!」

立ち止まるアイク、その声に驚いたのか追っていた4人も慌てて止まる。

マルス「あつ、アイク!!」

マリオ「おつ、マルス、ナイスだ!!」

アイク、挟まれた……。

アイク「チツ……。」

スネーク「確保だ!!」

スネークが1歩踏み出したその瞬間

ハンター「!!」

見つかった……。

4人の後ろからハンターが迫る!!

マルス「ハンター、来ました!!」

ハンターに気付いたマルスが4人に伝達。

マリオ「何い!?!」

ルイーダ「ヒエエエエ!!」

4人はアイクを無視してハンターから逃げる。

ついでに、こちらへ逃げて来るスネークからマルスは『洗脳治す』を貰う。

アイク「ざまあ見る」

そう言い逃げ出すアイク。

ハンターは、5人に刻一刻と迫る!!

マルス「アイク、逃がしませんよ。」

トウリンリンク「マルス、早く逃げるよ!」

ハンターが目の前に来た瞬間にマルスは持っていた無敵サングラスを装着する。

ハンター「……。」

ハンターは、マルスの目の前で止まる。

その瞬間にマルスはアイクの方へ走り出す。

アイク「何っ!? そんなバカな!」

余裕の表情だったアイクが苦痛の表情に変わる。

だが、素早いマルスに体力が無いアイクは勝ち目は無く

アイク「グアッ!」

アイクを確保

マルスは、『洗脳治す』を使い洗脳を解く。

さらに、タイマーも奪い返した。

マルス「うわっ……残り時間が30分超えてる……。」

マルスは、タイマーのスイッチを押す。

ガチャンという音がすると、

ゲーム終了まで00:30:58

ゲーム終了まで00:30:59

ゲーム終了まで00:31:00

ゲーム終了まで00:30:59

ゲーム終了まで00:30:58

マルス「やった、時間が戻った……ついに、やったぞ……。」

ミッションクリア

マルス「結構、時間も賞金も増えたなあ……。」

ルイージ「あっ、時間が戻ってるよ!!」

スネーク「おっ、……てことは、マルスか!？」

ピリリー

トウインリンク「マルスが捕まえたの? 本当だ、『マルスの活躍によりアイクを確保、フィーバータイムは終了した。』」

「ファルコ」『これにて、逃げ切った時の賞金は370万円となる。随分、増えたな……。』

マリオ「俺は、ルイージを助けた分もあるからこれの1.5倍か……。相当な賞金だな……。』

ルイージ「良いなあ……。兄さん。』

マリオは逃げ切ると555万円を獲得出来る。

マルス「アイク……。気がついたか?」

アイク「ん!?……。マルス……。ってここは?」

マルス「GERO国だけど……。』

アイク「俺、何かしてたか?」

マルスは、今までのことを手短かに伝えた。

アイク「嘘だろ……。?俺が、亜空軍に……。?」

信じられないという表情のアイク。

マルス「と、とりあえず、終わったことは仕方ないから……。とりあえず牢獄に……。』

アイク「嫌だ。」

マルス「な、なんで？」

アイク「俺がやったことはスマブラメンバーが行う行為では無い。責任を持って俺はスマブラメンバーを脱退する。」

マルス「・・・え？」

残りゲーム時間29分。

残り8人。

MISSION 10 PART 12 (後書き)

アイクの洗脳は解けた。

しかし、次回、悲劇が再び・・・。

届かない想い（前書き）

重なる悲劇・・・。

## 届かない想い

マルス「ちょっと待ってよ！！脱退するなんて……。」

アイク「もう俺は取り返しのつかないことをしてしまったんだ。今、他のメンバーから見ても俺のイメージは最悪。俺なんて……いい方が良いんだ。」

マルス「そんなこと無いのに……。」

アイク「邪魔したようだな、じゃ、俺はこの辺で、あばよ。」

アイクはそう言うと走って行ってしまった。

マルス「ま、待って……。」

追おうとしたがハンターの後ろ姿を見て追うのを止めたマルス。

マルス「アイク……。」

この時ばかりはハンターを睨むマルス。

そっとハンターに背を向きハンターから離れて行った。

牢獄

ピット「うわぁ・・・ケースの中に入っている賞金が一気に増えたね・・・。」

ゼニガメ「あの金額を手に入れる人がいるってことでしょ？良いなあ・・・。」

ワリオ「少し貰えねえかな・・・。」

ウルフ「この距離からでもお札の分厚さが分かるな。」

リユカ「所で、アイク、まだかな？洗脳解けたし、そろそろ戻って来ても・・・。」

ガノンドロフ「帰りにくいだろうな。」

プリン「それにしてもピーチまだ寝てるね。」

クッパ「亜空軍が現れているっていつのにな・・・。」

~~~~~

97%・・・98%・・・

タブー「・・・という計画だ。」

クレイジー「何いい！！???貴様、それは、本気で言っているのか!?!?」

タブー「そうだが？」

マスター「貴様・・・そんなことさせるか!!!」

クレイジー「お前、命を何だと思っているんだ!!!」

タブー「アイク、脱退したか。最期くらい仲間と一緒にいるチャンスを作ったのにな。残念だ。まあ、こいつのお陰で最終計画が実行出来そうだな。」

マスター達の話を見無視してモニターを見ながらそう言うタブー。

クレイジー「絶対に許さん!!!」

光の鎖から抜け出そうとするマスターとクレイジーだが、無駄な抵抗に終わった。

・・・100%・・・complement

タブー「ハハハハハ!!!!!! ついに、ついに出来たぞ!!! 最終計画の準備が整った!!!!!! ハハハハハ!!!!!!」

マスター「何てことだ・・・。頼むから止めてくれ・・・。」

クレイジー「クソ・・・。」

悔しがるマスターとクレイジー。

そして、タブーの見つめるモニターには木星が映っていた・・・。

~~~~~

マリオ「結局、1時間も時間が増えたってことになるな……。」

ルイーダ「1時間かぁ……長いなあ。」

スネークとトウリンクと別れたマリオブラザーズ。

マリオ「洗脳を解いたのはマルスだが、ルイーダのお陰だな。ルイーダがミッションに行ってなかったら多分、もっと時間が増えてたと思う。」

ルイーダ「そ、そうかな……。」

マリオ「自信を持つんだ、ルイーダ。お前はやれば出来るってことが……あつ、ハンターいた。」

ルイーダ「このタイミングで!？」

2人が逃げ出した瞬間、

ハンター「!!！」

見つかってしまった!!!

ルイーダ「き、来たー!!」

マリオブラザーズ、再び逃げ切れるのか!?

残りゲーム時間27分。

残り8人。

届かない想い（後書き）

再び追われた2人の運命は・・・果たして・・・。

## 兄弟（前書き）

人生は何が起こるか分からない。

## 兄弟

幸いにも遠くからハンターに見つかったため、距離は十分あった。

その距離およそ、200m

スネーク「ん？あれ、マリオ達か？」

高みの見物のスネーク。

マリオ「よし、この距離なら振り切れるな！！」

余裕を持つマリオ

だが、曲がり角を曲がった時だった。

マリオ「なっ……。」

ルイージ「嘘……。」

一瞬にして表情が曇る2人

道の先に立ちはだかる壁、そう行き止まりだったのだ。

さらに、1本道だったため、別の道は無い。

ルイージ「ここまでか……。」

とりあえず、少しでもハンターとの距離を稼ぐため、2人は行き止まりの壁の目の前まで走る。

マリオ「これじゃあ、2人とも捕まる……ルイージ、俺がおとじ困こなるから逃げろ。」

ルイージ「ええ！？何を言ってるの！？兄さん！！」

ハンターは序々に近づいて来ている。

マリオ「2人が捕まるよりはマシだ。」

ルイージ「それなら、僕がおとじ困こなるよ！！兄さんは始めから逃げ切っているし、555万も……。」

マリオ「バカが！！お前はまだ、やり残していることがあるだろ！！」

ルイージ「そんな物無いよ！！さっきのことで十分活躍出来たから良いよ！！僕は、もう良い所なんて無いよ！！これ以上良い所なんて……。」

マリオ「俺が落ち込んでいる時、励ましてくれたのは誰だ！？俺が冒険に行ってる時、家事をしてくれたのは誰だ！？毎日、文句を言わずに料理を作ってくれたのは誰だ！？俺のたった1人の弟は誰だ！？さあ、誰だ？答えてみる、ルイージ！！」

ルイージ「……!!」

ハンターは曲がり角を曲がる。

マリオ「俺は金よりお前の方が何百倍も大事なんだよ!! さあ、逃げろルイージ!!」

ルイージ「……。」

ルイージは、コクリと頷いた。

マリオは、両手を広げ、ルイージを守りその際にルイージはハンターとの距離を伸ばした。

そして、マリオはハンターを引き連れた。

マリオ「絶対、逃げ切れよ……ルイージ。」

ポンッ

マリオ確保、残り7人。

マリオ「いくら金でも俺とルイージの絆は買えないな……。後は、頼んだぞ……。」

ルイージ「ハアハアハアハア……。」

ハンターとの追撃を免れたルイージ。

ピリリー

ルイージ「メールだ……。ああ……。兄さん確保……。」

その場に崩れ落ちるルイージ。

スネーク「何い！？マリオが捕まった！？さっき追われてたが捕まったのか……。」

トウインリンク「うわぁ……。マリオさん……。」

ルカリオ「これで、もう7人が……。」

~~~~~

タブー「さて、GERRO国に向かうぞ、スマブラメンバーの残酷な顔を見てあげなくては！！ハハハ！！」

マスター「……。」

クレイジー「クソオオオオオ！！放せえええ！！」

そういうと、タブー達はGERRO国へ移動した。

~~~~~

残りゲーム時間25分。

残り7人。

兄弟（後書き）

次回、タブーの真の目的が明らかに!!

## GERO国(前書き)

タブーの計画は単純だけど、恐ろしい・・・。

## GERO国

タブー「着いた、着いた……。」

GERO国に現れたタブーとマスター、クレイジー。

マスター「タブー、考え直せ、お前はさらに嫌われる立場となるぞ？」

タブー「はあ？元々嫌われてるぞ。」

クレイジー「くそつ、開き直りやがって……。」

タブー「さて、最終計画の実行だ……。」

タブーは大きく両手を広げた。

タブー「さあ、木星よ、来るが良い……。」

その声に反応し、木星は軌道を大きくずれて地球へ近づいていく。

タブー「これで、この星は終わりだ！！ヒヤハハハハ！！！！」

マスター「くそ……何とかならないのか……？」

~~~~~

?????」……!」

タブーを見つめる謎の男。

画面をスライドすると、GAME STOPの文字

どうやら、これ以上のゲーム続行は危険と判断したようだ。

GAME STOPを押す謎の男。

????「・・・?」

だが、押しても反応は無い。

何度も押すが反応は無し。

????「・・・!」

すると、1通のメールが受信された。

『邪魔はさせない、おとなしくしてな。タブー様より』

????「・・・。」

~~~~~

大臣「た、大変です!! 気象庁からの臨時報告です!!」

大統領「どうした? 台風でも来るのか?」

大臣「気象衛星の情報によりますと、木星がこの国に近づいている

模様です!!」

大統領「へ！？ガセネタだろ？」

大臣「違いますよ!!あの気象庁がふざける訳無いじゃないですか!!本当ですよ!!」

報告書を大統領に渡す大臣

大統領「何だと・・・？それに、予想進路図がこの国・・・？」

大臣「つ、つまり衝突地点と・・・。」

大統領「またGERO国に大量の犠牲者が・・・？そんなの絶対にダメだ!!すぐに、対応しろ!!」

大臣「ハ、ハイ、分かりました!!」

それは、まだGERO国が国では無かった頃、

GERO国、そして、隣りのUNKO共和国は、かつて植民地にされていた。

2つの国は、とある国の命令に逆らうと核爆弾を大量に落とされ、犠牲者も多数出ていた。

ついには、GERO国は爆心地(ground zero)

そして、農作物が盛んだったUNKO共和国は作物が採れなくなっ

てしまい詐欺（bunko）国と呼ばれるようになってしまった。

やがて、長くて辛い戦争は終了した。

戦争が終わった後も、人々は協力し必死に生き延びた。

苦労のかいもあり、ようやく独立国になる時、あの時、戦争に敗れた国からground zeroから国名を付けるという指令があった。

『また核爆弾を落とす』という脅しには逆らえない、こうして、GERO国と名前が決まり、GERO国の歴史が始まった。

UNKO共和国も名前は同様に付けられた。

月日が流れ、GERO国は、ground zeroの略ということは、もうあまり知られていない。

しかし、タブーの仕業で再びこの真実が流れ出そうとしている！！さらに、他の国で犠牲者が出てしまった場合、タブーではなくGERO国に恨みを持つことだろう……。

大統領「急ぐんだ！！1人の犠牲者も出してはならない！！」

大臣「でも、どうすれば、良いんですか……？」

大統領「うっ……確かに……そうだ！！この方法しか無い……  
。掛けよう。」

大臣「その方法とは何ですか？」

タブー「ハハハハハ〜！！！」

マスター「タブー、許さんぞおおおお！！！」

タブー「まあ、落ち着け、皆で死ぬるから安心だろ？」

クレイジー「誰も死にたくないぞ！！！」

タブー「いつかは、皆、死ぬ……。」

余裕で呟くタブー、すると、

『パラッパッパッパ』

タブー「グアアアアアア！！！」

タブーの羽根が突如、砕ける。

タブー「まさか……。」

ドナルド「ドナルドです！！！」

マスター・クレイジー「よく来てくれた！！！」

ドナルド「ドナルドは、このスケスケ裸野郎が大嫌いなんだ」

タブー「このピエロオオオオ!!!こしゃく小癩なあああ!!!」

残りゲーム時間25分。

残り7人。

GERO国(後書き)

次回、逃走中史上最凶最悪ミッションが発動!!

M I S S I O N 1 1 (前書き)

動き出す惑星・・・。

## MISSION 11

マルス「とにかく、アイクのことを皆に知らせないと……。」

片手でメールを打ち始めるマルス。

マルス「ん？何あれ……？」

遠くに見える水色の物体。

ピリリー

スネーク「マルスからか……」  
「アイクがスマブラメンバーを脱退した」  
「え？」

ルイーダ「な、何で？せつかく、皆の元へ帰れるのに……。」

戸惑いを隠せない……。

牢獄

レッド「ア、アイクが脱退!？」

ロイ「ええっ!？そ、そんなバカな……。」

サムス「絶対、タブーのせいね……。」

ナナ「タブー、許せない!!」

ソニック「Look!!」

ソニックが指を指す。

ソニック「あれ、タブーじゃないのか!?!」

思わず全員がタブーを見る。

マリオ「バカな!! 追い払ったはずだぞ!!」

ピカチュウ「あの両手、マスター達じゃないの!?!」

ポポ「ど、どうなってるの!?!」

ウォッチ「訳が分カリマセン・・・。」

アイク「ん・・・あれは・・・タブー!?!」

ピリリー

トゥーンリンク「また、メールが・・・うわ、ミッション11・・・」

。」「  
ルカリオ「『現在、タブーにより木星が軌道を大きく外し、地球に大接近中だ。』」

スネーク「『残り10分になると木星の重力により地球が滅ぶ。』」  
。・。・。」

ファルコ「。・。・。『阻止するには、現在、Rランドにいる大統領達に話を聞け。』」

マルス「『ミッション失敗すると、全員強制失格。』」

ルイージ「。・。・。これ、何かの間違いじゃないの?」

ゼルダ「神様は、私達に死ぬと言ってるのですか。・。・?」

MISSION 11

この星を守れ!!

現在、木星が地球に大接近中、このままでは残り10分になると木星の重力で地球が滅んでしまう。

阻止するには、Rランドにいる大統領達に阻止する手段を聞くしかない。

ゼルダ「勿論、行きますよ。」

トウーンリンク「行くしかないね……。」

スネーク「行くぞ!!！」

ファルコ「厄介なことを……チツ、行くか。」

マルス「行くよ。」

ルカリオ「行かなくては……。」

ルイージ「今までは、誰かに誘われて行ったけど、今回は、絶対に行く!!！」

逃走者全員がミッションに向かう!!！

地球の未来、そして、65億人以上の命は残る逃走者7人に託された!!！

果たして、地球を守ることが出来るのか!？

~~~~~

タブー「ピエロよ、消え失せる!!！」

即効^{そくこう}で、羽が再生したタブーが攻撃する。

ドナルド「フツ、フツ」

だが、ドナルドもダンスで避ける。

ドナルド「さつさと消えるのは君の方だよ!! Go Active
!!」

タブー「ヴアアア!! クツ・・・責様・・・」

アップアーを喰らったタブー、しかし、余裕の表情を見せている。

タブー「ピエロの人生に終止符を打ってやるよ・・・」

すると、突然、マスターとクレイジーがドナルドに攻撃する。

ドナルド「アラアツ!?!」

ドナルドは避けきれずダメージを負う。

ドナルド「君達まで裏切るのかい? ドナルドマジックで消してあげるよ」

マスター「ち、違う!! 私意志ではない!!」

クレイジー「な、何故か身体が勝手に・・・」

タブー「その通り、光の鎖で俺はこいつらを操っているのさ・・・」

ドナルド「アラアツ!?!」

タブー「お前には圧倒的不利な状況・・・3VS1でお前は勝てるのか?」

ドナルド「勿論さ 心が汚れた奴には、負ける気はしないんだ」
タブー「は！？根性だけは、良いようだな……。くたばれ!!」
3人がドナルドに攻撃した……。

~~~~~

残りゲーム時間23分。

残り7人。

残り逃走者

ルイーダ、ゼルダ、トウインリンク、スネーク、マルス、ファルコ、  
ルカリオ

ミッション終了まで、あと13分……。

## MISSION 11 (後書き)

このミッションには落とし穴があることを逃走者は知らない・・・。

MISSION 11 PART 2 (前書き)

頑張ろう、日本!!

MISSION 11 PART 2

ルカリオ「急がなければ……。」

大慌てでRランドに向かうルカリオ。

ハンター「!!！」

ルカリオ「あっ!!!しまっ……。」

ポンッ

ルカリオ確保、残り6人。

ルカリオ「鉢合わせ……うわぁ……ここで捕まるのかぁ!!  
?」

敵は、木星やタブーだけでは無い……。

ピリリー

ゼルダ「ルカリオ確保!?!こんな時に……。」

逃走者の数が少なくなるに連れ、ミッションも過酷になってしまっ。

ゼルダ「それにしても、Rランド……どっちっ……。」

ファルコ「大統領ってどんな奴だ……。」

木星が近づいているのに関わらず冷静なファルコ。

ファルコ「ここで、ルカリオみたいに捕まったらシャレになんねえな。」

トウーンリンク「一応、勇者だからね。リンクさんや子リンとは一味違うということを見て貰いたいね。」

歩きながら呟くトウーン。

目立ちたいという意識が吉と出るか、凶と出るか。

エリアには、6体のハンター。

動けばハンターに見つかるリスクが高まる。

スネーク「あれか？大統領……？」

多くの人が集まっている場所に来たスネーク。

中央にいるのが大統領だ。

国民1「あの水色の人が木星を動かしているんですか？」

大臣「どうやら・・・そうらしいんです。あの人から膨大なエネルギーが溜め込まれております。」

国民2「じゃあ、その人を止めれば良いじゃないですか!!」

国民3「たった1人ですよ!!」

スネーク「おい、大統領、どうすれば良いんだ。」

大統領「あの水色の方はどうやら木星から膨大な力を与えられているようです。」

スネーク「水色・・・ああ、タブーのことか？木星から力を貰っているってことか？」

大統領「そういうことになります。」

スネーク「ぬう・・・人が1人や2人集まっただけでは勝てそうに無いな・・・じゃあ、どうすれば良いんだ？」

大統領「さあ・・・？」

スネーク「・・・おい。」

少々、怒りを抱えるスネークに、



だが、タブーを倒すのに全力を注ぐということは、

「……………」

「……………」

そう、国家権力の力で封じ込まれていた2体のハンターが復活するということである。

再びハンターの数は合計8体となった。

ルイージ「通達……………？ええつ、『ハンター2体放出』！？」

ゼルダ「『ハンターの数は合計8体』……………まさか、これもタブーの仕業……………？」

~~~~~

ドナルド「……………！？な、なんだこのパワーは！？」

タブー「木星パワー！！！」

タブーの羽根から勢いよく光線が溢れ出る。

ドナルド「アラーツ！？」

マスター「ド、ドナルド！！！」

クレイジー「頼む……死ぬ……。」

マスターやクレイジーも攻撃を加えながら願う

タブー「他力本願は最高だ！！木星ファイヤー！！」

羽根からドラム缶ほどの極太の光線を数十回出すタブー

ドナルド「アラー……ッ！？」

倒れるドナルド

タブー「I'm winner！！ハッハッハッハ！！！！」

マスター「ぐ……。」

クレイジー「ムカつく奴だ……。」

残りゲーム時間21分。

残り6人。

ミッション終了まで、あと11分……。

MISSION 11 PART 2 (後書き)

タブーを止める方法はあるのか!?

MISSION 11 PART 3 (前書き)

これが、92話目となります。

長いなあ。。。。

MISSION 11 PART 3

大統領「ん〜・・・無いなあ・・・。」

大臣「何を探してるんですか？」

大統領「いや、木星が地球に衝突しないようにする本だよ。」

大臣「そんな都合の良い本ありませんよ!!!」

大統領「一応、ここにある本は全部探したけど・・・。」

大臣「桃太郎、楽しい英会話、百科事典、ヤマタノオロチの本、楽しい算数、スマブラの攻略本・・・全然、関係ないものばかりじゃないですか!!!」

大統領「そんなこと言われてもなあ・・・。」

大臣「真面目に探してください!!!」

大臣は本を全て投げ飛ばした。

牢獄

ヨッシー「木星が・・・大変なことになって来ましたね・・・。」

ガノンドロフ「恐らく、全員がミッション行ってるだろうな。ん？」

すると、突然、明るかった空が真っ暗になった

マリオ「な、なんだあ！？いきなり夜になったぞ！！」

メタナイト「そ、そうか！木星が太陽を隠してしまったから光が地球に届かなくなってしまったんだ！！」

暗くなったGERO国に街灯が次々と付き始める

ピチュー「ねえ、ドクター、そんなに木星って大きいのか？」

ドクターマリオ「かなりの大きさだ。地球との比較すると質量は318倍、直径は11倍、体積は1321倍の大きさだ。」

リュカ「ひえ〜・・・。」

ドクターマリオ「さらには、木星の衛星もたくさんあるからな。衛星の方が先にぶつかるんじゃないのか？」

ポポ「そんなあ・・・。」

「コレってアリ？」

ウルフ「無いと思いたいな・・・。」

スネーク「とりあえず、俺は大統領と一緒にいる。何かあったら連

絡するからな。」

マルス「じゃあ僕は、とりあえず、タブーの近くに行くよ。」

スネーク「気をつけろよ。」

別れるスネークとマルス。

しかし、2人に近づくと黒い影……。

ハンター「!!!」

見つかったのは、

スネーク「クソッ!!!」

スネークだ……。

瞬発力のあるスネーク、人ごみを利用しハンターとの距離を取る。

ハンター「……?」

上手く撒いたようだ……。

スネーク「ハンターのこと忘れてたな……。フウ……。」

ルイージ「真っ暗だとオバケが出そうで怖いなあ……。」

先程の勢いは何処へ行ってしまったのか、弱気になるルイージ。

だが、1歩1歩踏み出して前へと進む。

~~~~~

タブー「さて、お前を地球より1足先に消すとするか。」

マスターとクレイジーを操りながらそう言うタブー。

タブー「さて、最期はこの手袋にとどめを任すか。」

マスター・クレイジー「なっ!?!」

タブー「仲間が仲間に殺される・・・これほど良い殺られ方はないぞ!!--ハハハハ!--!!」

タブーがそう言うのと無意識にマスターとクレイジーは拳を握り締めドナルドに突撃して行った。

タブー「ダブルパンチ!!--」

マスター・クレイジー「逃げろおおお!!--ドナルドオオオオ!!!--」

ドナルド「う・・・。」

ドナルドは、ダメージが大きいのかマスター達を見たまま動かない。

・・・

すると、マスターとクレイジーの後ろに人影が出てきた。

幻覚でも見ているのだろうか・・・そう思った時だった。

???「天空!!」

ズバンという音と共に光の鎖は切れマスターとクレイジーはドナルドの目の前で墜落した。

タブー「な、何!?!」

ドナルド「な・・・何だ?誰?」

マスター「痛た・・・一体、何が・・・」

???「・・・」

クレイジー「まさか・・・アイク!!」

アイク「・・・」

後ろ姿だったが、確かにその姿はアイクだった。

マスター「何故だ!?!スマブラメンバーは辞めたからお前にはもう関係無いじゃないか!!逃げてても良いんだぞ!!」

アイク「確かに、スマブラメンバーは辞めた。」

クレイジー「じゃあ、何で!？」

アイク「だが・・・」

アイクは、マスター達の方を向きニツと笑った。

アイク「仲間ってことは変わりないだろ？」

マスター「・・・!!お前って奴は・・・。」

タブー「五月蠅い!!何が仲間だ!!さっさと死にやがれ!!このナルシストがあああ!!!!!!」

ドナルド「うん・・・水色変態露出魔はカルシウムが足りないのかな?よし、皆、行くよ!!」

3人「おう!!」

アイクにより、マスターとクレイジーはタブーから解放された。

タブーを倒すことは出来るのか!?

タブー「どうやら、真の力を見せなければならぬようだな・・・  
ククク・・・。」

~~~~~

残りゲーム時間18分。

残り6人。

ミッション終了まで、あと8分・・・。

MISSION 11 PART 3 (後書き)

次回、タブーの恐ろしさが最大限に・・・。

MISSION 11 PART 4 (前書き)

ようやく出来ました・・・。

MISSION 11 PART 4

ゼルダ「・・・何処かしら？此処・・・。」

ミッションとは全く別の方向へ向かっているゼルダ。

ゼルダ「あつ、宝箱!!」

Eランドにある未開封の最後の宝箱を発見。

ゼルダ「中は・・・？」

中には、ハンター停止装置

これを使えば、5分間だけエリアにいるハンターの半分を停止させることができる

ゼルダ「よし、これを使えば・・・。」

しかし、近づく来る黒い影

ハンター「!!」

ゼルダ「キャアツ!!」

ガシャンとレバーを引く、ゼルダ。

同時に4体のハンターが停止。

ゼルダ「……ええ!!!?止まってない!!!」

不幸にも、目の前のハンターは停止しなかった!!

ポンッ

ゼルダ確保、残り5人

ゼルダ「あゝ……悔しい……。」

ルイーダ「ゼルダ確保!?!」

トウインリンク「そして、ゼルダにより、ハンター4体が停止した・
・うわ……。惜しいなあ……。でも姫まで確保されるなん
て……。」

765

ファルコ「ん?マルスか。」

マルス「あつ、ファルコさん。」

タブーの場所に向かうマルスに会うファルコ

マルスは、ここまでのことを簡潔に話す

ファルコ「成る程……まあ、所長もバカなら大統領もバカか……。」

マルス「と、とにかく先に行きましょう!!!」

ドナルド「殺っちゃおう!!!」

タブー「それは、どうかな?」

タブーにエネルギーが集まって来ている。

マスター「何っ!?!」

クレイジー「避けるっ!!!」

マスターはドナルドを、クレイジーはアイクを助けた。

何とか避けきれたようだ。

アイク「な、なんだ・・・?」

次の瞬間、地面が大きな音と共に揺れた。

その揺れにドナルド達は構えた姿勢を崩されてた。

次に来たのは揺れではなく衝撃波そのものであった。

ドナルド達は崩された姿勢のまま二間半(約5メートル)程、後方に飛ばされた。

マスター「ま、まさか……。」

思わず声が出た。

それまで、心の中で考えていた思いがかき消される。

飛ばされただけではない、戦うと決めた心や、全ての方向に耐えるであろう完全な構えまで崩された。

ドナルドは大きく目を見開いて物体を見た。

そこには竜がいた。

いや、正確には、人間だったタブーが消え去り、神話の生き物、大^オ蛇と呼ぶのが正しい。

しかも、8つの頭を持つ。

クレイジー「大蛇^{オロチ}か……ヤマトノオロチ……」

ヤマトノオロチとは神話の時代の化け物。

出雲に住む妖怪である。

ドナルドは急いで体勢を整えようとするが、左肩の痛みが動きを鈍くしている。

それだけではなく、先ほどの衝撃波に飛ばされた拍子に、利き足である右の足首さえも痛めたようだ。

立ち上がることが出来ない。

光る鱗うろこ

ぬめる体表

身体の表面にはいたる所にコケが生えている。

身は1つだが頭は8つ、尾も8つ

赤くホオズキのように輝く16の瞳

体長は、六丈（16m）はあるうか、確かに伝説のヤマタノオロチである。

1つの頭はそれぞれ人の背丈ほどはある。

大きく裂けた口は、楽に人の頭を飲みこむ大きさだ。

突然現れたオロチは、その8つの頭を交互に、あるいは同時に左右に降りながらドナルドの元に近づいてくる。

ドナルド「ハゲタブーは、人間じゃなかったのか……でも、殺られる訳にはいかないんだ……。」

ドナルドは、そう言いながら、何とか左右に体重を乗せ立ち上がる。

残りゲーム時間16分。

残り5人。

ミッション終了まで、あと6分・・・。

残り逃走者

ルイージ、トウリンリンク、スネーク、マルス、ファルコ

M I S S I O N 1 1 P A R T 4 (後書き)

この危機的状况を乗り越えられるのか!?

次回、激闘!!

MISSION 11 PART 5 (前書き)

ようやく更新です!!

MISSION 11 PART 5

スネーク「ヤマタノオロチだと!? 木星が迫って来ているというのに・・・!!」

真つ暗闇の上空を見上げ、驚くスネーク

大統領「なんだあのデカイ化け物は・・・？」

大臣「あの化け物が来たらもう国は・・・。」

大統領「もうどうしようもないのか・・・あ！」

大臣「どうしました？」

大統領「さつき、ヤマタノオロチの本があつたぞ!!!」

大臣「あつ、そういえば、私が投げ飛ばした中であつたような・・・」

スネーク「探しに行くぞ!!!」

探してみると、ヤマタノオロチの本はスマブラの攻略本の下敷きになっていた。

大統領は、ページを素早くめくる

大統領「このページだ!!!」

大統領が指を指した所には、『神話ではスサノオノミコトに酒を飲まされ酔った所を殺された』と書かれている

スネーク「酒か!？」

大統領「そうみたいだ、早速、居酒屋かバーに連絡する。」

ジーコ、ジーコという音を鳴らし、電話する大統領

酒屋「はい、今は、注文は承っておりませんが……。」

大統領「おい、大統領様だ!! アルコール濃度が高いタル酒を持って店の前に入る!! 分かったな!!」

酒屋「ええ!？」

大統領「強制だ、即効で頼むぞ!!」

酒屋「ちょ、ちょっと!!」

大臣「……強引だ。」

大統領「今、ヤマタノオロチのいる真下の酒屋に連絡した。そこで、タル酒を受け取って、あの化け物を退治してくれ!!」

スネーク「任務を引き受けた。」

電話をするスネーク

マルス「あつ、スネークからだ。もしもし」

スネーク「おう、あの化け物を蹴散らす方法が分かった。」

マルス「えつ、本当!？」

スネーク「酒だ、お前の近くに居酒屋があるだろ？」

マルス「えつ、居酒屋？」

辺りを見渡すマルス。

隣に居たファルコが店のシャッターが開いた店に目が留まった。

ファルコ「マルス、あれだ。タル酒を運んでいる。」

電話をする2人に、ハンターが接近。

マルス「ああ、あつたよ。『くそ祖魔^{すま}酒屋』ね。」

スネーク「酷い名前だな・・・そこに行ってあの化け物を酔わすんだ。」

マルス「そんな方法で大丈夫なの?不安だけど・・・。」

スネーク「大丈夫だ、じゃあ、頼むぞ。うわああっ!!」

見つかったのはスネーク。

マルス「え?スネーク・・・?切れた。」

スネーク「チツ！！半分、停止しているっつーのに！！」

スネークを追うハンター、逃げた先に

ルイーダ「ん？スネーク？・・・ちよ、連れて来ないでえええええ！！」

ルイーダもつられて逃げる

別々に逃げる2人、ハンターが狙いを定めているのは追いついていくスネーク。

ポンッ

スネーク「うわっ！？」

スネーク確保、残り4人

スネーク「こんな所か・・・。」

トウリンク「『スネーク確保』！？ハンター4体なのに・・・悔しいなあ、『さらに、5分が経過したため、ハンターが再起動。』
最悪・・・。」

マルス「やっぱり、追われていたんだ・・・。」

ファルコと共に酒屋に向かうマルス

酒屋「おう、受取人はお前らか。金は良いから早く行け!!」

マルス「わ、分かりました!!」

ファルコ「恩に着るぜ。」

マルス、ファルコ、タル酒を獲得。

マルス「うわ、重い・・・。」

ファルコ「早く行くぞ、地球が・・・。」

タルの重さはおよそ10kg

持ち運ぶのは容易ではない

~~~~~

ヤマタノオロチが身構える。

ぬめる体表からいやな匂いが漂ってくる。

マスター達の心は静かな水面のようだ。

ヤマタノオロチの動きに対し、動くままに任せようと心を決めた。

八つの頭の大蛇オロチが身構える。

飛びかかれるまでの瞬間が、覚悟を決めたとはいえ、永遠の時に

感じる。

アイク「さあ、来い・・・俺は・・・逃げない。」

気力を絞り、左足を前にし左半身で剣を顔の正面に立てた。

疾風が襲ってくる。

その疾風はヤマタノオロチの熱い息吹も含んだ風。

次から次へと襲ってくる。

大きく開かれた口を、三つまではアイクが剣で防いだ。

しかし、そのたびに、飛び散った鱗と折れた牙が4人の身体に突き刺さる。

遠距離攻撃の دونالدマジックも妨げられてしまう。

マスター達、4人は体力の限界が訪れていた。

もう一撃か二撃をかわすのが限界であろう。

1つ1つの攻撃の圧力が凄い。

重量感あふれる攻撃で、受けるたびに全身の骨が悲鳴をあげる。

あんなに、余裕だった Donaldの顔は笑顔さえも見せなくなった。

4人は自分の死を、そして、世界の終わりを確信した。

~~~~~

残りゲーム時間12分。

残り4人、対するハンターは8体。

ミッション終了、そして、地球の最期まで、あと2分・・・。

残り逃走者

ルイージ、トウインリンク、マルス、ファルコ

MISSION 11 PART 5 (後書き)

次回、ついにミッション完結!!

果たして、地球の未来は・・・?

MISSION 11 PART 6 (前書き)

ミッションが終了します。

MISSION 11 PART 6

ミッション終了まで残り2分を切った。

このままでは、木星の重力に地球が逆らえず、強制失格となってしまう。

果たして、阻止することが出来るのか!?

ルイージ「うわっ!! 凄い風!!」

木星が近づいて来ているせいか重力により、大きな風が吹き始めた。

ルイージ「ん・・・あれは、マルス達だ!!」

近くにいるマルス達を発見したルイージ、ハンターがいないのを確認し、2人の元へ向かう

ファルコ「うわっ!?!?び、びっくりした・・・お前かよ。ハンターかと思っただじゃねえか。」

ルイージ「やっぱり、暗いからそう思っちゃうよね。」

夕方だが、木星により完全に太陽がシャットアウト。

寒さと恐怖心が逃走者の体力を削る。

ルイージに樽酒のことを話すとルイージは快く手伝いを引き受けた。

マルス「と、とりあえず行きましょう!!」

3人で樽酒を持ち、タブーを阻止するために動く。

牢獄

マリオ「うわあっ!?!あと1分!!」

ピチュー「風がもの凄いね……。」

プリン「キャアッ!?!目にゴミが……。」

スネーク「後はもうあいつらに任せるしかない、祈るだけだ。」

ネス「なんか見ているだけっていうのも歯がゆい……。」

マルス「あれ……かな?」

ヤマタノオロチを発見したマルス

ファルコ「突っ走るぜ!!」

ミッション終了まであと1分

アイク「ここまでか・・・金なんかで裏切った俺を許してくれ・・・」

ヤマタノオロチが大きな口を開けた瞬間だった

「アイク！」

「アイク・・・」

「・・・アイク」

意識を保っていたつもりだったのにおかしくなってしまったのだろうか。

どこかでいつも耳にしていた懐かしい叫びが聞こえた気がした。

そう思った時である。

今まで一気に襲ってきたヤマタノオロチの攻撃が止まった。

それどころか、頭の向きを反対に変えようとしている。

アイク「まさか・・・皆！！」

声を限りに叫んだ。

確かに皆の声。

「うりゃー」

その声と共に、いくつかの鱗が舞っている。

ヤマタノオロチも油断していたせいか、一方的だった。

暗闇の中で飛び散る鱗が、命のやりとりをしている中で散り舞い行く八重桜の花びらに見える。

マルス「遅かったか・・・？生きてる？待たせたね。」

ルイージ「な・・・何なの！？この化け物は！？」

ファルコ「ヤマタノオロチか・・・化け物だな、それを目の前にしているお前らも化け物だ。」

ミッション終了まであと30秒

マスター「お前ら・・・。」

ファルコ「おっと、酒のことを忘れていたな。」

再びヤマタノオロチがマルス達に襲い掛かっていたが冷静なファルコは乱暴に口に樽ごと酒を放り込む。

国中に響き渡るような叫び声を出し倒れていくヤマタノオロチ。

ブクブクと泡のように消えて行った・・・。

そして、酷い強風が止み、太陽が姿を見せた。

木星が地球から離れ、元の軌道に戻る。

ルイージ「・・・やったあ！！」

ミッションクリア

マスター「よく来てくれたな、流石、俺の認めたメンバーだ。」

ファルコ「偉そうに良いやがって。」

3人は逃げ切りを誓い、この場から去った。

マルス「よし、あと10分も無いね。」

トゥーンリンク「凄い、空が晴れた！！皆、やってくれたんだ！！」

牢獄

リンク「ルイージ、ファルコ、マルスの活躍によりミッションクリア！！」

歓喜の声が拳がる牢獄

オリマー「やっぱり、皆さん流石ですね！！」

ゼルダ「後は逃げ切るだけね!!」

ソニック「COOLに決めて欲しいな!!」

~~~~~

ドナルド「やっぱり、君達の絆は凄いな。」

マスター「えっ?そうか?」

ドナルド「頼れる仲間がいるってことは素晴らしいことだよ。」

クレイジー「おいおい、照れるな・・・待てっ!!」

ドナルド「まさか・・・。」

空中からタブーが姿を現した。

タブー「あ、危なかった・・・木星を操作する力は失ったがパワーはまだまだ俺の方が上!!瀕死状態のお前なら今の俺様でも倒せる。」

マスター「くっ・・・これで終わりだと思ってたら・・・。」

クレイジー「やはり・・・地球は終わってしまうのか?」

ドナルド「ん?あれは・・・?」

マスター「あ、あれはスマッシュボール!!」

上空に光り輝く球体が確認出来る

クレイジー「大逆転可能なスマッシュボール！！アイク！！頼む！！」

ドナルド「アイクなら、さっきの強風で飛んで行ってゴミ箱に顔を突っ込んでるよ。」

マスター・クレイジー「使えねー！！！」

タブー「こんなボール、俺が壊してやる！！！」

タブーが鎖でボールを破ろうとした、

しかし、スマッシュボールはタブーの目の前で割れ、何かが飛んできた

タブー「これは・・・あの爺さんのステッキ・・・。」

ドナルド「勿論さ。」

ドナルドが懐にしまっていたカーネルのステッキ。

こんな所で役にたっている

マスター「ドナルドが取った・・・？」

クレイジー「・・・ってことは、ドナルドの最後の切り札？」



マスター・クレイジー「……。」

~~~~~

トウリンク「逃げ切ったら370万だね……。」

ゲーム時間も残り9分となった。

残る逃走者は4人、対するハンターは倍の8体。

逃げ切ることが出来るのか!?

ファルコ「何かよ、信じられないぜ、この俺がこんな長く生き残ってるなんてな。」

危険を顧みず、ほぼ全てのミッションに参加したファルコ。

逃げ切って初の逃走成功を狙う。

マルス「やっぱり、自分の力だけでは無いんですよね。皆の分まで頑張らないと……。」

全員の気持ちを噛みしめ、逃げ切りを誓うマルス。

ルイージ「兄さんや巻き添えにしちゃった人達に分まで……僕は

逃げ切る。」

消極的ながらも、勇敢にミッションに取り組んだルイーダ。

トウーンリンク「ここで油断は禁物なんです。」

何度もハンターを隠れてやり過ごした小柄な勇者。

トウーンリンク「・・・ほら、ハンター来たでしょ。」

いち早く移動するトウーンリンク。

しかし、その移動をハンターに見つかった。

トウーンリンク「うわあ！？来たああ！！」

近くの歩道橋で姿を隠すトウーンリンク。

再び、ハンターが接近。

トウーンリンク「・・・うわあ！！」

再び見つかった・・・。

トウーンリンク「グ・・・うわっ！？」

トウーン、転倒。

ポンッ

トウーんリンク確保、残り3人

トウーんリンク「悔しいなあ・・・あと8分半だったのかぁ・・・」

「

マルス「『Rランド歩道橋付近でトウーんリンク確保、残り3人』

ルイージ「えっ？ここ近いよ？離れよう・・・。」

これで残る逃走者は、ルイージ、マルス、ファルコの3人となった。

残りゲーム時間は8分

逃げ切れるのか!?

MISSION 11 PART 6 (後書き)

残りゲーム時間は8分。

悲願の逃走成功者は現れるのか!?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3627n/>

第2回スマブラ×逃走中

2011年12月31日01時51分発行